



Informatica® Data Integration Hub
10.5

Getting Started

Informatica Data Integration Hub Getting Started

10.5

2021 年 4 月

© 著作権 Informatica LLC 2014, 2021

本ソフトウェアおよびマニュアルは、使用および開示の制限を定めた個別の使用許諾契約のもとでのみ提供されています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複製、写真複製、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。

米政府の権利プログラム、ソフトウェア、データベース、および関連文書や技術データは、米国政府の顧客に配信され、「商用コンピュータソフトウェア」または「商業技術データ」は、該当する連邦政府の取得規制と代理店固有の補足規定に基づきます。このように、使用、複製、開示、変更、および適応は、適用される政府の契約に規定されている制限およびライセンス条項に従うものとし、政府契約の条項によって適当な範囲において、FAR 52.227-19、商用コンピュータソフトウェアライセンスの追加権利を規定します。

Informatica、Informatica ロゴ、Informatica Cloud、PowerCenter、PowerExchange および Data Engineering Integration は、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。Informatica の商標の最新リストは、Web (<https://www.informatica.com/trademarks.html>) にあります。その他の企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

本ソフトウェアまたはドキュメンテーション（あるいはその両方）の一部は、第三者が保有する著作権の対象となります。必要な第三者の通知は、製品に含まれています。

特許については、<https://www.informatica.com/legal/patents.html> を参照してください。

免責: 本文書は、一切の保証を伴わない「現状渡し」で提供されるものとし、Informatica LLC は他社の権利の非侵害、市場性および特定の目的への適合性の黙示の保証などを含めて、一切の明示的および黙示的保証の責任を負いません。Informatica LLC では、本ソフトウェアまたはドキュメントに誤りのないことを保証していません。本ソフトウェアまたはドキュメントに記載されている情報には、技術的に不正確な記述や誤植が含まれる場合があります。本ソフトウェアまたはドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。

NOTICES

この Informatica 製品（以下「ソフトウェア」）には、Progress Software Corporation（以下「DataDirect」）の事業子会社である DataDirect Technologies からの特定のドライバ（以下「DataDirect ドライバ」）が含まれています。DataDirect ドライバには、次の用語および条件が適用されます。

1. DataDirect ドライバは、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。
2. DataDirect または第三者は、予見の有無を問わず発生した ODBC ドライバの使用に関するいかなる直接的、間接的、偶発的、特別、あるいは結果的損害に対して責任を負わないものとします。本制限事項は、すべての訴訟原因に適用されます。訴訟原因には、契約違反、保証違反、過失、厳格責任、詐称、その他の不法行為を含みますが、これらに限るものではありません。

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントで問題が見つかった場合は、infa_documentation@informatica.com までご報告ください。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2021-06-28

目次

序文	8
Informatica のリソース	8
Informatica Network	8
Informatica ナレッジベース	8
Informatica マニュアル	8
Informatica 製品可用性マトリックス	9
Informatica Velocity	9
Informatica Marketplace	9
Informatica グローバルカスタマサポート	9
第 1 章 : Data Integration Hub の概要	10
Data Integration Hub の概要	10
Data Integration Hub Big Data	12
アプリケーションの概要	13
トピックの概要	13
Data Integration Hub のパブリケーションとサブスクリプション	14
パブリケーションの概要	14
サブスクリプションの概要	14
オペレータユーザーのロール	15
操作コンソール	15
操作コンソールの言語の変更	15
Data Integration Hub の概要図	16
第 2 章 : Data Integration Hub の基本操作	18
スタートガイドの概要	18
手順 1. Data Integration Hub 操作コンソールへのログイン	18
手順 2. Data Integration Hub アプリケーションの作成	19
第 3 章 : トピックの作成	20
トピックの作成の概要	20
リレーショナルデータベースパブリケーションリポジトリを使用したトピックの作成	22
手順 1. [新規リレーショナルデータベーストピック] ウィザードへのアクセス	22
手順 2. 基本的なトピックプロパティの定義	22
手順 3. トピックのデータ構造の作成	23
手順 4. トピックテーブルのリレーションの定義	28
手順 5. データ保持期間と格納場所の定義	28
手順 6. トピックの権限の割り当て	29
手順 7. トピックの設定の確認およびトピックの保存	29
Hadoop パブリケーションリポジトリを使用したトピックの作成	29
手順 1. [新規 Big Data トピック] ウィザードへのアクセス	30

手順 2. 基本的なトピックプロパティの定義.	30
手順 3. トピックのデータ構造の作成.	30
手順 4. トピックテーブルのリレーションの定義.	34
手順 5. データ保持期間の定義.	35
手順 6. トピックの権限の割り当て.	35
手順 7. トピックの設定の確認およびトピックの保存.	36
ファイルストアパブリケーションリポジトリを使用するトピックの作成.	36
手順 1. [新規ファイルストアトピック] ウィザードへのアクセス.	36
手順 2. 基本的なトピックプロパティの定義.	36
手順 3. トピックのデータ構造の作成.	37
手順 4. トピックテーブルのリレーションの定義.	37
手順 5. データ保持期間と格納場所の定義.	38
手順 6. トピックの権限の割り当て.	39
手順 7. トピックの設定の確認およびトピックの保存.	39
リアルタイムパブリケーションリポジトリを使用したトピックの作成.	39

第 4 章 : パブリケーションの作成. 41

パブリケーション作成の概要.	41
自動リレーショナルデータベースパブリケーションの作成.	42
手順 1. [自動データベースパブリケーションの作成] ウィザードへのアクセス.	42
手順 2. 基本的なパブリケーションプロパティの定義.	42
手順 3. パブリケーションソースの選択.	43
手順 4. パブリケーションのフィールドマッピングの表示と編集.	43
手順 5. フィルタの定義.	45
手順 6. パブリケーションスケジュールの定義.	46
手順 7. パブリケーション権限の割り当て.	47
手順 8. パブリケーションの設定の確認およびパブリケーションの保存.	47
自動フラットファイルパブリケーションの作成.	47
手順 1. [自動ファイルパブリケーションの作成] ウィザードへのアクセス.	48
手順 2. 基本的なパブリケーションプロパティの定義.	48
手順 3. パブリケーションソースの選択と設定.	49
手順 4. 結合の定義.	51
手順 5. パブリケーションのフィールドマッピングの表示と編集.	51
手順 6. フィルタの定義.	53
手順 7. パブリケーションスケジュールの定義.	54
手順 8. パブリケーション権限の割り当て.	55
手順 9. パブリケーションの設定の確認およびパブリケーションの保存.	55
自動パススルーファイルパブリケーションの作成.	55
手順 1. [自動パススルーファイルパブリケーションの作成] ウィザードへのアクセス.	56
手順 2. 基本的なパブリケーションプロパティの定義.	56
手順 3. パブリケーションソースの設定.	56
手順 4. パブリケーションスケジュールの定義.	57
手順 5. パブリケーション権限の割り当て.	58

手順 6. パブリケーションの設定の確認およびパブリケーションの保存.	58
自動データドリブンパブリケーションの作成.	58
手順 1. [自動クラウドパブリケーションの作成] ページへのアクセス.	59
手順 2. パブリケーションプロパティの定義.	59
手順 3. パブリケーションを実行する要求の作成.	60
カスタムバッチパブリケーションの作成.	61
手順 1. [カスタムバッチパブリケーションの作成] ウィザードへのアクセス.	61
手順 2. 基本的なパブリケーションプロパティの定義.	61
手順 3. パブリケーションワークフローの選択.	62
手順 4. パブリケーションスケジュールの定義.	62
手順 5. パブリケーション権限の割り当て.	63
手順 6. パブリケーションの設定の確認およびパブリケーションの保存.	63
カスタムマルチレイトンシーパブリケーションの作成.	64
手順 1. [カスタムバッチパブリケーションの作成] ウィザードへのアクセス.	64
手順 2. 基本的なパブリケーションプロパティの定義.	65
手順 3. パブリケーションワークフローの選択.	65
手順 4. パブリケーション間隔の定義.	65
手順 5. パブリケーション権限の割り当て.	65
手順 6. パブリケーションの設定の確認およびパブリケーションの保存.	66
カスタムクラウドパブリケーションの作成.	66
手順 1. [カスタムクラウドパブリケーション] ウィザードへのアクセス.	66
手順 2. 基本的なパブリケーションプロパティの定義.	67
手順 3. パブリケーションマッピングの選択.	67
手順 4. パブリケーションスケジュールの定義.	67
手順 5. パブリケーション権限の割り当て.	68
手順 6. パブリケーションの設定の確認およびパブリケーションの保存.	68
カスタムパススルー Kafka パブリケーションの作成.	68
手順 1: [カスタムパススルー Apache Kafka パブリケーションの作成] ページへのアクセス.	69
手順 2. パススルー Kafka パブリケーションプロパティの定義.	69
モジュール式クラウドパブリケーションの作成.	70
1. [自動クラウドパブリケーションの作成] ウィザードへのアクセス.	70
手順 2. 基本的なパブリケーションプロパティの定義.	70
手順 3. パブリケーションマッピングの選択.	71
手順 4. パブリケーションソースの設定.	71
手順 5. パブリケーションターゲットの設定.	71
手順 6. パブリケーションパラメータの設定.	71
手順 7. パブリケーションフィールドマッピングの設定.	72
手順 8. パブリケーションスケジュールの定義.	72
手順 9. パブリケーション権限の割り当て.	73
手順 10. パブリケーションの設定の確認およびパブリケーションの保存.	73
第 5 章: サブスクリプションの作成.	74
サブスクリプション作成の概要.	74

自動リレーショナルデータベースサブスクリプションの作成.	75
手順 1. [自動データベースサブスクリプションの作成] ウィザードへのアクセス.	75
手順 2. 基本的なサブスクリプションプロパティの定義およびトピックの選択.	76
手順 3. ポストプロセスワークフローの選択.	76
手順 4. 結合の定義.	76
手順 5. サブスクリプションターゲットの選択.	77
手順 6. サブスクリプションフィールドマッピングの確認と編集.	77
手順 7. フィルタの定義.	78
手順 8. サブスクリプションスケジュールの定義.	79
手順 9. 配信オプションの定義.	80
手順 10. サブスクリプション権限の割り当て.	81
手順 10. サブスクリプションの設定の確認およびサブスクリプションの保存.	81
自動フラットファイルサブスクリプションの作成.	81
手順 1. [自動フラットファイルサブスクリプションの作成] ウィザードへのアクセス.	82
手順 2. 基本的なサブスクリプションプロパティの定義およびトピックの選択.	82
手順 3. ポストプロセスワークフローの選択.	83
手順 4. 結合の定義.	83
手順 5. サブスクリプションターゲットの選択と設定.	83
手順 6. サブスクリプションフィールドマッピングの確認と編集.	85
手順 7. フィルタの定義.	86
手順 8. サブスクリプションスケジュールの定義.	87
手順 9. 配信オプションの定義.	88
手順 10. サブスクリプション権限の割り当て.	88
手順 10. サブスクリプションの設定の確認およびサブスクリプションの保存.	88
自動パススルーファイルサブスクリプションの作成.	89
手順 1. [自動パススルーファイルサブスクリプションの作成] ウィザードへのアクセス.	89
手順 2. 基本的なサブスクリプションプロパティの定義およびトピックの選択.	90
手順 3. ポストプロセスワークフローの選択.	90
手順 4. サブスクリプションターゲットの設定.	90
手順 5. フィルタの定義.	91
手順 6. サブスクリプションスケジュールの定義.	92
手順 7. 配信スコープの定義.	93
手順 8. サブスクリプション権限の割り当て.	93
手順 9. サブスクリプションの設定の確認およびサブスクリプションの保存.	93
自動データドリブンサブスクリプションの作成.	93
手順 1. [自動クラウドサブスクリプションの作成] ページへのアクセス.	94
手順 2. サブスクリプションプロパティの定義.	94
手順 3. サブスクリプションを実行する要求の作成.	95
カスタムバッチサブスクリプションの作成.	95
手順 1. [カスタムバッチサブスクリプションの作成] ウィザードへのアクセス.	96
手順 2. 基本的なサブスクリプションプロパティの定義およびトピックの選択.	96
手順 3. サブスクリプションワークフローの選択.	97

手順 4. サブスクリプションスケジュールの定義.	97
手順 5. サブスクリプション権限の割り当て.	98
手順 6. サブスクリプションの設定の確認およびサブスクリプションの保存.	98
カスタムクラウドサブスクリプションの作成.	98
手順 1. [カスタムクラウドサブスクリプション] ウィザードへのアクセス.	99
手順 2. 基本的なサブスクリプションプロパティの定義およびトピックの選択.	99
手順 3. サブスクリプションマッピングの選択.	100
手順 4. サブスクリプションスケジュールの定義.	100
手順 5. サブスクリプション権限の割り当て.	100
手順 6. サブスクリプションの設定の確認およびサブスクリプションの保存.	101
カスタムパススルー Kafka サブスクリプションの作成.	101
手順 1. [カスタムパススルー Kafka サブスクリプションの作成] ページへのアクセス.	101
手順 2. 基本的なサブスクリプションプロパティの定義.	102
モジュール式クラウドサブスクリプションの作成.	102
手順 1. [モジュラークラウドサブスクリプション] ウィザードへのアクセス.	103
手順 2. 基本的なサブスクリプションプロパティの定義およびトピックの選択.	103
手順 3. サブスクリプションマッピングの選択.	103
手順 4. サブスクリプションソースの設定.	104
手順 5. サブスクリプションターゲットの設定.	104
手順 6. サブスクリプションパラメータの設定.	104
手順 7. サブスクリプションフィールドマッピングの設定.	104
手順 8. サブスクリプションスケジュールの定義.	105
手順 9. サブスクリプション権限の割り当て.	105
手順 10. サブスクリプションの設定の確認およびサブスクリプションの保存.	106
付録 A: 用語解説.	107
索引.	111

序文

『Data Integration Hub 入門ガイド』のレッスンを完了して、Data Integration Hub 操作コンソールの基礎を学びます。チュートリアルでは、Data Integration Hub 操作コンソールへのログイン方法と、アプリケーション、トピック、パブリケーション、およびサブスクリプションの作成方法を説明します。

Informatica のリソース

Informatica は、Informatica Network やその他のオンラインポータルを通じてさまざまな製品リソースを提供しています。リソースを使用して Informatica 製品とソリューションを最大限に活用し、その他の Informatica ユーザーや各分野の専門家から知見を得ることができます。

Informatica Network

Informatica Network は、Informatica ナレッジベースや Informatica グローバルカスタマサポートなど、多くのリソースへの入口です。Informatica Network を利用するには、<https://network.informatica.com> にアクセスしてください。

Informatica Network メンバーは、次のオプションを利用できます。

- ナレッジベースで製品リソースを検索できます。
- 製品の提供情報を表示できます。
- サポートケースを作成して確認できます。
- 最寄りの Informatica ユーザーグループネットワークを検索して、他のユーザーと共同作業を行えます。

Informatica ナレッジベース

Informatica ナレッジベースを使用して、ハウツー記事、ベストプラクティス、よくある質問に対する回答など、製品リソースを見つけることができます。

ナレッジベースを検索するには、<https://search.informatica.com> にアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム (KB_Feedback@informatica.com) です。

Informatica マニュアル

Informatica マニュアルポータルでは、最新および最近の製品リリースに関するドキュメントの膨大なライブラリを参照できます。マニュアルポータルを利用するには、<https://docs.informatica.com> にアクセスしてください。

製品マニュアルに関する質問、コメント、ご意見については、Informatica マニュアルチーム (infa_documentation@informatica.com) までご連絡ください。

Informatica 製品可用性マトリックス

製品可用性マトリックス (PAM) には、製品リリースでサポートされるオペレーティングシステム、データベースなどのデータソースおよびターゲットが示されています。Informatica PAM は、<https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices> で参照できます。

Informatica Velocity

Informatica Velocity は、Informatica プロフェッショナルサービスが開発したヒントとベストプラクティスのコレクションで、多数のデータ管理プロジェクトから得た実体験に基づいています。Informatica Velocity には、世界中の組織と連携してデータ管理ソリューションを計画、開発、デプロイ、管理する Informatica コンサルタントによる集合知を表しています。

Informatica Velocity リソースには、<http://velocity.informatica.com> からアクセスしてください。Informatica Velocity についての質問、コメント、またはアイデアがある場合は、ips@informatica.com から Informatica プロフェッショナルサービスにお問い合わせください。

Informatica Marketplace

Informatica Marketplace は、お使いの Informatica 製品を拡張したり強化したりするソリューションを検索できるフォーラムです。Marketplace で、Informatica デベロッパーやパートナーからの多数のソリューションを活用すれば、生産性を向上したり、プロジェクトでの実装時間を短縮したりできます。Informatica Marketplace は、<https://marketplace.informatica.com> からアクセスしてください。

Informatica グローバルカスタマサポート

電話または Informatica Network からグローバルサポートセンターに連絡できます。

各地域の Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica Web サイト (<https://www.informatica.com/services-and-training/customer-success-services/contact-us.html>) を参照してください。

Informatica Network でオンラインサポートリソースを見つけるには、<https://network.informatica.com> にアクセスし、eSupport オプションを選択します。

第 1 章

Data Integration Hub の概要

この章では、以下の項目について説明します。

- [Data Integration Hub の概要, 10 ページ](#)
- [Data Integration Hub Big Data, 12 ページ](#)
- [アプリケーションの概要, 13 ページ](#)
- [トピックの概要, 13 ページ](#)
- [Data Integration Hub のパブリケーションとサブスクリプション, 14 ページ](#)
- [オペレータユーザーのロール, 15 ページ](#)
- [操作コンソール, 15 ページ](#)
- [Data Integration Hub の概要図, 16 ページ](#)

Data Integration Hub の概要

Data Integration Hub は、組織内の異なるアプリケーション間でデータの共有と同期に使用できるアプリケーション統合ソリューションです。

データを Data Integration Hub にパブリッシュするには、まず、管理するデータセット（販売、顧客、注文など）を定義します。データセットは、トピックを定義することによって定義します。トピックは、Data Integration Hub がパブリケーションリポジトリに格納するデータの構造と、データを格納するパブリケーションリポジトリのタイプを定義します。Data Integration Hub では、さまざまなデータセットを表すトピックを複数管理できます。アプリケーションは、トピックにデータをパブリッシュし、トピックによって表されるデータセットにサブスクライブします。

複数のアプリケーションが同じトピックにパブリッシュできます。例えば、別々の注文アプリケーションが、それぞれの注文を同じ注文トピックにパブリッシュできます。複数のサブスクライバが 1 つのトピックのデータをコンシュームすることができます。サブスクライブするアプリケーションは、定義されているスケジュールに基づき、異なる形式と待ち時間でデータをコンシュームすることができます。

Data Integration Hub は、アプリケーションがトピックにパブリッシュするデータを、Data Integration Hub パブリケーションリポジトリに格納します。Data Integration Hub は、すべてのサブスクライバがデータをコンシュームし、保持期限が切れるまでデータをパブリケーションリポジトリに保持し、その後パブリケーションリポジトリからデータを削除します。

アプリケーションは、PowerExchange (R) アダプタおよび Informatica Intelligent Cloud ServicesSMコネクタを使用して、データベーステーブル、ファイル、Informatica がサポートする任意のソースなどの、さまざまなソースからのデータを共有します。各アプリケーションは、さまざまなトピックのパブリッシャーおよびサブスクライバとして機能します。

パブリケーションは、特定トピックに対してパブリッシュします。パブリケーションは、データソースタイプと、アプリケーションがパブリッシュするデータを Data Integration Hub が取得する場所を定義します。サブスクリプションは、1 つ以上のトピックをサブスクライブします。サブスクリプションは、データターゲットタイプと、パブリッシュされたデータを Data Integration Hub が送信するサブスクライブするアプリケーション内の場所を定義します。

パブリケーションまたはサブスクリプションを作成するときには、自動 Data Integration Hub マッピングまたはカスタム Data Integration Hub マッピングを使用することを選択できます。Data Integration Hub は、トピックで定義されるデータ構造に基づいて自動マッピングを作成します。Data Integration Hub のカスタムマッピングは、開発者がパブリケーションまたはサブスクリプション用に作成および保持する、PowerCenter (R) ワークフロー、Data Engineering Integration マッピング、またはデータ統合タスクに基づいています。

Data Integration Hub 演算子は Enterprise Data Catalog を使用して、既存の Data Integration Hub オブジェクトを検出および利用し、エンタープライズ内の他のエンティティでのリネージュおよび影響を理解します。

例

大手の小売チェーンのためにデータセンターを管理しているとします。メインオフィスには複数のアプリケーションがあります。アプリケーションはオンプレミスまたはクラウドにあります。各小売支店には、POS (point-of-sale) アプリケーションと在庫アプリケーションがあります。アプリケーションおよび支店では、次のデータが必要です。

顧客サービスアプリケーション

最新の顧客注文データが必要です。

販売アプリケーション

最新の製品販売データが必要です。

マーケティングアプリケーション

週次取引レポートが必要です。

アカウンティングアプリケーション

月次取引レポートが必要です。

支店アプリケーション

最新の在庫データと価格データが必要です。

ビジネスインテリジェンス (BI) アプリケーション

販売およびマーケティングデータと、企業の Web サイトのユーザー操作データに関して、直前の 12 か月間の週次レポートが必要です。

Data Integration Hub を使用すると、以下の場合に対処できます。

製品のカatalogと価格を共有する。

販売部署からの製品価格の最新情報を次のように各支店と共有できます。

1. 製品トピックを作成します。
2. Product Information Management (PIM) アプリケーション用に、製品の詳細と価格を製品トピックにパブリッシュするパブリケーションを定義し、毎日データをパブリッシュするようにスケジュールを設定します。
3. 各支店アプリケーション用に、製品トピックに対するサブスクリプションを定義し、パブリッシュされたデータが Data Integration Hub で使用できるようになった時点でそのデータを使用するようにサブスクリプションを設定します。

毎日の販売詳細を共有する。

店舗から受け取る毎日の販売詳細を、主要販売アプリケーションと顧客サービスアプリケーションで次のように共有できます。

1. 販売トピックを作成します。
2. 各支店アプリケーション用に、販売トピックに対するパブリケーションを定義し、毎日公開するようにスケジュールを設定します。
3. 販売アプリケーション用に、販売トピックに対するサブスクリプションを定義し、データが公開される時点でそのデータを使用するようにスケジュールを設定します。
4. 顧客サービスアプリケーション用に、販売トピックに対するサブスクリプションを定義し、週に1度データをコンSUMするにスケジュールを設定します。

Salesforce の取引の詳細を共有します。

Salesforce クラウドアプリケーションの取引の詳細をマーケティングアプリケーションやアカウントティングアプリケーションと次のように共有できます。

1. 取引トピックを作成します。
2. Salesforce アプリケーション用に、取引トピックに対するクラウドパブリケーションを定義し、毎週パブリッシュするようにスケジュールを設定します。
3. マーケティングアプリケーション用に、取引トピックに対するサブスクリプションを定義し、週に1度データをコンSUMするにスケジュールを設定します。
4. アカウントティングアプリケーション用に、取引トピックに対するサブスクリプションを定義し、月に1度データをコンSUMするにスケジュールを設定します。

ビジネスインテリジェンスデータを共有します。

Salesforce の販売データ、マーケティングアプリケーションのマーケティングデータ、および企業の Web サイトのユーザー操作データを、BI アプリケーションを使用して、次のようにして共有できます。

1. Hadoop パブリケーションリポジトリを使用してビジネスインテリジェンストピックを作成し、パブリケーションデータの保持期間を 365 日に設定します。
2. Salesforce アプリケーション用に、ビジネスインテリジェンストピックに対するクラウドパブリケーションを定義し、週に1度パブリッシュするようにスケジュールを設定します。
3. マーケティングアプリケーション用に、ビジネスインテリジェンストピックに対するパブリケーションを定義し、週に1度パブリッシュするようにスケジュールを設定します。
4. 企業の Web サイトアプリケーション用に、ビジネスインテリジェンストピックに対するクラウドパブリケーションを定義し、週に1度パブリッシュするようにスケジュールを設定します。
5. BI アプリケーション用に、ビジネスインテリジェンストピックに対する集計済みサブスクリプションを定義し、週に1度データをコンSUMするにスケジュールを設定します。

Data Integration Hub Big Data

Data Integration Hub を使用して、大量のデータ、データストリーム、および保存期間が長期間にわたるデータにパブリッシュおよびサブスクライブします。例えば、一定期間にわたって確認する必要があるビジネスインテリジェンスデータを Data Integration Hub Hadoop パブリケーションリポジトリに保存したり、Hadoop

分散ファイルシステム（HDFS）や Hive データウェアハウスに対してパブリッシュおよびサブスクライブを実行したりします。

データがすべてのサブスクライバによって消費された後に、パブリッシュ済みデータを Hadoop パブリケーションリポジトリに保持する場合は、パブリッシュ済みデータをリポジトリから削除しないように、Data Integration Hub を設定できます。

Data Integration Hub でビッグデータをパブリッシュおよび消費する際には、自動マッピングとカスタムマッピングの両方を使用できます。カスタムマッピングによるパブリケーションには、Informatica Data Engineering Integration マッピングおよびワークフローと、Informatica Data Engineering Streaming マッピングを使用できます。カスタムマッピングによるサブスクリプションには、Informatica Data Engineering Integration マッピングおよびワークフローを使用します。

アプリケーションの概要

アプリケーションは、販売アプリケーションやカスタムサービスアプリケーションなど、組織内の他のアプリケーションとデータを共有する必要がある組織内のエンティティを表します。Data Integration Hub では、アプリケーションはパブリケーションおよびサブスクリプションのコンテナです。

アプリケーションは、Data Integration Hub ネットワークの内部または外部、さらにオンプレミスまたはクラウド上に配置することができます。Data Integration Hub ネットワークの外部に存在するアプリケーション間でファイルベースのデータを共有するには、SSH ファイル転送プロトコル（SFTP）を使用できます。

アプリケーションは定義済みのトピックにデータをパブリッシュし、トピックからデータをサブスクライブすることができます。例えば、販売アプリケーションは、販売レポートをパブリッシュしたり、業務アプリケーションからの最新在庫情報にサブスクライブしたりできます。パブリケーションをアプリケーションに追加する場合は、どのトピックデータがアプリケーションからパブリッシュされるかに基づいたスケジュールを定義します。また、どのトピックデータがアプリケーションから取得されて Data Integration Hub パブリケーションリポジトリにパブリッシュされるかに基づいたスケジュールも定義します。アプリケーションにサブスクリプションを追加する場合は、アプリケーションのサブスクライブ先トピックや、アプリケーションがトピックから消費するデータのスケジュールおよびスコープを定義します。トピックは、関連付けられたパブリケーションおよびサブスクリプションがパブリッシュおよび消費するデータの構造を定義します。

権限を使用して、アプリケーションへのアクセスを特定のユーザーに制限することができます。アプリケーションのパブリケーションおよびサブスクリプションを定義できるのは、このアプリケーションに対する権限を持つユーザーのみです。

トピックの概要

トピックは、Data Integration Hub でパブリッシュおよび消費されるデータドメインを表すエンティティです。トピックはデータ構造や、データ保持期間などの追加のデータ定義を定義します。同じトピックに対して複数のアプリケーションからパブリッシュできます。1つのアプリケーションから複数のトピックにサブスクライブできます。

例えば、販売データを表す Sales トピックを作成できます。組織内のすべての店舗のアプリケーションは、販売データを Sales トピックにパブリッシュします。経理アプリケーションは Sales トピックにサブスクライブして、すべての店舗からパブリッシュされた販売データを消費します。フィルタが適用されている場合は、特定の店舗からパブリッシュされたデータを消費できます。

Data Integration Hub のパブリケーションとサブスクリプション

パブリケーションおよびサブスクリプションは、アプリケーションが Data Integration Hub にデータを公開する方法、およびアプリケーションが Data Integration Hub のデータを使用する方法を定義するエンティティです。パブリケーションは定義されたトピックにデータを公開し、サブスクリプションはトピックにサブスクライブします。

パブリケーションおよびサブスクリプションはデータパブリケーションまたはデータ使用のデータフローおよびスケジュールを制御します。アプリケーションにはパブリッシャーおよびサブスクライバを使用できます。同じトピックに対して複数のアプリケーションからパブリッシュできます。複数のアプリケーションが同じトピックのデータを使用できます。

自動、カスタム、およびモジュラーパブリケーションおよびサブスクリプションを使用して、データのパブリッシュやコンシュームを行うことができます。さまざまなデータソースに対してパブリッシュおよびサブスクライブできます。公開プロセスおよび使用プロセスは完全に分離されているため、公開ソースおよび使用ターゲットに同じデータタイプを指定する必要はありません。例えば、ファイルからデータを公開し、そのデータを使用してデータベースに格納することができます。

自動パブリケーションおよびサブスクリプションでは、パブリッシュやサブスクライブを、リレーショナルデータベース、ファイル、クラウドアプリケーションに対して行ったり、REST API を使用して行ったりすることができます。

カスタムパブリケーションおよびサブスクリプションでは、オンプレミスアプリケーションに対してパブリッシュおよびサブスクライブすることができます。

モジュラーパブリケーションおよびサブスクリプションでは、クラウドアプリケーションに対してパブリッシュおよびサブスクライブすることができます。

パブリケーションの概要

パブリケーションは、アプリケーションが Data Integration Hub にデータをパブリッシュする方法を定義するエンティティです。パブリケーションの定義には、データのパブリケーションのタイプ、形式、およびスケジュールを含めることができます。パブリケーションはトピックにデータをパブリッシュします。同じトピックに対して複数のパブリケーションからパブリッシュできます。トピックはデータのパブリッシュ先の構造を定義します。

Data Integration Hub 操作コンソールでパブリケーションを作成および編集します。設定中に、データをパブリッシュするトピックを選択します。パブリケーションを設定するときに実行する手順は、パブリケーションのタイプによって異なります。

サブスクリプションの概要

サブスクリプションは、アプリケーションが Data Integration Hub のデータを使用する方法を定義するエンティティです。サブスクリプションはトピックにサブスクライブします。各サブスクリプションは複数のトピックにサブスクライブできます。複数のサブスクリプションが同じトピックのデータを使用できます。

サブスクリプションを作成する場合は、アプリケーションのサブスクライブ先となるトピックを 1 つ以上選択します。該当する場合は、使用するデータのスケジュールと配信スコープ、およびパブリッシュ済みデータの配信動作を定義します。例えば、すべてのデータセットを単一のデータセットに集計したり、最新のパブリッシュ済みデータセットを使用するなどです。

Data Integration Hub 操作コンソールで、サブスクリプションウィザードまたはページを使用してサブスクリプションを作成および編集します。設定中に、データをサブスクライブするトピックを選択します。サブスクリプションを設定するときに実行する手順は、サブスクリプションのタイプとサブスクリプションが使用するマッピングのタイプによって異なります。

オペレータユーザーのロール

Data Integration Hub オペレータは、操作コンソールで動作エンティティを管理します。これらのエンティティにはアプリケーション、トピック、パブリケーション、およびサブスクリプションが含まれます。また、オペレータはイベントおよびイベント監視ルールを使用して、パブリケーションやサブスクリプションの処理ステータスを監視します。

オペレータは、データのパブリッシュまたはコンSUMEが必要なアプリケーションを作成および変更します。また、アプリケーションごとにパブリケーションまたはサブスクリプションを作成して、定義します。オペレータは、トピックを作成および変更することによって、Data Integration Hub で管理されるデータドメインを定義しています。

オペレータはパブリケーション用のソース接続と、サブスクリプション用のターゲット接続を設定および管理します。オペレータはパブリケーションまたはサブスクリプションを作成するときに接続を定義したり、操作コンソールで接続を直接管理したりできます。

パブリケーションおよびサブスクリプションが実行されている場合、オペレータは、イベントやモニタ、さらに Data Integration Hub ダッシュボードを使用してパブリケーションおよびサブスクリプションプロセスのステータスを監視します。パブリケーションまたはサブスクリプションのプロセス中にエラーが発生した場合、オペレータはイベントにアクションを実行して問題のトラブルシューティングを行うことができます。

またオペレータは、パブリケーションおよびサブスクリプションイベントを監視するルールを作成し、定義されたステータスのイベントに対してアクションを実行できます。例えば、イベントのステータスがエラーになっているパブリケーションを無効化するルール、パブリケーションイベントのステータスがエラーの場合に PowerCenter ワークフローを起動するルール、またはサブスクリプションイベントのステータスが重大になっている場合に Data Integration Hub 管理者宛てに電子メールを送信するルールを作成できます。

操作コンソール

操作コンソールユーザーインターフェースを使用して、アプリケーション、トピック、パブリケーション、サブスクリプションの管理と、パブリケーション、サブスクリプション、イベントの監視を行います。管理者は、ユーザーとシステム設定の管理にも操作コンソールを使用します。開発者は、ワークフローと接続を管理するために操作コンソールを使用します。

操作コンソールは、英語または日本語で表示できます。表示言語は切り替えることができます。

操作コンソールには、次の 2 つの領域があります。

ナビゲータ

操作コンソールで実行できるタスク間を移動するには、ナビゲータを使用します。ナビゲータは、操作コンソールの左ペインに表示されます。

現在のページ

ナビゲータで選択したタスクを実行するメイン作業領域。現在のページは、操作コンソールの右ペインに表示されます。

操作コンソールの言語の変更

操作コンソールは、英語または日本語で表示できます。表示言語は切り替えることができます。

1. Data Integration Hub にアクセスするブラウザで、言語を目的の言語に設定します。

2. **【ヘルプ】** リンクをクリックすると、オンラインヘルプが英語で表示されます。日本語のオンラインヘルプを表示するには、次の URL にアクセスします。

`http(s)://<host>:<port>/dih-help-ja`

場所：

- <host>は、Data Integration Hub サーバーの IP アドレスです。
- <port>は、Data Integration Hub サーバーのポート番号です。

例：

`https://dih-releases:19443/dih-help-ja/`

Data Integration Hub の概要図

Data Integration Hub にアプリケーション、トピック、パブリケーション、サブスクリプションなどのエンティティが含まれている場合、Data Integration Hub 操作コンソールのホームページには Hub 概要図が表示されます。

Hub 概要図では、既存のエンティティがカテゴリにグループ化され、その概要が視覚的に示されます。

次の図は、Hub 概要図のサンプルです。



図の中でエンティティにマウスを合わせると、関連するすべてのエンティティがハイライトされます。例えば、トピックにマウスを合わせると、トピックにパブリッシュするアプリケーションおよびパブリケーションと、トピックにサブスクライブするサブスクリプションがハイライトされます。エンティティをクリックすると、そのエンティティ、およびその他のエンティティへのリレーションのドリルダウンビューが表示されます。例えば、パブリケーションをクリックすると、パブリッシュ元のアプリケーション、パブリケーションがデータをパブリッシュするトピック、トピックにサブスクライブするサブスクリプションがドリルダウンビューに表示されます。ドリルダウンビューでエンティティをクリックします。選択したエンティティの編集ウィンドウが表示されます。

Hub 概要図は次のビューにフィルタリングできます。

- Hub の概要。トピック、関連アプリケーション、パブリケーション、サブスクリプションなどのすべてのエンティティは、Data Integration Hub で設定されます。
- 処理エラー。現在エラーイベントがあるエンティティ。
- 無効なエンティティ。有効でないエンティティ。

- パブリケーションのないトピック。パブリケーションが関連付けられていないトピック。
- サブスクリプションのないトピック。サブスクリプションが関連付けられていないトピック。
- 最もよく使用されるトピック。トピックを使用するパブリケーションおよびサブスクリプションの数に基づいた最もよく使用されるトピックの上位3つ。

図をフィルタリングすると、選択したフィルタに関連しないエンティティは表示専用モードで表示されます。

Hub 概要図でトピックを検索するには、**【トピックの検索】** ボタンをクリックし、トピックの名前を入力します。検索条件に一致するトピックと関連エンティティが Hub 概要図に表示されます。

第 2 章

Data Integration Hub の基本操作

この章では、以下の項目について説明します。

- [スタートガイドの概要, 18 ページ](#)
- [手順 1. Data Integration Hub 操作コンソールへのログイン, 18 ページ](#)
- [手順 2. Data Integration Hub アプリケーションの作成, 19 ページ](#)

スタートガイドの概要

この章では、Data Integration Hub 操作コンソールを起動し、Data Integration Hub アプリケーションを作成します。

章の概念

Data Integration Hub 操作コンソールは、アプリケーション、トピック、パブリケーション、およびサブスクリプションを管理し、イベントを監視するための Web クライアントユーザーインターフェースです。

アプリケーションは、他のエンティティとデータを共有する必要がある、組織内のエンティティを表します。Data Integration Hub アプリケーションは、パブリケーションおよびサブスクリプションのコンテナです。データを公開する、および公開されたデータにサブスクライブするには、最初に、公開および使用するデータを提供するエンティティを表すアプリケーションを作成する必要があります。

章の目的

この章では、次のタスクを実行します。

- Data Integration Hub 操作コンソールにログインする。
- Data Integration Hub アプリケーションを作成する。

手順 1. Data Integration Hub 操作コンソールへのログイン

この作業を開始するには、Data Integration Hub 操作コンソールを起動します。

1. Windows デスクトップから、[スタート] > [すべてのプログラム] > [Informatica Data Integration Hub] > [操作コンソール] をクリックします。
デフォルトのブラウザで Data Integration Hub 操作コンソールが開きます。

2. 提供されたユーザー名とパスワードを入力します。
3. **【ログイン】** をクリックします。

Data Integration Hub の **【概要】** ページが表示されます。Data Integration Hub にエンティティが存在しない場合、**【概要】** ページにはようこそページが表示されます。Data Integration Hub にアプリケーション、トピック、パブリケーションまたはサブスクリプションなどのエンティティが含まれている場合は、**【概要】** ページに Data Integration Hub の概要図が表示されます。概要図では、既存のエンティティがカテゴリにグループ化され、その概要が視覚的に示されます。

注: 組織に必要なライセンスがある場合、**【マイサービス】** ページに **【B2B Gateway】** リンクが表示されます。リンクが **【マイサービス】** ページに表示されない場合は、管理者に連絡して下さい。

手順 2. Data Integration Hub アプリケーションの作成

Data Integration Hub 操作コンソールでアプリケーションを作成します。アプリケーションは、パブリッシャ、サブスクライバ、またはパブリッシャとサブスクライバの両方です。この作業では、少なくとも 1 つのアプリケーションを作成します。

1. ナビゲータで **【ハブの管理】** > **【アプリケーション】** をクリックします。
【アプリケーション】 ページが表示されます。
2. **【新しいアプリケーション】** をクリックします。
【アプリケーションの作成】 ページが表示されます。
3. **【全般】** タブにアプリケーション名を入力します。
4. オプションとして、アプリケーションの説明を入力します。
5. **【保存】** をクリックします。
【アプリケーションの作成】 ページが閉じます。**【アプリケーション】** ページのアプリケーションリストにアプリケーションが表示されます。

第 3 章

トピックの作成

この章では、以下の項目について説明します。

- [トピックの作成の概要, 20 ページ](#)
- [リレーショナルデータベースパブリケーションリポジトリを使用したトピックの作成, 22 ページ](#)
- [Hadoop パブリケーションリポジトリを使用したトピックの作成, 29 ページ](#)
- [ファイルストアパブリケーションリポジトリを使用するトピックの作成, 36 ページ](#)
- [リアルタイムパブリケーションリポジトリを使用したトピックの作成, 39 ページ](#)

トピックの作成の概要

このセクションでは、アプリケーションによるデータの公開先であり、かつアプリケーションによるデータの使用元であるトピックを作成します。最初に「Data Integration Hub の基本操作」の章を完了する必要があります。

トピックを作成する場合は、トピックタイプとそのトピックのデータを格納するリポジトリのタイプを選択して、データ構造とデータ保持期間を定義し、データ格納場所を選択して、トピック権限を割り当てます。

章の概念

Data Integration Hub では、次のタイプのパブリケーションリポジトリでトピックデータを管理および格納できます。

- **リレーショナルデータベース。**このタイプのリポジトリは、データを保管する構造を表すリレーショナルデータベース構造に、パブリッシュされたデータを格納する場合に選択します。例えば、リレーショナルデータベースまたはファイルから公開されたデータです。通常、リレーショナルデータベースのパブリケーションリポジトリは、すべてのサブスクライバがデータを使用した後、しばらくの間そのデータを格納します。Data Integration Hub は、リレーショナルデータベーストピックデータを保存するために次のデータベースをサポートしています: Oracle、Microsoft SQL Server。
- **Big Data。**このタイプのリポジトリは、長期間格納するデータを大量にパブリッシュする場合や、パブリッシュ済みデータがコンシュームされた後に Data Integration Hub によって削除されないようにする場合に選択します。Hadoop リポジトリを利用できるかどうかは、お使いのシステムに Hadoop コンポーネントがインストールされているかどうかで決まります。
カスタムパブリケーションおよびサブスクリプションを含む Hadoop ベースのリポジトリをパブリッシュおよびサブスクライブするには、Data Engineering Integration マッピングおよびワークフローに基づいたワークフローを使用する必要があります。カスタムパブリケーションを作成するときに、パブリケーション用に選択したトピックの 1 つが Hadoop ベースのトピックの場合、Data Engineering Integration マッピングまたはワークフローに基づいたワークフローのみがパブリケーションマッピングの選択項目として表示されます。

複数のトピックにサブスクライブする複合サブスクリプションを作成する場合は、選択するすべてのトピックが Hadoop ベースである必要があり、Data Engineering Integration マッピングまたはワークフローに基づいたワークフローのみがサブスクリプションマッピングの選択項目として表示されます。複合サブスクリプションでトピックの必須オプションを有効化して、複合サブスクリプション内のいくつかのトピックを他のトピックよりも優先させることもできます。

Data Integration Hub は、すべてのトピックのパブリケーションイベントが完了すると、サブスクリプションの処理をトリガします。パブリケーションイベントの待ち時間が経過しても Data Integration Hub がすべての必須トピックをパブリッシュしていない場合、実行時にエラーイベントが生成されます。

パブリケーションおよびサブスクリプションに Hadoop ベースのパブリケーションリポジトリを使用する前に、次の制限事項を考慮します。

- Hadoop ベースのリポジトリにパブリッシュするカスタムパブリケーションには、前処理を割り当てることはできません。
- ファイルをパブリッシュする準備ができたらずに実行するために、ファイルを Hadoop ベースのリポジトリにパブリッシュするカスタムパブリケーションは設定できません。
- Hadoop リポジトリは、パススルーファイルおよび Hadoop 分散ファイルシステム（HDFS）ファイルに対してパブリッシュおよびサブスクライブするためには使用できません。
- ファイルストア。このタイプのリポジトリは、リレーショナルデータベースにデータをロードしないでそのまま保持するファイルをパブリッシュする場合に選択します。例えば、PDF または .zip ファイルをファイルリポジトリに公開した場合、Data Integration Hub はファイルを処理せずにそのまま配信します。
- リアルタイム。このタイプのリポジトリは、リアルタイム Apache Kafka データストリーミングを監視する場合に選択します。Apache Kafka は、レコードのストリームをパブリッシュおよびサブスクライブし、レコードのストリームを保存および処理できる分散ストリーミングプラットフォームです。Apache Kafka フローを追跡するには、Data Integration Hub のシステムプロパティで Apache Kafka サーバー URL を設定する必要があります。

次に、パブリケーションリポジトリタイプがリアルタイムのトピックを作成し、パブリッシャとサブスクライバを定義するアプリケーションを作成する必要があります。また、Apache Kafka サーバーにマッピングするワークフローを作成します。Kafka サーバーのソースとターゲットに関連付けられた Data Integration Hub のパブリケーションとサブスクリプション。

Data Integration Hub は、定期的に Apache Kafka サーバーにデータのストリーミングを記録します。

Data Integration Hub オペレータは、Data Integration Hub がトピック内のデータストリーミング値を記録する必要がある間隔を設定します。イベントリストには、イベントのログが格納されます。イベントリストの「情報の処理中」タブには、各パーティションで一定の間隔でデータ値間の差を定義する Offset 値と LogEndOffset 値が格納されます。

トピックの構造を作成する場合は、Data Integration Hub パブリケーションリポジトリのデータ構造を定義します。トピックに関連付けられたパブリケーションはこのパブリケーションリポジトリにデータを公開し、トピックのサブスクライバはこのパブリケーションリポジトリ内のデータを使用します。トピック構造には少なくとも 1 つのテーブルを含める必要があり、複数のテーブルから構成できます。

データ保持期間は、データの使用後に Data Integration Hub がパブリケーションリポジトリ内にそのデータを保持する期間を定義します。

トピック権限は、トピックにアクセスできるユーザーを管理します。Data Integration Hub の管理者は、カテゴリを作成し、ユーザーグループにカテゴリを割り当てて、トピックを表示または変更できるユーザーを決定します。トピックにカテゴリを割り当てることによって、そのトピックの表示または変更をユーザーに許可します。パブリケーションとサブスクリプションはトピックに関連付けられるため、どちらも関連付けられるトピックから権限を継承します。トピックの権限を設定した場合は、そのトピックに対する権限を持っているユーザーグループのみが、関連付けられたサブスクリプションおよびパブリケーションにアクセスできます。

章の目的

この章では、次のタスクを実行します。

- 公開されたデータがリレーショナルデータベースに格納されるトピックを作成します。
- 公開されたデータが Hadoop リポジトリに格納されるトピックを作成します。
- 公開されたデータがファイルリポジトリに格納されるトピックを作成します。
- 公開されたデータが Apache Kafka サーバーに格納されるトピックを作成します。

リレーショナルデータベースパブリケーションリポジトリを使用したトピックの作成

リレーショナルデータベースパブリケーションリポジトリを使用したトピックを作成するには、次のタスクを実行します。

1. **【新規トピック】** ウィザードにアクセスします。
2. トピックの基本的なプロパティを定義します。
3. トピックデータ構造を作成します。
4. 必要に応じて、トピックテーブルのリレーションを定義します。
5. データ保持期間と格納場所を定義します。
6. 必要に応じて、トピックの権限を割り当てます。
7. トピックの設定を確認して、トピックを保存します。

タスクの前提条件

このタスクを開始する前に、作成するトピック構造の詳細を取得します。

手順 1. [新規リレーショナルデータベーストピック] ウィザードへのアクセス

Data Integration Hub 操作コンソールで **【新規リレーショナルデータベーストピック】** ウィザードにアクセスします。

1. ナビゲータで **【ハブの管理】** > **【トピック】** をクリックします。
【トピック】 ページが表示されます。
2. **【新規トピック】** をクリックし、**【リレーショナルデータベース】** を選択してから **【作成】** をクリックします。
【新規リレーショナルデータベーストピック】 ウィザードが表示されます。

手順 2. 基本的なトピックプロパティの定義

【新規トピック】 ウィザードの **【全般】** ページで、トピックプロパティを定義します。

1. トピック名を入力します。
2. 必要に応じて、トピックの説明を入力します。

3. 必要に応じて、トピックにタグを割り当てて、そのタグに基づいて【トピック】ページと【カタログ】ページでトピックを検索できるようにします。
4. トピックタイプを選択します。
 - 差分。トピックのインスタンスには最新のデータ変更のみが含まれます。このトピックタイプを選択した場合は、データソースに差分インジケータが含まれていることを確認します。
 - 全体。トピックインスタンスには、前回のパブリケーション後に加えられたすべてのデータ変更が含まれます。カスタムマッピングを使用するパブリケーションにこのトピックを関連付ける場合は、このトピックを選択します。
5. 【パブリケーションリポジトリ】で【リレーショナルデータベース】を選択します。

注:【このトピックに対する新しいパブリケーションおよび新しいサブスクリプションを禁止】オプションを選択した場合は、トピックへのパブリッシュやトピックからのサブスクライブを行うパブリケーションおよびサブスクリプションは作成できません。
6. 【次へ】をクリックします。

【構造】ページが表示されます。

手順 3. トピックのデータ構造の作成

【新規トピック】ウィザードの【構造】ページで、トピックのデータ構造を作成してプレビューします。

次のメソッドを 1 つ以上使用して、トピックにテーブルを追加することができます。

データベースからのテーブルの追加

トピックが表しているデータドメインの構造が組織内のデータベースに格納されている場合は、この方法を使用します。例えば、トピックに公開するアプリケーションのいずれかに構造が含まれている場合などです。

Enterprise Data Catalog からのテーブルの追加

トピックが表しているデータドメインの構造が Enterprise Data Catalog に格納されている場合は、この方法を使用します。Data Integration Hub のトピックが使用する必要がある Enterprise Data Catalog アセットから、テーブルを選択します。

フラットファイルからのテーブルの追加

トピックが表しているデータドメインの構造がフラットファイルに格納されている場合は、この方法を使用します。この方法でトピックテーブルを追加する場合に使用できるのは、区切りファイルのみです。

PowerCenter ワークフローからのテーブルの追加

ソースアプリケーションからデータを抽出する PowerCenter ワークフローが組織内にあり、このワークフローのターゲットが、ユーザーがデータを保持する構造を表している場合は、この方法を使用します。開発者が PowerCenter Workflow Manager でワークフローを作成します。Data Integration Hub はワークフロー内のターゲットに基づいて、トピック構造を生成します。

メタデータファイルからテーブルを追加する。

この方法は、トピックが表しているデータドメイン内のテーブルの構造が JSON、XML、XLS、または XLSX ファイル内に存在する場合に使用します。

テーブルの作成

トピックが表しているデータドメインの構造が組織内のデータベース、PowerCenter ワークフロー、またはファイルに格納されていない場合はこの方法を使用し、Data Integration Hub で構造を手動で定義します。

注: トピック構造に少なくとも 1 つのテーブルを追加する必要があります。

1. **【テーブルの追加】** をクリックし、トピック構造にテーブルを追加する方法を選択します。

注: Data Integration Hub により、各トピックテーブルに DIH_PUBLICATION_INSTANCE_DATE、DIH_PUBLICATION_INSTANCE_ID、および DIH_UPDATE_STRATEGY_FLAG カラムが追加されます。テーブルの作成が終了すると、トピックウィザードの **【構造】** ページの **【構造のプレビュー】** 領域にこれらのカラムが表示されます。

2. **【次へ】** をクリックします。
【テーブルリレーション】 ページが表示されます。

データベースからのトピックテーブルの追加

組織が保有するデータベースからトピック構造にテーブルを追加します。

データベースからトピックテーブルを追加するには、次の手順を実行します。

1. **【新規トピック】** ウィザードの **【構造】** ページで、**【テーブルの追加】** をクリックして **【データベースから】** を選択します。

【データベースからのテーブルの追加】 ページが表示されます。

2. **【データベース接続】** の横にある **【参照】** ボタンをクリックします。

【メタデータ接続の選択】 ダイアログボックスが表示されます。

3. 接続リストから接続を選択するか、**【新しい接続】** をクリックして接続を作成します。

注: Teradata 接続を使用するには、トピックの前に接続を作成する必要があります。ここで新しい Teradata 接続を作成することはできません。

Data Integration Hub は、メタデータアクセス接続の詳細を使用してデータベーススキーマ情報にアクセスします。

4. **【メタデータ接続の選択】** ダイアログボックスで **【OK】** をクリックします。

【検索結果】 領域に、データベース内でデフォルトスキーマを使用するテーブルが表示されます。

5. 必要に応じて、データベース内のテーブルを検索します。次のガイドラインに注意して下さい。

- テーブル名でテーブルを検索するには、**【トピックテーブルの検索】** テキストボックスに文字列を入力して **【検索】** をクリックします。
- デフォルトスキーマ以外のスキーマを使用するテーブルを検索するには、オプション **【デフォルトのスキーマだけを表示する】** の選択を解除し、**【スキーマ】** テキストボックスに文字列を入力して **【検索】** をクリックします。
- 検索結果を消去してデフォルトスキーマを使用するテーブルのみを表示するには、オプション **【デフォルトのスキーマだけを表示する】** を選択して **【すべて表示】** をクリックします。
- 検索は、大文字小文字を区別しません。
- サブストリングを検索することも可能です。

6. **【トピックテーブルの選択】** 領域で、トピック構造に含めるデータベース内のテーブルを選択し、**【テーブルの追加】** をクリックします。

【データベースからのテーブルの追加】 ページが閉じます。**【構造】** ページに、トピックテーブルのリストと、トピック構造のプレビューが表示されます。

Enterprise Data Catalog からのテーブルの追加

トピックが表しているデータドメインの構造が Enterprise Data Catalog に格納されている場合は、Enterprise Data Catalog からテーブルを追加します。

【Enterprise Data Catalog からのテーブルの追加】 ウィンドウで次の手順を実行し、Enterprise Data Catalog からテーブルを追加します。

1. **【Enterprise Data Catalog リソース】** フィールドでリソースを検索して選択し、**【OK】** をクリックします。
Data Integration Hub が、Enterprise Data Catalog からアセットのすべてのオブジェクトを取得し、**【トピックテーブルの選択】** ペインにそれらのオブジェクトをオプションとして表示します。
2. トピックテーブルを選択します。テーブルを選択してトピック構造に含めます。
3. **【OK】** をクリックします。

注: Enterprise Data Catalog のテーブルを使用するには、Data Integration Hub の管理者によって Data Integration Hub で Enterprise Data Catalog 接続が設定されていることを確認してください。Enterprise Data Catalog 接続の設定の詳細については、『*Data Integration Hub 管理者ガイド*』を参照してください。

フラットファイルからのトピックテーブルの追加

サンプルフラットファイルからトピック構造にテーブルを追加します。トピックテーブルを追加する場合に使用できるのは、区切りファイルのみです。

1. **【新規トピック】** ウィザードの **【構造】** ページで、**【テーブルの追加】** をクリックして **【フラットファイルから】** を選択します。
【ファイルからのテーブルの追加】 ウィザードが開いて、**【定義】** ページが表示されます。
2. **【サンプルファイル】** の横にある **【参照】** ボタンをクリックします。
【サンプルファイル】 ダイアログボックスが表示されます。
3. **【参照】** をクリックし、ファイルを選択して **【アップロード】** をクリックします。
【サンプルファイル】 ダイアログボックスが閉じます。
4. **【ファイル形式】** 領域で、次のパラメータを定義します。

コードページ

ファイルで使用される文字エンコード。

カラム名をインポート

オプション。**【はい】** を選択すると、ファイル内のカラム名をテーブルのデフォルトのカラムヘッダーとして使用することができます。**【使用する行】** にファイルのヘッダー行として使用する行の番号を入力します。

デフォルトのテキスト長

オプション。テーブル内のテキストフィールドの長さ。

区切り文字

カラムを区切るためにファイル内で使用される区切り文字。事前に定義された区切り文字を選択するか、**【カスタム】** を選択してカスタムの区切り文字を定義します。サポートされているカラム区切り文字の詳細については、『*PowerCenter Designer ガイド*』の区切り記号付きフラットファイルのインポートについてのセクションと区切り記号付きファイルのプロパティの更新についてのセクションを参照してください。

テキスト修飾子

オプション。文字列を囲むためにファイルで使用される記号。

【プレビュー】領域にテーブル内のカラムが表示されます。

5. 【次へ】をクリックします。

【ファイルからのテーブルの追加】ウィザードの【構造】ページが表示されます。

6. テーブル構造を確認し、必要に応じて調整します。次のリストに、【ファイルからのテーブルの追加】ウィザードの【構造】ページの要素を示します。

テーブル名

テーブルの名前。デフォルトでは、Data Integration Hub はユーザーが【定義】ページで選択したファイルの名前からテーブル名を取得します。デフォルト名を編集できます。

テーブルの名前に含めることができるのは ASCII の英数字とアンダースコアのみで、先頭に数字を使用することはできません。

名前は Data Integration Hub パブリケーションリポジトリ内で一意でなければなりません。

カラムテーブル

テーブルのカラムの追加、順序付け、および削除を行うには、追加ボタン、上下ボタン、および削除ボタンを使用します。テーブルには少なくとも 1 つのカラムが含まれている必要があります。

各カラムには、次の情報が含まれなくてはなりません。

- カラム名。名前はアルファベットまたはアンダースコアで開始し、英数字およびアンダースコアのみを使用できます。

【定義】ページの【カラム名をインポート】オプションを選択した場合、Data Integration Hub は定義された行の文字列をカラム名に入力します。【カラム名をインポート】オプションを選択しなかった場合、Data Integration Hub はカラムにデフォルト名を割り当てます。例えば、**Field1**、**Field2**、**Field n** などです。

- データ型。使用可能なデータ型のリストから選択します。デフォルトでは、Data Integration Hub はデータを文字列として読み取ります。
- 精度。精度をサポートするデータ型に対してのみ設定できます。
- スケール。データスケールをサポートするデータ型に対してのみ設定できます。

プレビュー

この領域にはテーブル内のカラムが表示されます。フラットファイルの構造を表すサンプルファイルを選択すると、この領域にサンプルファイルのデータが表示されます。

7. 【完了】をクリックします。

【ファイルからのテーブルの追加】ウィザードが閉じます。【新規トピック】ウィザードの【構造】ページに、トピックテーブルと、トピック構造のプレビューが表示されます。

PowerCenter ワークフローからのトピックテーブルの追加

PowerCenter ワークフローからトピック構造にテーブルを追加します。

1. 【新規トピック】ウィザードの【構造】ページで、【テーブルの追加】をクリックして【PowerCenter から】を選択します。

【PowerCenter ワークフローからのテーブルの追加】ページが表示されます。

- 次に示すオプションの1つを選択し、トピック構造にテーブルを追加します。
 - PowerCenter リポジトリからワークフローを選択する場合は、**【PowerCenter リポジトリからのワークフローの選択】**を選択します。**【フォルダ名】** テキストボックスに文字列を入力して**【検索】**をクリックするか、**【すべて表示】**をクリックしてリストからワークフローを選択します。
 - ワークフロー定義ファイルを選択するには、**【ワークフロー定義ファイル (.xml) の選択】**を選択します。参照してファイルを選択し、**【アップロード】**をクリックします。
- 【保存】**をクリックします。

【PowerCenter ワークフローからのテーブルの追加】 ページが閉じます。**【構造】** ページに、トピックテーブルのリストと、トピック構造のプレビューが表示されます。

メタデータファイルからのトピックテーブルの追加

Data Integration Hub にメタデータファイルをロードして、ファイル構造に基づくトピックテーブルを作成できます。Data Integration Hub は、JSON、XML、XLS、および XLXS のファイル形式をサポートします。

- 【新規トピック】** ウィザードの**【構造】** ページで、**【テーブルの追加】**をクリックして**【メタデータファイルからのテーブルの追加】**を選択します。

【メタデータファイルからのテーブルの追加】 ページが表示されます。
- 参照してファイルを選択し、**【アップロード】**をクリックします。
- テーブル名を入力し、**【保存】**をクリックします。

【構造】 ページに、トピックテーブルのリストと、トピック構造のプレビューが表示されます。

トピックテーブルの作成

テーブルを作成して、トピック構造にテーブルを追加します。

- 【新規トピック】** ウィザードの**【構造】** ページで、**【テーブルの追加】**をクリックして**【作成】**を選択します。

【テーブルの作成】 ページが表示されます。
- 【テーブル名】** フィールドに論理テーブル名を入力します。
- 必要に応じて、物理テーブル名を変更します。
- 必要に応じて、テーブルの説明を入力します。
- テーブルに差分検出を適用するには、**【差分検出の適用】**をクリックします。

注: Data Integration Hub は、プライマリキーが定義されているテーブルに差分検出を適用します。プライマリキーをトピックウィザードの**【テーブルリレーション】** タブのテーブルに割り当てます。
- テーブルのカラムを追加および順序付けするには、追加ボタンおよび上下ボタンを使用します。テーブルに少なくとも1つのカラムを追加する必要があります。

カラムごとに次の情報を入力します。

 - 【カラム名】**。カラムの論理名。名前は英文字またはアンダースコアで開始する必要がある、英数字およびアンダースコアのみを含めることができます。
 - 物理名**。カラムの物理名。名前は英文字またはアンダースコアで開始する必要がある、英数字およびアンダースコアのみを含めることができます。
 - 【データ型】**。使用可能なデータ型のリストから選択します。
 - 精度**。精度をサポートするデータ型に対してのみ設定できます。
 - スケール**。データスケールをサポートするデータ型に対してのみ設定できます。

- 説明。カラムの説明（省略可能）。

注: Data Integration Hub により、各トピックテーブルに DIH_PUBLICATION_INSTANCE_DATE、DIH_PUBLICATION_INSTANCE_ID、および DIH__UPDATE_STRATEGY_FLAG カラムが追加されます。テーブルの作成が終了すると、トピックウィザードの【構造】ページの【構造のプレビュー】領域にこれらのカラムが表示されます。

7. 【OK】をクリックします。

【テーブルの作成】ページが閉じます。【構造】ページに、トピックテーブルと、トピック構造のプレビューが表示されます。

手順 4. トピックテーブルのリレーションの定義

【新規トピック】 ウィザードの【テーブルのリレーション】ページのトピックテーブル間のリレーションを定義して、自動データベースおよびフラットファイルサブスクリプションがトピックから使用するデータをフィルタリングすることができます。バインドされていないサブスクリプションで使用予定のトピックのフィルタアクセラレータを定義することもできます。

ヒント: 【表示】リストでは、すべてのトピックテーブルを表示するか、特定のテーブルを表示するかを選択できます。

1. **【フィルタアクセラレータ】** カラムでは、フィルタアクセラレータとして 1 つまたは複数のカラムを定義します。フィルタアクセラレータは、サブスクリプションのクエリでカラムが使用されること、および Data Integration Hub によるパフォーマンス関連の処理が必要であることを示します。このインジケータは、バインドされていないサブスクリプションで使用予定のトピックとともに使用してください。
フィルタアクセラレータを使用する場合は、パフォーマンス関連の処理がシステムパフォーマンスに与える影響を考慮する必要があります。
 - フィルタアクセラレータにより、フィルタと PowerCenter のプッシュダウンの最適化を両方とも使用するサブスクリプションの処理を迅速に行えます。デフォルトでは、PowerCenter のプッシュダウンの最適化オプションは、バインドされていないサブスクリプションに対してのみ選択されています。
 - フィルタアクセラレータにより、Data Integration Hub パブリケーションリポジトリへのパブリケーションデータの書き込み速度は遅くなります。
 - フィルタアクセラレータは、フィルタを使用しないサブスクリプションには影響しません。
2. **【キー】** カラムでは、リレーションをプライマリキーとして定義するトピックテーブルからカラムを定義します。
3. テーブルごとに 1 つのプライマリキーをテーブルの数に応じて必要なだけ定義します。
4. プライマリキーを定義したテーブルごとに、1 つまたは複数の外部キーを定義します。外部キーは、別のテーブルのプライマリキーに関連付ける必要があります。
5. **【次へ】** をクリックします。
【データ保持】ページが表示されます。

手順 5. データ保持期間と格納場所の定義

【新規トピック】 ウィザードの【データ保持】ページで、データの保持期間とデータの格納場所を定義します。

1. データの使用後に Data Integration Hub がデータを Data Integration Hub パブリケーションデータベースに保持する日数を、【パブリケーションデータ保持期間】フィールドに入力します。
2. **【詳細】** をクリックします。
【データ格納場所】領域が表示されます。
3. トピックに公開されたデータを Data Integration Hub が格納する、データベース内の場所を選択します。

- デフォルト。Data Integration Hub は、デフォルトのストレージ設定に基づいてデータを格納します。例えば、デフォルトのファイルグループなどです。
 - カスタム。パブリケーションリポジトリデータベース内の使用可能なデータストレージグループを参照して、選択します。例えば、使用可能なファイルグループを参照します。
4. **【次へ】** をクリックします。
【権限】 ページが表示されます。

手順 6. トピックの権限の割り当て

【新規トピック】 ウィザードの **【権限】** ページにある操作コンソールでトピックへのアクセスを制御します。権限を割り当てない場合は、すべての Data Integration Hub ユーザーがトピックにアクセスできるようになります。

1. **【使用可能なカテゴリ】** でトピックへの権限を割り当てるカテゴリを選択し、右矢印をクリックします。
選択したカテゴリが **【選択したカテゴリ】** に表示されます。
2. カテゴリをさらに割り当てるには、手順 [1](#) を繰り返します。
3. **【次へ】** をクリックします。
【サマリ】 ページが表示されます。

手順 7. トピックの設定の確認およびトピックの保存

【新規トピック】 ウィザードの **【サマリ】** ページで、トピックの設定を確認してトピックを保存します。

1. トピックの設定を確認します。
2. **【完了】** をクリックします。

【新規トピック】 ウィザードが閉じます。**【トピック】** ページに作成したトピックが表示されます。このトピックにデータを公開するパブリケーションと、このトピックからデータを使用するサブスクリプションを作成できます。

トピックはカタログに表示されます。ユーザーは Data Integration Hub で使用可能なすべてのデータセットをカタログに表示して、ターゲットアプリケーションに必要なデータが Data Integration Hub 内にあることを確認できます。

Hadoop パブリケーションリポジトリを使用したトピックの作成

Hadoop パブリケーションリポジトリを使用したトピックを作成するには、次のタスクを実行します。

1. **【新規トピック】** ウィザードにアクセスします。
2. トピックの基本的なプロパティを定義します。
3. トピックデータ構造を作成します。
4. 必要に応じて、トピックテーブルのリレーションを定義します。
5. データ保持期間と格納場所を定義します。
6. 必要に応じて、トピックの権限を割り当てます。
7. トピックの設定を確認して、トピックを保存します。

タスクの前提条件

このタスクを開始する前に、作成するトピック構造の詳細を取得します。

手順 1. [新規 Big Data トピック] ウィザードへのアクセス

Data Integration Hub 操作コンソールで **[新規 Big Data トピック]** ウィザードにアクセスします。

1. ナビゲータで **[ハブの管理]** > **[トピック]** をクリックします。
[トピック] ページが表示されます。
2. **[新規トピック]** をクリックし、**[Big Data]** を選択してから **[作成]** をクリックします。
[新規 Big Data トピック] ウィザードが表示されます。

手順 2. 基本的なトピックプロパティの定義

[新規トピック] ウィザードの **[全般]** ページで、トピックプロパティを定義します。

1. トピック名を入力します。
2. 必要に応じて、トピックの説明を入力します。
3. 必要に応じて、トピックにタグを割り当て、そのタグに基づいて **[トピック]** ページと **[カタログ]** ページでトピックを検索できるようにします。
4. トピックタイプを選択します。
 - 差分。トピックのインスタンスには最新のデータ変更のみが含まれます。このトピックタイプを選択した場合は、データソースに差分インジケータが含まれていることを確認します。
 - 全体。トピックインスタンスには、前回のパブリケーション後に加えられたすべてのデータ変更が含まれます。カスタムマッピングを使用するパブリケーションにこのトピックを関連付ける場合は、このトピックを選択します。
5. **[パブリケーションリポジトリ]** で **[Hadoop]** を選択します。
注: **[このトピックに対する新しいパブリケーションおよび新しいサブスクリプションを禁止]** オプションを選択した場合は、トピックへのパブリッシュやトピックからのサブスクライブを行うパブリケーションおよびサブスクリプションは作成できません。
6. **[次へ]** をクリックします。
[構造] ページが表示されます。

手順 3. トピックのデータ構造の作成

[新規トピック] ウィザードの **[構造]** ページで、トピックのデータ構造を作成してプレビューします。

次のメソッドを 1 つ以上使用して、トピックにテーブルを追加することができます。

データベースからのテーブルの追加

トピックが表しているデータドメインの構造が組織内のデータベースに格納されている場合は、この方法を使用します。例えば、トピックに公開するアプリケーションのいずれかに構造が含まれている場合などです。

Enterprise Data Catalog からのテーブルの追加

トピックが表しているデータドメインの構造が Enterprise Data Catalog に格納されている場合は、この方法を使用します。Data Integration Hub のトピックが使用する必要がある Enterprise Data Catalog アセットから、テーブルを選択します。

フラットファイルからのテーブルの追加

トピックが表しているデータドメインの構造がフラットファイルに格納されている場合は、この方法を使用します。この方法でトピックテーブルを追加する場合に使用できるのは、区切りファイルのみです。

PowerCenter ワークフローからのテーブルの追加

ソースアプリケーションからデータを抽出する PowerCenter ワークフローが組織内にあり、このワークフローのターゲットが、ユーザーがデータを保持する構造を表している場合は、この方法を使用します。開発者が PowerCenter Workflow Manager でワークフローを作成します。Data Integration Hub はワークフロー内のターゲットに基づいて、トピック構造を生成します。

メタデータファイルからテーブルを追加する。

この方法は、トピックが表しているデータドメイン内のテーブルの構造が JSON、XML、XLS、または XLSX ファイル内に存在する場合に使用します。

テーブルの作成

トピックが表しているデータドメインの構造が組織内のデータベース、PowerCenter ワークフロー、またはファイルに格納されていない場合はこの方法を使用し、Data Integration Hub で構造を手動で定義します。

注: トピック構造に少なくとも 1 つのテーブルを追加する必要があります。

1. **【テーブルの追加】** をクリックし、トピック構造にテーブルを追加する方法を選択します。

注: Data Integration Hub により、各トピックテーブルに DIH_PUBLICATION_INSTANCE_DATE、DIH_PUBLICATION_INSTANCE_ID、および DIH__UPDATE_STRATEGY_FLAG カラムが追加されます。テーブルの作成が終了すると、トピックウィザードの **【構造】** ページの **【構造のプレビュー】** 領域にこれらのカラムが表示されます。

2. **【次へ】** をクリックします。

【テーブルリレーション】 ページが表示されます。

データベースからのトピックテーブルの追加

組織が保有するデータベースからトピック構造にテーブルを追加します。

データベースからトピックテーブルを追加するには、次の手順を実行します。

1. **【新規トピック】** ウィザードの **【構造】** ページで、**【テーブルの追加】** をクリックして **【データベースから】** を選択します。

【データベースからのテーブルの追加】 ページが表示されます。

2. **【データベース接続】** の横にある **【参照】** ボタンをクリックします。

【メタデータ接続の選択】 ダイアログボックスが表示されます。

3. 接続リストから接続を選択するか、**【新しい接続】** をクリックして接続を作成します。

注: Teradata 接続を使用するには、トピックの前に接続を作成する必要があります。ここで新しい Teradata 接続を作成することはできません。

Data Integration Hub は、メタデータアクセス接続の詳細を使用してデータベーススキーマ情報にアクセスします。

4. **【メタデータ接続の選択】** ダイアログボックスで **【OK】** をクリックします。

【検索結果】 領域に、データベース内でデフォルトスキーマを使用するテーブルが表示されます。

5. 必要に応じて、データベース内のテーブルを検索します。次のガイドラインに注意して下さい。

- テーブル名でテーブルを検索するには、**【トピックテーブルの検索】** テキストボックスに文字列を入力して **【検索】** をクリックします。

- デフォルトスキーマ以外のスキーマを使用するテーブルを検索するには、オプション **【デフォルトのスキーマだけを表示する】** の選択を解除し、**【スキーマ】** テキストボックスに文字列を入力して **【検索】** をクリックします。
 - 検索結果を消去してデフォルトスキーマを使用するテーブルのみを表示するには、オプション **【デフォルトのスキーマだけを表示する】** を選択して **【すべて表示】** をクリックします。
 - 検索は、大文字小文字を区別しません。
 - サブストリングを検索することも可能です。
6. **【トピックテーブルの選択】** 領域で、トピック構造に含めるデータベース内のテーブルを選択し、**【テーブルの追加】** をクリックします。
- 【データベースからのテーブルの追加】** ページが閉じます。**【構造】** ページに、トピックテーブルのリストと、トピック構造のプレビューが表示されます。

フラットファイルからのトピックテーブルの追加

サンプルフラットファイルからトピック構造にテーブルを追加します。トピックテーブルを追加する場合に使用できるのは、区切りファイルのみです。

1. **【新規トピック】** ウィザードの **【構造】** ページで、**【テーブルの追加】** をクリックして **【フラットファイルから】** を選択します。
【ファイルからのテーブルの追加】 ウィザードが開いて、**【定義】** ページが表示されます。
2. **【サンプルファイル】** の横にある **【参照】** ボタンをクリックします。
【サンプルファイル】 ダイアログボックスが表示されます。
3. **【参照】** をクリックし、ファイルを選択して **【アップロード】** をクリックします。
【サンプルファイル】 ダイアログボックスが閉じます。
4. **【ファイル形式】** 領域で、次のパラメータを定義します。

コードページ

ファイルで使用される文字エンコード。

カラム名をインポート

オプション。**【はい】** を選択すると、ファイル内のカラム名をテーブルのデフォルトのカラムヘッダーとして使用することができます。**【使用する行】** にファイルのヘッダー行として使用する行の番号を入力します。

デフォルトのテキスト長

オプション。テーブル内のテキストフィールドの長さ。

区切り文字

カラムを区切るためにファイル内で使用される区切り文字。事前に定義された区切り文字を選択するか、**【カスタム】** を選択してカスタムの区切り文字を定義します。サポートされているカラム区切り文字の詳細については、『*PowerCenter Designer ガイド*』の区切り記号付きフラットファイルのインポートについてのセクションと区切り記号付きファイルのプロパティの更新についてのセクションを参照してください。

テキスト修飾子

オプション。文字列を囲むためにファイルで使用される記号。

【プレビュー】 領域にテーブル内のカラムが表示されます。

5. **【次へ】** をクリックします。
【ファイルからのテーブルの追加】 ウィザードの **【構造】** ページが表示されます。

6. テーブル構造を確認し、必要に応じて調整します。次のリストに、**【ファイルからのテーブルの追加】** ウィザードの **【構造】** ページの要素を示します。

テーブル名

テーブルの名前。デフォルトでは、Data Integration Hub はユーザーが **【定義】** ページで選択したファイルの名前からテーブル名を取得します。デフォルト名を編集できます。

テーブルの名前に含めることができるのは ASCII の英数字とアンダースコアのみで、先頭に数字を使用することはできません。

名前は Data Integration Hub パブリケーションリポジトリ内で一意でなければなりません。

カラムテーブル

テーブルのカラムの追加、順序付け、および削除を行うには、追加ボタン、上下ボタン、および削除ボタンを使用します。テーブルには少なくとも 1 つのカラムが含まれている必要があります。

各カラムには、次の情報が含まれなくてはなりません。

- カラム名。名前はアルファベットまたはアンダースコアで開始し、英数字およびアンダースコアのみを使用できます。
【定義】 ページの **【カラム名をインポート】** オプションを選択した場合、Data Integration Hub は定義された行の文字列をカラム名に入力します。**【カラム名をインポート】** オプションを選択しなかった場合、Data Integration Hub はカラムにデフォルト名を割り当てます。例えば、**Field1**、**Field2**、**Field n** などです。
- データ型。使用可能なデータ型のリストから選択します。デフォルトでは、Data Integration Hub はデータを文字列として読み取ります。
- 精度。精度をサポートするデータ型に対してのみ設定できます。
- スケール。データスケールをサポートするデータ型に対してのみ設定できます。

プレビュー

この領域にはテーブル内のカラムが表示されます。フラットファイルの構造を表すサンプルファイルを選択すると、この領域にサンプルファイルのデータが表示されます。

7. **【完了】** をクリックします。

【ファイルからのテーブルの追加】 ウィザードが閉じます。**【新規トピック】** ウィザードの **【構造】** ページに、トピックテーブルと、トピック構造のプレビューが表示されます。

PowerCenter ワークフローからのトピックテーブルの追加

PowerCenter ワークフローからトピック構造にテーブルを追加します。

1. **【新規トピック】** ウィザードの **【構造】** ページで、**【テーブルの追加】** をクリックして **【PowerCenter から】** を選択します。

【PowerCenter ワークフローからのテーブルの追加】 ページが表示されます。

2. 次に示すオプションの 1 つを選択し、トピック構造にテーブルを追加します。

- PowerCenter リポジトリからワークフローを選択する場合は、**【PowerCenter リポジトリからのワークフローの選択】** を選択します。**【フォルダ名】** テキストボックスに文字列を入力して **【検索】** をクリックするか、**【すべて表示】** をクリックしてリストからワークフローを選択します。
- ワークフロー定義ファイルを選択するには、**【ワークフロー定義ファイル (.xml) の選択】** を選択します。参照してファイルを選択し、**【アップロード】** をクリックします。

3. **【保存】** をクリックします。

【PowerCenter ワークフローからのテーブルの追加】 ページが閉じます。**【構造】** ページに、トピックテーブルのリストと、トピック構造のプレビューが表示されます。

メタデータファイルからのトピックテーブルの追加

Data Integration Hub にメタデータファイルをロードして、ファイル構造に基づくトピックテーブルを作成できます。Data Integration Hub は、JSON、XML、XLS、および XLXS のファイル形式をサポートします。

1. [新規トピック] ウィザードの [構造] ページで、[テーブルの追加] をクリックして [メタデータファイルからのテーブルの追加] を選択します。
[メタデータファイルからのテーブルの追加] ページが表示されます。
2. 参照してファイルを選択し、[アップロード] をクリックします。
3. テーブル名を入力し、[保存] をクリックします。
[構造] ページに、トピックテーブルのリストと、トピック構造のプレビューが表示されます。

トピックテーブルの作成

テーブルを作成して、トピック構造にテーブルを追加します。

1. [新規トピック] ウィザードの [構造] ページで、[テーブルの追加] をクリックして [作成] を選択します。
[テーブルの作成] ページが表示されます。
2. [テーブル名] フィールドに論理テーブル名を入力します。
3. 必要に応じて、物理テーブル名を変更します。
4. 必要に応じて、テーブルの説明を入力します。
5. テーブルのカラムを追加および順序付けするには、追加ボタンおよび上下ボタンを使用します。テーブルに少なくとも 1 つのカラムを追加する必要があります。
カラムごとに次の情報を入力します。
 - [カラム名]。カラムの論理名。名前は英文字またはアンダースコアで開始する必要があり、英数字およびアンダースコアのみを含めることができます。
 - 物理名。カラムの物理名。名前は英文字またはアンダースコアで開始する必要があり、英数字およびアンダースコアのみを含めることができます。
 - [データ型]。使用可能なデータ型のリストから選択します。
 - 精度。精度をサポートするデータ型に対してのみ設定できます。
 - スケール。データスケールをサポートするデータ型に対してのみ設定できます。
 - 説明。カラムの説明（省略可能）。

注: Data Integration Hub により、各トピックテーブルに DIH_PUBLICATION_INSTANCE_DATE、DIH_PUBLICATION_INSTANCE_ID、および DIH__UPDATE_STRATEGY_FLAG カラムが追加されます。テーブルの作成が終了すると、トピックウィザードの [構造] ページの [構造のプレビュー] 領域にこれらのカラムが表示されます。
6. [OK] をクリックします。
[テーブルの作成] ページが閉じます。[構造] ページに、トピックテーブルと、トピック構造のプレビューが表示されます。

手順 4. トピックテーブルのリレーションの定義

[新規トピック] ウィザードの [テーブルのリレーション] ページのトピックテーブル間のリレーションを定義して、自動データベースおよびフラットファイルサブスクリプションがトピックから使用するデータをフィル

タリングすることができます。バインドされていないサブスクリプションで使用予定のトピックのフィルタアクセラレータを定義することもできます。

ヒント: **[表示]** リストでは、すべてのトピックテーブルを表示するか、特定のテーブルを表示するかを選択できます。

1. **[フィルタアクセラレータ]** カラムでは、フィルタアクセラレータとして1つまたは複数のカラムを定義します。フィルタアクセラレータは、サブスクリプションのクエリでカラムが使用されること、および Data Integration Hub によるパフォーマンス関連の処理が必要であることを示します。このインジケータは、バインドされていないサブスクリプションで使用予定のトピックとともに使用してください。
フィルタアクセラレータを使用する場合は、パフォーマンス関連の処理がシステムパフォーマンスに与える影響を考慮する必要があります。
 - フィルタアクセラレータにより、フィルタと PowerCenter のプッシュダウンの最適化を両方とも使用するサブスクリプションの処理を迅速に行えます。デフォルトでは、PowerCenter のプッシュダウンの最適化オプションは、バインドされていないサブスクリプションに対してのみ選択されています。
 - フィルタアクセラレータにより、Data Integration Hub パブリケーションリポジトリへのパブリケーションデータの書き込み速度は遅くなります。
 - フィルタアクセラレータは、フィルタを使用しないサブスクリプションには影響しません。
2. **[キー]** カラムでは、リレーションをプライマリキーとして定義するトピックテーブルからカラムを定義します。
3. テーブルごとに1つのプライマリキーをテーブルの数に応じて必要なだけ定義します。
4. プライマリキーを定義したテーブルごとに、1つまたは複数の外部キーを定義します。外部キーは、別のテーブルのプライマリキーに関連付ける必要があります。
5. **[次へ]** をクリックします。
[データ保持] ページが表示されます。

手順 5. データ保持期間の定義

[新規トピック] ウィザードの **[データ保持]** ページで、データの保持期間を定義します。

1. 次のいずれかのオプションを選択します。

[パブリッシュされたデータの保持期間] **[使用後の保持日数]**

データがコンシュームされてから、Data Integration Hub が、Data Integration Hub パブリケーションリポジトリにデータを保持する日数を入力します。データの保持期限に達したら、Data Integration Hub はリポジトリからデータを削除します。

このトピックにパブリッシュされたデータを削除しない

Data Integration Hub はパブリケーションリポジトリ内のデータを削除しません。

2. **[次へ]** をクリックします。

[権限] ページが表示されます。

手順 6. トピックの権限の割り当て

[新規トピック] ウィザードの **[権限]** ページにある操作コンソールでトピックへのアクセスを制御します。権限を割り当てない場合は、すべての Data Integration Hub ユーザーがトピックにアクセスできるようになります。

1. **[使用可能なカテゴリ]** でトピックへの権限を割り当てるカテゴリを選択し、右矢印をクリックします。
選択したカテゴリが **[選択したカテゴリ]** に表示されます。
2. カテゴリをさらに割り当てるには、手順 [1](#) を繰り返します。

3. **【次へ】** をクリックします。
【サマリ】 ページが表示されます。

手順 7. トピックの設定の確認およびトピックの保存

【新規トピック】 ウィザードの **【サマリ】** ページで、トピックの設定を確認してトピックを保存します。

1. トピックの設定を確認します。
2. **【完了】** をクリックします。

【新規トピック】 ウィザードが閉じます。**【トピック】** ページに作成したトピックが表示されます。このトピックにデータを公開するパブリケーションと、このトピックからデータを使用するサブスクリプションを作成できます。

トピックはカタログに表示されます。ユーザーは Data Integration Hub で使用可能なすべてのデータセットをカタログに表示して、ターゲットアプリケーションに必要なデータが Data Integration Hub 内にあることを確認できます。

ファイルストアアプリケーションリポジトリを使用するトピックの作成

ファイルストアアプリケーションリポジトリを使用するトピックを作成するには、次のタスクを実行します。

1. **【新規トピック】** ウィザードにアクセスします。
2. トピックの基本的なプロパティを定義します。
3. トピックデータ構造を作成します。
4. 必要に応じて、トピックテーブルのリレーションを定義します。
5. データ保持期間と格納場所を定義します。
6. 必要に応じて、トピックの権限を割り当てます。
7. トピックの設定を確認して、トピックを保存します。

タスクの前提条件

このタスクを開始する前に、作成するトピック構造の詳細を取得します。

手順 1. [新規ファイルストアトピック] ウィザードへのアクセス

Data Integration Hub 操作コンソールで **【新規ファイルストアトピック】** ウィザードにアクセスします。

1. ナビゲータで **【ハブの管理】** > **【トピック】** をクリックします。
【トピック】 ページが表示されます。
2. **【新規トピック】** をクリックし、**【ファイルストア】** を選択してから **【作成】** をクリックします。
【新規ファイルストアトピック】 ウィザードが表示されます。

手順 2. 基本的なトピックプロパティの定義

【新規トピック】 ウィザードの **【全般】** ページで、トピックプロパティを定義します。

1. トピック名を入力します。

2. 必要に応じて、トピックの説明を入力します。
3. 必要に応じて、トピックにタグを割り当て、そのタグに基づいて【トピック】ページと【カタログ】ページでトピックを検索できるようにします。
4. トピックタイプを選択します。
 - 差分。トピックのインスタンスには最新のデータ変更のみが含まれます。このトピックタイプを選択した場合は、データソースに差分インジケータが含まれていることを確認します。
 - 全体。トピックインスタンスには、前回のパブリケーション後に加えられたすべてのデータ変更が含まれます。カスタムマッピングを使用するパブリケーションにこのトピックを関連付ける場合は、このトピックを選択します。
5. 【パブリケーションリポジトリ】で【ファイルリポジトリ】を選択します。

注:【このトピックに対する新しいパブリケーションおよび新しいサブスクリプションを禁止】オプションを選択した場合は、トピックへのパブリッシュやトピックからのサブスクライブを行うパブリケーションおよびサブスクリプションは作成できません。
6. 【次へ】をクリックします。

【構造】ページが表示されます。

手順 3. トピックのデータ構造の作成

【新規トピック】ウィザードの【構造】ページで、トピックのデータ構造を作成してプレビューします。

1. 【テーブルの追加】をクリックします。

【テーブルの作成】ページが表示されます。カラムテーブルフィールドには、デフォルトの Data Integration Hub 値が表示されます。編集できるのはカラム精度のフィールドのみです。

注: Data Integration Hub により、各トピックテーブルに DIH_PUBLICATION_INSTANCE_DATE、DIH_PUBLICATION_INSTANCE_ID、および DIH__UPDATE_STRATEGY_FLAG カラムが追加されます。テーブルの作成が終了すると、トピックウィザードの【構造】ページの【構造のプレビュー】領域にこれらのカラムが表示されます。
2. 【テーブル名】フィールドに論理テーブル名を入力します。
3. 必要に応じて、物理テーブル名を変更します。
4. 必要に応じて、テーブルの説明を入力します。
5. 必要に応じて、カラム精度フィールドを編集します。
6. 【OK】をクリックします。

【テーブルの作成】ページが閉じます。【構造】ページに、トピックテーブルと、トピック構造のプレビューが表示されます。
7. 【次へ】をクリックします。

【テーブルリレーション】ページが表示されます。

手順 4. トピックテーブルのリレーションの定義

【新規トピック】ウィザードの【テーブルのリレーション】ページのトピックテーブル間のリレーションを定義して、自動データベースおよびフラットファイルサブスクリプションがトピックから使用するデータをフィル

タリングすることができます。バインドされていないサブスクリプションで使用予定のトピックのフィルタアクセラレータを定義することもできます。

ヒント: **[表示]** リストでは、すべてのトピックテーブルを表示するか、特定のテーブルを表示するかを選択できます。

1. **[フィルタアクセラレータ]** カラムでは、フィルタアクセラレータとして1つまたは複数のカラムを定義します。フィルタアクセラレータは、サブスクリプションのクエリでカラムが使用されること、および Data Integration Hub によるパフォーマンス関連の処理が必要であることを示します。このインジケータは、バインドされていないサブスクリプションで使用予定のトピックとともに使用してください。

フィルタアクセラレータを使用する場合は、パフォーマンス関連の処理がシステムパフォーマンスに与える影響を考慮する必要があります。

- フィルタアクセラレータにより、フィルタと PowerCenter のプッシュダウンの最適化を両方とも使用するサブスクリプションの処理を迅速に行えます。デフォルトでは、PowerCenter のプッシュダウンの最適化オプションは、バインドされていないサブスクリプションに対してのみ選択されています。
 - フィルタアクセラレータにより、Data Integration Hub パブリケーションリポジトリへのパブリケーションデータの書き込み速度は遅くなります。
 - フィルタアクセラレータは、フィルタを使用しないサブスクリプションには影響しません。
2. **[キー]** カラムでは、リレーションをプライマリキーとして定義するトピックテーブルからカラムを定義します。
 3. テーブルごとに1つのプライマリキーをテーブルの数に応じて必要なだけ定義します。
 4. プライマリキーを定義したテーブルごとに、1つまたは複数の外部キーを定義します。外部キーは、別のテーブルのプライマリキーに関連付ける必要があります。
 5. **[次へ]** をクリックします。
[データ保持] ページが表示されます。

手順 5. データ保持期間と格納場所の定義

[新規トピック] ウィザードの **[データ保持]** ページで、データの保持期間とデータの格納場所を定義します。

1. データの使用後に Data Integration Hub がデータを Data Integration Hub パブリケーションデータベースに保持する日数を、**[パブリケーションデータ保持期間]** フィールドに入力します。
2. **[詳細]** をクリックします。
[データ格納場所] 領域が表示されます。
3. トピックに公開されたデータを Data Integration Hub が格納する、データベース内の場所を選択します。
 - デフォルト。Data Integration Hub は、デフォルトのストレージ設定に基づいてデータを格納します。例えば、デフォルトのファイルグループなどです。
 - カスタム。パブリケーションリポジトリデータベース内の使用可能なデータストレージグループを参照して、選択します。例えば、使用可能なファイルグループを参照します。
4. **[次へ]** をクリックします。
[権限] ページが表示されます。

手順 6. トピックの権限の割り当て

【新規トピック】ウィザードの【権限】ページにある操作コンソールでトピックへのアクセスを制御します。権限を割り当てない場合は、すべての Data Integration Hub ユーザーがトピックにアクセスできるようになります。

1. 【使用可能なカテゴリ】でトピックへの権限を割り当てるカテゴリを選択し、右矢印をクリックします。
選択したカテゴリが【選択したカテゴリ】に表示されます。
2. カテゴリをさらに割り当てるには、手順 1 を繰り返します。
3. 【次へ】をクリックします。
【サマリ】ページが表示されます。

手順 7. トピックの設定の確認およびトピックの保存

【新規トピック】ウィザードの【サマリ】ページで、トピックの設定を確認してトピックを保存します。

1. トピックの設定を確認します。
2. 【完了】をクリックします。

【新規トピック】ウィザードが閉じます。【トピック】ページに作成したトピックが表示されます。このトピックにデータを公開するパブリケーションと、このトピックからデータを使用するサブスクリプションを作成できます。

トピックはカタログに表示されます。ユーザーは Data Integration Hub で使用可能なすべてのデータセットをカタログに表示して、ターゲットアプリケーションに必要なデータが Data Integration Hub 内にあることを確認できます。

リアルタイムパブリケーションリポジトリを使用したトピックの作成

このトピックでは、Apache Kafka メッセージングプラットフォームからコンシューマメトリックを取得するトピックを作成する方法について説明します。

タスクの前提条件

このタスクを開始する前に、作成するトピック構造の詳細を取得します。

Apache Kafka リポジトリを使用した新規トピックを作成するには、次のタスクを実行します。

1. ナビゲータで【ハブの管理】 > 【トピック】をクリックします。
【トピック】ページが表示されます。
2. 【新規トピック】をクリックし、【リアルタイム】を選択してから【作成】をクリックします。
【リアルタイムトピックの作成】ウィザードが表示されます。
3. トピック名を入力します。
4. 必要に応じて、トピックの説明を入力します。
5. 必要に応じて、トピックにタグを割り当て、そのタグに基づいて【トピック】ページと【カタログ】ページでトピックを検索できるようにします。
6. パーティションの数を入力します。
トピックに含めることができるパーティションの最大数は 999 です。

7. トピックが Apache Kafka サーバーからコンシューマメトリックを取得する必要がある間隔を選択します。
デフォルト値は 30 秒です。
8. **【権限】** をクリックして、カテゴリの権限をトピックに提供します。
 - a. **【使用可能なカテゴリ】** からカテゴリを選択し、右矢印をクリックします。
選択したカテゴリが **【選択したカテゴリ】** のリストに表示されます。現在トピックには、選択したカテゴリに対して定義されている権限があります。
9. **【保存】** をクリックします。
【リアルタイムトピックの作成】 ウィザードが閉じます。[トピック] ページに作成したトピックが表示されます。このトピックにデータをパブリッシュするパブリケーションと、このトピックからデータを使用するサブスクリプションを作成できます。
【カタログ】 ページに新規トピックが表示されます。

第 4 章

パブリケーションの作成

この章では、以下の項目について説明します。

- [パブリケーション作成の概要, 41 ページ](#)
- [自動リレーショナルデータベースパブリケーションの作成, 42 ページ](#)
- [自動フラットファイルパブリケーションの作成, 47 ページ](#)
- [自動パススルーファイルパブリケーションの作成, 55 ページ](#)
- [自動データドリブンパブリケーションの作成, 58 ページ](#)
- [カスタムバッチパブリケーションの作成, 61 ページ](#)
- [カスタムマルチレイテンシーパブリケーションの作成, 64 ページ](#)
- [カスタムクラウドパブリケーションの作成, 66 ページ](#)
- [カスタムパススルー Kafka パブリケーションの作成, 68 ページ](#)
- [モジュール式クラウドパブリケーションの作成, 70 ページ](#)

パブリケーション作成の概要

この章では、データを公開するパブリケーションを作成します。最初に、「トピックの作成」の章を完了する必要があります。

パブリケーションを作成する場合は、アプリケーションのデータパブリッシュ先となるトピックを選択します。

章の目的

この章では、次のタスクを実行します。

- リレーショナルデータベースソースを使用した自動パブリケーションを作成する。
- フラットファイルソースを使用した自動パブリケーションを作成する。
- 非構造化ファイルソースを使用した自動パブリケーションを作成する。
- REST API を使用してデータをパブリッシュする自動データドリブンパブリケーションを作成する。
- バッチワークフローを使用したカスタムパブリケーションを作成する。
- リアルタイムワークフローを使用したカスタムパブリケーションを作成する。
- Informatica Intelligent Cloud Services タスクを使用したカスタムパブリケーションを作成する。
- クラウドソースを使用したモジュール式パブリケーションを作成する。

自動リレーショナルデータベースパブリケーションの作成

リレーショナルデータベースソースを使用して自動パブリケーションを作成するには、次のタスクを実行します。

1. [パブリケーション作成] ウィザードにアクセスします。
2. 基本的なパブリケーションプロパティを定義します。
3. パブリケーションソースを選択します。必要に応じてパブリケーションの結合を定義します。
4. パブリケーションフィールドマッピングを確認し、Data Integration Hub がデフォルトで生成するマッピングを必要に応じて編集します。
5. 必要に応じて、パブリケーションのフィルタを定義します。
6. パブリケーションのスケジュールを定義します。
7. 必要に応じて、権限をパブリケーションに割り当てます。パブリケーションを割り当てるカテゴリを選択します。パブリケーションに割り当てられるのは、関連付けられているアプリケーションに割り当てられているカテゴリのみです。
8. パブリケーションの設定を確認して、パブリケーションを保存します。

タスクの前提条件

このタスクを開始する前に、次の要件を確認してください。

- ソースデータを保持するデータベースが存在する。
- Data Integration Hub 操作コンソールでソースデータベースとの接続が設定されている。
- アプリケーションが作成されている。
- トピックが作成されている。

手順 1. [自動データベースパブリケーションの作成] ウィザードへのアクセス

[パブリケーション作成] ウィザードには、Data Integration Hub 操作コンソールからアクセスします。

1. ナビゲータで **[ハブの管理]** > **[アプリケーション]** をクリックします。
[アプリケーション] ページが表示されます。
2. コンテンツの公開元となるアプリケーションの名前をクリックします。
[アプリケーションの編集] ページが表示されます。
3. **[パブリケーション]** タブを選択します。**[新規]** をクリックし、**[自動]** > **[リレーショナルデータベース]** を選択してから **[作成]** をクリックします。
[自動データベースパブリケーションの作成] ウィザードが表示されます。

手順 2. 基本的なパブリケーションプロパティの定義

パブリケーションウィザードの **[全般]** ページでパブリケーションプロパティを定義します。

1. パブリケーション名を入力します。
2. 必要に応じて、パブリケーションの説明を入力します。
3. **[トピック]** リストからトピックを選択します。

【トピック構造】領域に、アプリケーションがデータを公開する宛先のトピックの構造が表示されます。トピック内のすべてのテーブルの構造を表示することも、構造を表示するテーブルを選択することもできます。

4. 【次へ】をクリックします。
【処理中】ページが表示されます。
5. 【次へ】をクリックします。
【ソース】ページが表示されます。

手順 3. パブリケーションソースの選択

パブリケーションウィザードの【ソース】ページで、Data Integration Hub がデータを読み取るパブリケーションソースを選択します。

1. 【データベース接続】リストで接続を選択します。
【既存のテーブルを結合して新しい結合を定義する】セクションが表示されます。
2. 必要に応じて、パブリケーションの結合を作成します。結合は、データベース内の 2 つ以上のテーブルのカラムを組み合わせます。複数の結合を作成したり、結合のデータを組み合わせて新しい結合を作成したりできます。結合は仮想エンティティであり、ソースデータベースまたはトピックに作成されません。

結合を作成するには、次のアクションを実行します。

- a. デフォルトで、【ソース】ページにはデフォルトのスキーマのみが表示され、デフォルトのスキーマが左右両方のテーブル用に選択されています。デフォルト以外のスキーマを選択するには、【デフォルトのスキーマだけを表示する】オプションを選択解除し、左右のテーブル用にスキーマを選択します。

注: デフォルト以外のスキーマを選択する場合は、結合を定義するときに、異なるスキーマの名前が同じ 2 つのソーステーブルを使用しないでください。結合の作成に使用するソーステーブル名は、スキーマ全体で一意である必要があります。

- b. 【左テーブルを選択】リストと【右テーブルを選択】リストから結合するテーブルを選択します。
 - c. 【結合タイプを選択】リストから結合タイプを選択し、結合名を【結合名】フィールドに入力します。結合に割り当てる名前は、結合をトピックテーブルにマッピングできる【フィールドマッピング】ページに表示されます。
 - d. 左テーブルから結合するカラムを選択し、次に右テーブルからも結合するカラムを選択します。他のカラムを結合に追加するには、プラス記号をクリックして結合するカラムを選択します。
 - e. 【結合の作成】をクリックします。
新しい結合が【ソース】ページに表示されます。
 - f. ステップ 2 を繰り返して、必要な数の結合を作成します。
3. 【次へ】をクリックします。
【フィールドマッピング】ページが表示されます。

手順 4. パブリケーションのフィールドマッピングの表示と編集

パブリケーションウィザードの【フィールドマッピング】ページで、トピックテーブルとトピックフィールドに対するソーステーブルとソースフィールドのマッピングを確認および編集します。「手順 3. パブリケーション

ンソースの選択」で結合を作成した場合、トピックテーブルおよびトピックフィールドに対する結合およびフィールドのフィールドマッピングを設定します。

1. 次のアクションを実行して、結合をトピックテーブルにマッピングします。
 - a. [テーブルマッピングの編集] アイコンをクリックします。
[テーブルマッピングの編集] ダイアログボックスが表示されます。
 - b. マッピングする結合の行をクリックし、[ソーステーブルのマッピング] をクリックします。
[テーブルマッピングの編集] ダイアログボックスが閉じます。[フィールドマッピング] ページの [マッピングされたソーステーブル] リストに、マッピングした結合が表示されます。
 - c. 手順 3 に進み、結合のフィールドをトピックテーブルのフィールドにマッピングします。
2. トピックテーブルへのソーステーブルのマッピングを確認および編集するには、次のアクションを実行します。
 - a. [テーブルマッピングの編集] アイコンをクリックします。
[テーブルマッピングの編集] ダイアログボックスが表示されます。
 - b. データベース内のテーブルを検索します。次のガイドラインに注意してください。
 - テーブル名でテーブルを検索するには、[ソーステーブルの検索] テキストボックスに文字列を入力して [検索] をクリックします。
 - デフォルトスキーマ以外のスキーマを使用するテーブルを検索するには、オプション [デフォルトのスキーマだけを表示する] の選択を解除し、[スキーマ] テキストボックスに文字列を入力して [検索] をクリックします。
 - 検索結果をクリアしてデフォルトスキーマを使用するテーブルのみを表示するには、オプション [デフォルトのスキーマだけを表示する] を選択し、[すべて表示] をクリックします。
 - 検索は、大文字小文字を区別しません。
 - サブストリングを検索することも可能です。

[検索結果] セクションに、検索文字列に一致するソーステーブルと、各テーブルで使用されるスキーマが表示されます。マッピングを編集中のトピックテーブルの名前が、トピックテーブルにマッピングされているソーステーブルの行の [マッピング先] カラムに表示されます。
 - c. トピックテーブルに別のソーステーブルをマッピングするには、マッピングするソーステーブルの行をクリックして、[ソーステーブルのマッピング] をクリックします。
[テーブルマッピングの編集] ダイアログボックスが閉じます。[フィールドマッピング] ページに変更後の新しいマッピングが表示されます。
3. トピックテーブル内のフィールドに対するソーステーブル内または結合内のフィールドのマッピングを設定、確認、および編集するには、次のアクションを実行します。
 - a. [フィールドマッピングの編集] アイコンをクリックします。
[フィールドマッピングの編集] ダイアログボックスが表示されます。
 - b. トピックテーブルとソーステーブルで使用されているフィールドを検索するには、[検索フィールド] にフィールド名の文字列を入力し、[検索] をクリックします。検索は、大文字小文字を区別しません。サブストリングを検索することも可能です。

マッピングされていないフィールドのみを検索結果に表示するには、[マッピングされていないフィールドのみを表示] を選択します。

検索文字列に一致するソースフィールドとトピックフィールドが表示されます。フィールド名の横にある緑色のチェックマークは、そのフィールドがマッピングされていることを示します。
 - c. ソーステーブルフィールドをトピックテーブルフィールドにマッピングするには、[ソーステーブル] セクションから [トピックテーブル] セクションにフィールドをドラッグします。

- d. 式をフィールドに追加するには、**【アクション】** カラムで、式アイコンをクリックして **【式エディタ】** を開き、フィールドおよびフィールドに追加する関数を選択します。
 - e. フィールドのマッピングをクリアするには、**【アクション】** カラムで、クリアアイコンをクリックします。
 - f. フィールドの詳細を表示するには、フィールド名の左側にある詳細アイコンをクリックします。
 - g. Data Integration Hub でデフォルトのフィールドマッピングに戻すには、**【自動マッピング】** をクリックします。
 - h. すべてのフィールドマッピングをクリアするには、**【すべてクリア】** をクリックします。
 - i. **【OK】** をクリックしてフィールドをマッピングします。
【フィールドマッピングの編集】 ダイアログボックスが閉じます。
4. Data Integration Hub でデフォルトのテーブルマッピングとフィールドマッピングに戻すには、**【フィールドマッピング】** ページの **【自動マッピング】** をクリックします。
 5. テーブルとフィールドのマッピングをすべてクリアするには、**【フィールドマッピング】** ページの **【すべてクリア】** をクリックします。
注: パブリケーションにはマッピングされたソーステーブルが少なくとも 1 つ含まれている必要があります。
 6. **【フィールドマッピング】** ページで **【次へ】** をクリックします。
【フィルタ】 ページが表示されます。

手順 5. フィルタの定義

リレーショナルデータベースまたはフラットファイルの自動パブリケーションがパブリッシュするデータを定義するには、フィルタをパブリケーションに追加します。パブリケーションにフィルタを追加すると、テーブル行のフィルタ条件を定義できます。

フィルタ条件は、基本式と詳細式を使用して定義できます。複数の方法を使用して、テーブル行にフィルタを追加できます。

基本式

基本条件ビルダーの演算子および値が要件を満たしている場合に、テーブル行に条件を適用する場合は、この方法を使用します。例えば、[Orders] テーブルの [ShippedDate] カラムの日付が 2016 年 4 月 1 日より後であるという条件を追加します。

詳細式

PowerCenter 式を使用してテーブルにフィルタ条件を追加します。例えば、[Orders] テーブルに次の式を追加します。

```
(ShipCountry='USA') and ((ShipCity='New York') or (ShipCity='Los Angeles'))
```

フィルタには AND ロジックが使用されます。テーブルに複数のフィルタが存在する場合、Data Integration Hub はすべての条件を満たす行のみをパブリッシュします。

1. 作成する式のタイプを選択します。
2. フィルタを適用するテーブルを **【テーブルの選択】** リストから選択します。
3. 選択した方法に従って条件パラメータを入力します。
 - 基本式: 手順 [4](#) に移動します。
 - 詳細式: 手順 [5](#) に移動します。

4. 基本式を作成するには、次の手順を実行します。
 - a. フィルタリングするカラムを【カラムの選択】リストから選択します。
 - b. フィルタ演算子を【演算子の選択】リストから選択します。使用できる演算子は、カラムの内容のタイプによって決まります。
 - c. 【値の選択】が有効の場合、演算子の値を選択または入力します。
 - d. 式の行の右にあるプラスアイコンをクリックします。条件リストに条件が表示されます。
5. 詳細式を作成するには、次の手順を実行します。
 - a. テキストフィールドに有効な PowerCenter 式を入力します。別の方法として、基本式を作成し、【詳細式】を選択して式を完成させることもできます。式は選択したテーブルに限定されます。式には最大 1024 文字を含めることができます。
 - b. 式の行の右にあるプラスアイコンをクリックします。条件リストに条件が表示されます。
6. 手順 1～5 を繰り返し、必要な条件を追加します。
7. 【次へ】をクリックします。
【スケジュール】ページが表示されます。

手順 6. パブリケーションスケジュールの定義

パブリケーションウィザードの【スケジュール】ページで、データパブリケーションの方法と頻度を定義します。

1. データパブリッシュの方法および頻度を選択します。

手動または外部トリガを使用

スケジュールは設定されません。次の方法を使用してパブリケーションを実行することができます。

- 手動で実行する。【パブリケーション】ページの実行矢印をクリックします。
- API で実行する。パブリケーションを開始するコマンドライン API または REST API を呼び出します。
- PowerCenter ワークフローで実行する。パブリケーションのトランスフォーメーションを開始する。

このスケジュールオプションを使用するファイルパブリケーションの場合と、複数のファイルをパブリッシュするファイルパブリケーションの場合、パブリケーションの開始時にすべてのファイルがソースの場所に存在している必要があります。

スケジュールを使用

定義されたスケジュールに従ってパブリケーションを実行します。次のいずれかのオプションを選択します。

- n 分ごと。最大 60 分間隔でパブリケーションを実行します。リストから分数を選択します。
- 時間ごと。最大 24 時間間隔でパブリケーションを実行します。リストから時間数を選択します。パブリケーションはその時間の開始時に実行されます。例えば、「2」を入力した場合、パブリケーションは 00:00、02:00 に、2 時間間隔で実行されます。
- 日。毎日同じ時間にパブリケーションを実行します。
- 週。毎週同じ曜日（1 つ以上）の同じ時間にパブリケーションを実行します。

- 月。毎月特定の日付または特定の曜日の同じ時間にパブリケーションを実行します。

【実行の繰り返し】 領域でパブリケーション間隔を定義します。

このスケジュールオプションを使用するファイルパブリケーションの場合と、複数のファイルをパブリッシュするファイルパブリケーションの場合、パブリケーションの開始時にすべてのファイルがソースの場所に存在している必要があります。

次のパブリケーションまたはサブスクリプションの実行が完了した後

ここで指定したパブリケーションまたはサブスクリプションの実行が完了した後、パブリケーションが実行されます。

2. 【次へ】 をクリックします。

【権限】 ページが表示されます。

手順 7.パブリケーション権限の割り当て

パブリケーションウィザードの【権限】 ページでカテゴリをパブリケーションに割り当てることで、操作コンソールのパブリケーションへのアクセスを管理します。カテゴリをパブリケーションに割り当てない場合、関連付けられているアプリケーションからのカテゴリが継承されます。カテゴリがアプリケーションに割り当てられていない場合、すべての Data Integration Hub ユーザーがパブリケーションにアクセスできます。

1. 【使用可能なカテゴリ】 でパブリケーションへの権限を割り当てるカテゴリを 1 つ以上選択し、右矢印をクリックします。

選択したカテゴリが【選択したカテゴリ】 に表示されます。

カテゴリは【選択したカテゴリ】 から【使用可能なカテゴリ】 に割り当て解除できます。

2. 【次へ】 をクリックします。

【サマリ】 ページが表示されます。

手順 8. パブリケーションの設定の確認およびパブリケーションの保存

パブリケーションウィザードの【サマリ】 ページで、パブリケーションの設定を確認し、パブリケーションを保存します。

1. パブリケーションの設定を確認します。
2. 【完了】 をクリックします。

パブリケーションウィザードが閉じます。【アプリケーションの編集】 ページの【パブリケーション】 タブに、作成したパブリケーションが表示されます。パブリケーションはパブリケーションカタログに表示されます。パブリケーションのスケジュールを設定した場合は、定義したスケジュールに従ってパブリケーションからデータが公開されます。

自動フラットファイルパブリケーションの作成

フラットファイルソースを使用して自動パブリケーションを作成するには、次のタスクを実行します。

1. 【パブリケーション作成】 ウィザードにアクセスします。
2. 基本的なパブリケーションプロパティを定義します。
3. パブリケーションソースを選択して設定します。

4. 必要に応じてパブリケーションの結合を定義します。
5. パブリケーションフィールドマッピングを確認し、Data Integration Hub がデフォルトで生成するマッピングを必要に応じて編集します。
6. 必要に応じて、パブリケーションのフィルタを定義します。
7. パブリケーションのスケジュールを定義します。
8. 必要に応じて、権限をパブリケーションに割り当てます。パブリケーションを割り当てるカテゴリを選択します。パブリケーションに割り当てられるのは、関連付けられているアプリケーションに割り当てられているカテゴリのみです。
9. パブリケーションの設定を確認して、パブリケーションを保存します。

タスクの前提条件

このタスクを開始する前に、次の要件を確認してください。

- ソースデータを保持するファイル（1 つ以上）が存在する。
- ソースファイルの場所を把握している。
- HDFS からパブリッシュする場合、ワークフローが使用する HDFS 接続が Data Integration Hub 操作コンソールで設定されていること。
- アプリケーションが作成されている。
- トピックが作成されている。

注: HDFS からパブリッシュする場合、Data Integration Hub で読み取られたソースファイルは削除されません。必要に応じて、ファイルを手動で削除する必要があります。

手順 1. [自動ファイルパブリケーションの作成] ウィザードへのアクセス

[パブリケーション作成] ウィザードには、Data Integration Hub 操作コンソールからアクセスします。

1. ナビゲータで **[ハブの管理]** > **[アプリケーション]** をクリックします。
[アプリケーション] ページが表示されます。
2. コンテンツの公開元となるアプリケーションの名前をクリックします。
[アプリケーションの編集] ページが表示されます。
3. **[パブリケーション]** タブを選択します。**[新規]** をクリックし、**[自動]** > **[フラットファイル]** を選択してから **[作成]** をクリックします。
[自動ファイルパブリケーションの作成] ウィザードが表示されます。

手順 2. 基本的なパブリケーションプロパティの定義

パブリケーションウィザードの **[全般]** ページでパブリケーションプロパティを定義します。

1. パブリケーション名を入力します。
2. 必要に応じて、パブリケーションの説明を入力します。
3. **[トピック]** リストからトピックを選択します。
[トピック構造] 領域に、アプリケーションがデータを公開する宛先のトピックの構造が表示されます。トピック内のすべてのテーブルの構造を表示することも、構造を表示するテーブルを選択することもできます。
4. **[次へ]** をクリックします。

【処理中】 ページが表示されます。

5. 【次へ】 をクリックします。

【ソース】 ページが表示されます。

手順 3. パブリケーションソースの選択と設定

Data Integration Hub がファイルを取得するパブリケーションソースのタイプと場所を、パブリケーションウィザードの【ソース】 ページで選択します。

1. 【ソースタイプ】 リストからソースソースを選択します。

HDFS ソースタイプを選択すると、ページ上に【HDFS 接続】 フィールドが表示されます。

2. HDFS ソースタイプを選択する場合は、【HDFS 接続】 リストから接続を選択します。

3. ファイル転送を使用してリモートサーバーからファイルをパブリッシュするには、【ファイル転送の使用】を選択します。

【接続】 および【取得後にソースからファイルを削除】 フィールドがページに表示されます。

4. ファイル転送を使用するように選択している場合、次のファイル転送プロパティを設定します。

接続

リストから接続を選択します。

取得後にソースからファイルを削除

Data Integration Hub は、読み取り後にファイルを削除します。ファイルを削除するには、リモートサーバーに対する権限が必要です。

5. 【ディレクトリ】 フィールドに、ソースデータが含まれるファイルの場所を入力します。 ファイル転送を使用する場合、パターンを使用してディレクトリパスを定義することはできません。ただし、パターンを使用してファイル名を定義することはできます。

6. 【設定】 をクリックします。

【フラットファイルソースの設定】 ダイアログボックスが表示されます。

7. 【フラットファイルソースの設定】 ダイアログボックスで次のプロパティを設定し、【OK】 をクリックします。

論理名

ソースのわかりやすい名前。パブリケーションのフィールドマッピングを設定するとき、この名前でソースを特定します。

ファイル名

Data Integration Hub が取得し、パブリケーションリポジトリに公開するファイルの名前。ファイル名にはアスタリスクのワイルドカードと変数を含めることができます。変数は(\$pattern)の形式で入力します。例: Input_(\$PublicationName)_(\$sequence).in

次に基いてソースを設定

次のいずれかのオプションを選択します。

- トピックテーブル。フラットファイルの構造を表すトピックテーブルを選択します。
- サンプルファイル。フラットファイルの構造を表すサンプルファイル。 参照してファイルを選択し、アップロードします。

ファイル形式

【ファイル形式】 領域を展開すると、ファイルの形式を表示し、編集できます。ファイル形式を変更すると、カラム構造に影響することがあります。

[ファイル形式] 領域には、次のようなプロパティが含まれます。

コードページ

ファイルで使用する文字エンコード。

スキップする先頭の行数

Data Integration Hub がファイルを読み取るときに無視するファイル先頭の行数。Data Integration Hub は以降の行のみを公開しました。

カラム名をインポート

オプション。[はい] を選択すると、ファイル内のカラム名をテーブルのデフォルトのカラムヘッダーとして使用することができます。[使用する行] にファイルのヘッダー行として使用する行の番号を入力します。

区切り文字

カラムを区切るためにファイル内で使用される区切り文字。事前に定義された区切り文字を選択するか、[カスタム] を選択してカスタムの区切り文字を定義します。サポートされているカラム区切り文字の詳細については、『*PowerCenter Designer ガイド*』の区切り記号付きフラットファイルのインポートについてのセクションと区切り記号付きファイルのプロパティの更新についてのセクションを参照してください。

テキスト修飾子

オプション。文字列を囲むためにファイルで使用する記号。

桁区切り

オプション。桁区切りとしてファイル内で使用される記号。

小数点区切り

小数点記号としてファイル内で使用される記号。

日時フォーマット

ファイル内で使用される日時フォーマット。事前に定義された形式を選択するか、[その他] を選択してカスタム形式を定義します。サポートされている日時フォーマットの詳細については、『*PowerCenter トランスフォーメーション言語リファレンス*』を参照してください。

注: 日時フォーマットには最大 50 文字を含めることができます。

カラム構造

カラム構造は、[ファイル形式] 領域で設定したファイル形式によって決まります。テーブルには少なくとも 1 つのカラムが含まれている必要があります。

サンプルファイルを指定した場合、Data Integration Hub は指定したファイル形式に基づいてこのファイルを読み取り、サンプルファイルから検出されたカラムを表示します。[カラムの追加] ボタン、上下の矢印ボタン、および [削除] アイコンを使用して、テーブルカラムの追加、並べ替え、削除を行います。

カラムパラメータを編集するには、カラムの右にある [編集] アイコンをクリックします。

各カラムには、次のパラメータが必要です。

カラム名

名前はアルファベットまたはアンダースコアで開始し、英数字およびアンダースコアのみを使用できます。

[カラム名をインポート] オプションを選択した場合、Data Integration Hub は定義された行の文字列をカラム名に入力します。[カラム名をインポート] オプションを選択しなかった場合、

Data Integration Hub はカラムにデフォルト名を割り当てます。例えば、**Field1**、**Field2**、**Field*n*** などです。

データ型

使用可能なデータ型のリストから選択します。デフォルトでは、Data Integration Hub はデータを文字列として読み取ります。

精度

精度をサポートするデータ型に対してのみ設定できます。

スケール

データスケールをサポートするデータ型に対してのみ設定できます。

サンプル ファイルのプレビュー

フラットファイルの構造を表すサンプルファイルを選択すると、この領域にサンプルファイルのデータが表示されます。**【プレビュー】** 領域には、Data Integration Hub が**ファイル形式**のパラメータに従ってデータをトピックテーブル内のトピックフィールドに配布するときに適用する構造内のデータが表示されます。

【フラットファイルソースの設定】 ダイアログボックスが閉じます。

8. **【ソース】** ページに表示されるテーブルトピックごとに手順 [6](#)~[7](#) を繰り返します。

9. **【ソース】** ページで **【次へ】** をクリックします。

【結合】 ページが表示されます。

手順 4. 結合の定義

結合を作成すると、複数のソースファイルからデータを取得して、1 つのトピックテーブルに入れることができます。複数の結合を作成したり、結合のデータを組み合わせて新しい結合を作成したりできます。結合は仮想エンティティであり、トピックでは作成されません。

1. 必要に応じて、パブリケーションの結合を作成します。結合を作成するには、次のアクションを実行します。
 - a. **【左ファイルを選択】** リストと **【右ファイルを選択】** リストから結合するファイルを選択します。
 - b. **【結合タイプを選択】** リストから結合タイプを選択し、結合名を **【結合名】** フィールドに入力します。結合に割り当てる名前は、結合をトピックテーブルにマッピングできる **【フィールドマッピング】** ページに表示されます。新しい結合が **【結合】** ページに表示されます。
 - c. 左ファイルから結合するカラムを選択し、次に右ファイルからも結合するカラムを選択します。他のカラムを結合に追加するには、プラス記号をクリックして結合するカラムを選択します。
 - d. **【結合の作成】** をクリックします。
2. ステップ [1](#) を繰り返して、必要な数の結合を作成します。
3. **【次へ】** をクリックします。
【フィールドマッピング】 ページが表示されます。

手順 5. パブリケーションのフィールドマッピングの表示と編集

パブリケーションウィザードの **【フィールドマッピング】** ページで、トピックテーブルとトピックフィールドへのソーステーブルとソースフィールドのマッピングを確認し、フィールドマッピングを編集します。「手順

4. 結合の定義」で結合を作成した場合、トピックテーブルおよびトピックフィールドに対する結合およびフィールドのフィールドマッピングを設定します。

1. 次のアクションを実行して、ソーステーブルまたは結合をトピックテーブルにマッピングします。

a. [テーブルマッピングの編集] アイコンをクリックします。

[テーブルマッピングの編集] ダイアログボックスが表示されます。

b. マッピングするテーブルまたは結合の行をクリックし、[ソーステーブルのマッピング] をクリックします。

[テーブルマッピングの編集] ダイアログボックスが閉じます。[フィールドマッピング] ページの [マッピングされたソースの論理名] リストに、マッピングしたテーブルが表示されます。

2. トピックテーブル内のフィールドに対するソーステーブル内または結合内のフィールドのマッピングを設定、確認、および編集するには、次のアクションを実行します。

a. [フィールドマッピングの編集] アイコンをクリックします。

[フィールドマッピングの編集] ダイアログボックスが表示されます。Data Integration Hub は名前に基づいてフィールドを自動的にマッピングします。

b. トピックテーブルとソーステーブルで使用されているフィールドを検索するには、[検索フィールド] にフィールド名の文字列を入力し、[検索] をクリックします。検索は、大文字小文字を区別しません。サブストリングを検索することも可能です。

マッピングされていないフィールドのみを検索結果に表示するには、[マッピングされていないフィールドのみを表示] を選択します。

検索文字列に一致するソースフィールドとトピックフィールドが表示されます。フィールド名の横にある緑色のチェックマークは、そのフィールドがマッピングされていることを示します。

c. ソーステーブルフィールドをトピックテーブルフィールドにマッピングするには、[ソーステーブル] セクションから [トピックテーブル] セクションにフィールドをドラッグします。

d. 式をフィールドに追加するには、[アクション] カラムで、式アイコンをクリックして [式エディタ] を開き、フィールドおよびフィールドに追加する関数を選択します。

e. フィールドのマッピングをクリアするには、[アクション] カラムで、クリアアイコンをクリックします。

f. フィールドの詳細を表示するには、フィールド名の左側にある詳細アイコンをクリックします。

g. Data Integration Hub のデフォルトのフィールドマッピングに戻すには、[自動マッピング] をクリックします。

3. [OK] をクリックしてマッピングを適用します。

[フィールドマッピングの編集] ダイアログボックスが閉じます。

4. テーブルとフィールドのマッピングをすべてクリアするには、[フィールドマッピング] ページの [すべてクリア] をクリックします。

注: パブリケーションにはマッピングされたソーステーブルが少なくとも 1 つ含まれている必要があります。

5. [フィールドマッピング] ページで [次へ] をクリックします。

[フィルタ] ページが表示されます。

手順 6. フィルタの定義

リレーショナルデータベースまたはフラットファイルの自動パブリケーションがパブリッシュするデータを定義するには、フィルタをパブリケーションに追加します。パブリケーションにフィルタを追加すると、テーブル行のフィルタ条件を定義できます。

フィルタ条件は、基本式と詳細式を使用して定義できます。複数の方法を使用して、テーブル行にフィルタを追加できます。

基本式

基本条件ビルダーの演算子および値が要件を満たしている場合に、テーブル行に条件を適用する場合は、この方法を使用します。例えば、[Orders] テーブルの [ShippedDate] カラムの日付が 2016 年 4 月 1 日より後であるという条件を追加します。

詳細式

PowerCenter 式を使用してテーブルにフィルタ条件を追加します。例えば、[Orders] テーブルに次の式を追加します。

```
(ShipCountry='USA') and ((ShipCity='New York') or (ShipCity='Los Angeles'))
```

フィルタには AND ロジックが使用されます。テーブルに複数のフィルタが存在する場合、Data Integration Hub はすべての条件を満たす行のみをパブリッシュします。

1. 作成する式のタイプを選択します。
2. フィルタを適用するテーブルを **【テーブルの選択】** リストから選択します。
3. 選択した方法に従って条件パラメータを入力します。
 - 基本式: 手順 4 に移動します。
 - 詳細式: 手順 5 に移動します。
4. 基本式を作成するには、次の手順を実行します。
 - a. フィルタリングするカラムを **【カラムの選択】** リストから選択します。
 - b. フィルタ演算子を **【演算子の選択】** リストから選択します。使用できる演算子は、カラムの内容のタイプによって決まります。
 - c. **【値の選択】** が有効の場合、演算子の値を選択または入力します。文字列演算子の値には 90 桁まで含めることができます。数値演算子の値には 15 桁まで含めることができます。
 - d. 式の行の右にあるプラスアイコンをクリックします。
条件リストに条件が表示されます。
5. 詳細式を作成するには、次の手順を実行します。
 - a. テキストフィールドに有効な PowerCenter 式を入力します。別の方法として、基本式を作成し、**【詳細式】** を選択して式を完成させることもできます。式は選択したテーブルに限定されます。式には最大 1024 文字を含めることができます。
 - b. 式の行の右にあるプラスアイコンをクリックします。
条件リストに条件が表示されます。
6. 手順 1~5 を繰り返し、必要な条件を追加します。
7. **【次へ】** をクリックします。
【スケジュール】 ページが表示されます。

手順 7. パブリケーションスケジュールの定義

パブリケーションウィザードの **【スケジュール】** ページで、データパブリケーションの方法と頻度を定義します。

1. データパブリッシュの方法および頻度を選択します。

ファイルがパブリッシュ可能になった時

パブリッシュされたファイルの準備ができたなら、パブリケーションを実行します。次にリモートソースをポーリングするとき

Data Integration Hub ページで定義したディレクトリでファイルが使用可能になるのを **Data Integration Hub** が待機する最大時間数を、**【すべてのファイルのパブリッシュを待機する最大時間数】** で定義します。この最長時間が経過したら、Data Integration Hub はパブリケーションのファイルイベントを破棄し、パブリケーションイベントのステータスを **【エラー】** に変更します。

手動または外部トリガを使用

スケジュールは設定されません。次の方法を使用してパブリケーションを実行することができます。

- 手動で実行する。**【パブリケーション】** ページの実行矢印をクリックします。
- API で実行する。パブリケーションを開始するコマンドライン API または REST API を呼び出します。
- PowerCenter ワークフローで実行する。パブリケーションのトランスフォーメーションを開始する。

このスケジュールオプションを使用するファイルパブリケーションの場合と、複数のファイルをパブリッシュするファイルパブリケーションの場合、パブリケーションの開始時にすべてのファイルがソースの場所に存在している必要があります。

スケジュールを使用

定義されたスケジュールに従ってパブリケーションを実行します。次のいずれかのオプションを選択します。

- n 分ごと。最大 60 分間隔でパブリケーションを実行します。リストから分数を選択します。
- 時間ごと。最大 24 時間間隔でパブリケーションを実行します。リストから時間数を選択します。パブリケーションはその時間の開始時に実行されます。例えば、「2」を入力した場合、パブリケーションは 00:00、02:00 に、2 時間間隔で実行されます。
- 日。毎日同じ時間にパブリケーションを実行します。
- 週。毎週同じ曜日（1 つ以上）の同じ時間にパブリケーションを実行します。
- 月。毎月特定の日付または特定の曜日の同じ時間にパブリケーションを実行します。

【実行の繰り返し】 領域でパブリケーション間隔を定義します。

このスケジュールオプションを使用するファイルパブリケーションの場合と、複数のファイルをパブリッシュするファイルパブリケーションの場合、パブリケーションの開始時にすべてのファイルがソースの場所に存在している必要があります。

次のパブリケーションまたはサブスクリプションの実行が完了した後

ここで指定したパブリケーションまたはサブスクリプションの実行が完了した後、パブリケーションが実行されます。

2. 必要に応じて、再試行ポリシーを定義します。再試行ポリシーは Data Integration Hub がパブリケーションの実行の失敗時に再試行する回数および再試行の間隔を定義します。このポリシーは手動で実行するパブリケーションには適用されません。

3. **【次へ】** をクリックします。

【権限】 ページが表示されます。

手順 8.パブリケーション権限の割り当て

パブリケーションウィザードの【権限】ページでカテゴリをパブリケーションに割り当てることで、操作コンソールのパブリケーションへのアクセスを管理します。カテゴリをパブリケーションに割り当てない場合、関連付けられているアプリケーションからのカテゴリが継承されます。カテゴリがアプリケーションに割り当てられていない場合、すべての Data Integration Hub ユーザーがパブリケーションにアクセスできます。

1. 【使用可能なカテゴリ】でパブリケーションへの権限を割り当てるカテゴリを 1 つ以上選択し、右矢印をクリックします。

選択したカテゴリが【選択したカテゴリ】に表示されます。

カテゴリは【選択したカテゴリ】から【使用可能なカテゴリ】に割り当て解除できます。

2. 【次へ】をクリックします。

【サマリ】ページが表示されます。

手順 9. パブリケーションの設定の確認およびパブリケーションの保存

パブリケーションウィザードの【サマリ】ページで、パブリケーションの設定を確認し、パブリケーションを保存します。

1. パブリケーションの設定を確認します。

2. 【完了】をクリックします。

パブリケーションウィザードが閉じます。【アプリケーションの編集】ページの【パブリケーション】タブに、作成したパブリケーションが表示されます。パブリケーションはパブリケーションカタログに表示されます。パブリケーションのスケジュールを設定した場合は、定義したスケジュールに従ってパブリケーションからデータが公開されます。

自動パススルーファイルパブリケーションの作成

パススルーファイルソースを使用して自動パブリケーションを作成するには、次のタスクを実行します。

1. 【パブリケーション作成】ウィザードにアクセスします。
2. 基本的なパブリケーションプロパティを定義します。
3. パブリケーションソースを設定します。
4. パブリケーションのスケジュールを定義します。
5. 必要に応じて、権限をパブリケーションに割り当てます。パブリケーションを割り当てるカテゴリを選択します。パブリケーションに割り当てられるのは、関連付けられているアプリケーションに割り当てられているカテゴリのみです。
6. パブリケーションの設定を確認して、パブリケーションを保存します。

タスクの前提条件

このタスクを開始する前に、次の要件を確認してください。

- ソースデータを保持するファイル（1 つ以上）が存在する。
- ソースファイルの場所を把握している。
- アプリケーションが作成されている。
- トピックが作成されている。

手順 1. [自動パススルーファイルパブリケーションの作成] ウィザードへのアクセス

パブリケーション作成ウィザードには、Data Integration Hub 操作コンソールからアクセスします。

1. ナビゲータで **[ハブの管理]** > **[アプリケーション]** をクリックします。
[アプリケーション] ページが表示されます。
2. コンテンツの公開元となるアプリケーションの名前をクリックします。
[アプリケーションの編集] ページが表示されます。
3. **[パブリケーション]** タブを選択します。**[新規]** をクリックし、**[自動]** > **[パススルーファイル]** を選択してから **[作成]** をクリックします。
[自動パススルーファイルパブリケーションの作成] ウィザードが表示されます。

手順 2. 基本的なパブリケーションプロパティの定義

パブリケーションウィザードの **[全般]** ページでパブリケーションプロパティを定義します。

1. パブリケーション名を入力します。
2. 必要に応じて、パブリケーションの説明を入力します。
3. **[トピック]** リストからトピックを選択します。
[トピック構造] 領域に、アプリケーションがデータを公開する宛先のトピックの構造が表示されます。トピック内のすべてのテーブルの構造を表示することも、構造を表示するテーブルを選択することもできます。
4. **[次へ]** をクリックします。
[処理中] ページが表示されます。
5. **[次へ]** をクリックします。
[ソース] ページが表示されます。

手順 3. パブリケーションソースの設定

パブリケーションウィザードの **[ソース]** ページで、Data Integration Hub がファイルを公開するソースを設定します。

1. ファイル転送を使用してリモートサーバーからファイルをパブリッシュするには、**[ファイル転送の使用]** を選択します。
[接続] および **[取得後にソースからファイルを削除]** フィールドがページに表示されます。
2. ファイル転送を使用するように選択している場合、次のファイル転送プロパティを設定します。

接続

リストから接続を選択します。

取得後にソースからファイルを削除

Data Integration Hub は、読み取り後にファイルを削除します。ファイルを削除するには、リモートサーバーに対する権限が必要です。

3. Data Integration Hub がパブリッシュするファイルの場所を **[ディレクトリ]** フィールドに入力します。ファイル転送を使用する場合、パターンを使用してディレクトリパスを定義することはできません。ただし、パターンを使用してファイル名を定義することはできます。

4. テーブルトピックの横にある [編集] アイコンをクリックし、[ファイル名] カラムにソースファイルの名前を入力します。ファイル名にはアスタリスクのワイルドカードと変数を含めることができます。変数は (\$pattern) の形式で入力します。例: Input_(\$PublicationName)_(\$sequence).in
5. [ソース] ページに表示されるテーブルトピックごとに手順 4 を繰り返します。
6. [次へ] をクリックします。
[スケジュール] ページが表示されます。

手順 4.パブリケーションスケジュールの定義

パブリケーションウィザードの [スケジュール] ページで、データパブリケーションの方法と頻度を定義します。

1. データパブリッシュの方法および頻度を選択します。

ファイルがパブリッシュ可能になった時

パブリッシュされたファイルの準備ができたなら、パブリケーションを実行します。次にリモートソースをポーリングするとき

Data Integration Hub ページで定義したディレクトリでファイルが使用可能になるのを **Data Integration Hub** が待機する最大時間数を、[すべてのファイルのパブリッシュを待機する最大時間数] で定義します。この最長時間が経過したら、Data Integration Hub はパブリケーションのファイルイベントを破棄し、パブリケーションイベントのステータスを [エラー] に変更します。

手動または外部トリガを使用

スケジュールは設定されません。次の方法を使用してパブリケーションを実行することができます。

- 手動で実行する。[パブリケーション] ページの実行矢印をクリックします。
- API で実行する。パブリケーションを開始するコマンドライン API または REST API を呼び出します。
- PowerCenter ワークフローで実行する。パブリケーションのトランスフォーメーションを開始する。

このスケジュールオプションを使用するファイルパブリケーションの場合と、複数のファイルをパブリッシュするファイルパブリケーションの場合、パブリケーションの開始時にすべてのファイルがソースの場所に存在している必要があります。

スケジュールを使用

定義されたスケジュールに従ってパブリケーションを実行します。次のいずれかのオプションを選択します。

- n 分ごと。最大 60 分間隔でパブリケーションを実行します。リストから分数を選択します。
- 時間ごと。最大 24 時間間隔でパブリケーションを実行します。リストから時間数を選択します。パブリケーションはその時間の開始時に実行されます。例えば、「2」を入力した場合、パブリケーションは 00:00、02:00 に、2 時間間隔で実行されます。
- 日。毎日同じ時間にパブリケーションを実行します。
- 週。毎週同じ曜日（1 つ以上）の同じ時間にパブリケーションを実行します。
- 月。毎月特定の日付または特定の曜日の同じ時間にパブリケーションを実行します。

[実行の繰り返し] 領域でパブリケーション間隔を定義します。

このスケジュールオプションを使用するファイルパブリケーションの場合と、複数のファイルをパブリッシュするファイルパブリケーションの場合、パブリケーションの開始時にすべてのファイルがソースの場所に存在している必要があります。

次のパブリケーションまたはサブスクリプションの実行が完了した後

ここで指定したパブリケーションまたはサブスクリプションの実行が完了した後、パブリケーションが実行されます。

2. 必要に応じて、再試行ポリシーを定義します。再試行ポリシーは Data Integration Hub がパブリケーションの実行の失敗時に再試行する回数および再試行の間隔を定義します。このポリシーは手動で実行するパブリケーションには適用されません。
3. **【次へ】** をクリックします。
【権限】 ページが表示されます。

手順 5.パブリケーション権限の割り当て

パブリケーションウィザードの **【権限】** ページでカテゴリをパブリケーションに割り当てることで、操作コンソールのパブリケーションへのアクセスを管理します。カテゴリをパブリケーションに割り当てない場合、関連付けられているアプリケーションからのカテゴリが継承されます。カテゴリがアプリケーションに割り当てられていない場合、すべての Data Integration Hub ユーザーがパブリケーションにアクセスできます。

1. **【使用可能なカテゴリ】** でパブリケーションへの権限を割り当てるカテゴリを 1 つ以上選択し、右矢印をクリックします。
選択したカテゴリが **【選択したカテゴリ】** に表示されます。
カテゴリは **【選択したカテゴリ】** から **【使用可能なカテゴリ】** に割り当て解除できます。
2. **【次へ】** をクリックします。
【サマリ】 ページが表示されます。

手順 6.パブリケーションの設定の確認およびパブリケーションの保存

パブリケーションウィザードの **【サマリ】** ページで、パブリケーションの設定を確認し、パブリケーションを保存します。

1. パブリケーションの設定を確認します。
2. **【完了】** をクリックします。

パブリケーションウィザードが閉じます。**【アプリケーションの編集】** ページの **【パブリケーション】** タブに、作成したパブリケーションが表示されます。パブリケーションはパブリケーションカタログに表示されます。パブリケーションのスケジュールを設定した場合は、定義したスケジュールに従ってパブリケーションからデータが公開されます。

自動データドリブンパブリケーションの作成

自動データドリブンパブリケーションを作成するには、次のタスクを実行します。

1. **【パブリケーションの作成】** ページにアクセスします。
2. パブリケーションプロパティを設定し、データをパブリッシュするトピックを選択します。
パブリケーションプロパティを設定した後、**【パブリケーションの作成】** ページから次の URL をコピーできます。
 - API の REST URL。この URL を使用してデータをパブリッシュします。

- パブリケーションがデータをパブリッシュするトピックの Swagger 構造を持つ API Swagger ファイルの REST URL。この構造はパブリケーション要求で使使します。

パブリケーションを実行する要求を作成するときにこれらの URL を使使します。

3. 必要に応じて、権限をパブリケーションに割り当てます。パブリケーションを割り当てるカテゴリを選択します。パブリケーションに割り当てられるのは、関連付けられているアプリケーションに割り当てられているカテゴリのみです。
4. パブリケーションを実行する要求を作成します。

タスクの前提条件

このタスクを開始する前に、次の要件を確認してください。

- アプリケーションが作成されている。
- トピックが作成されている。

手順 1. [自動クラウドパブリケーションの作成] ページへのアクセス

[パブリケーションの作成] ページには、Data Integration Hub 操作コンソールからアクセスします。

1. ナビゲータで **[ハブの管理]** > **[アプリケーション]** をクリックします。
[アプリケーション] ページが表示されます。
2. コンテンツの公開元となるアプリケーションの名前をクリックします。
[アプリケーションの編集] ページが表示されます。
3. **[パブリケーション]** タブを選択します。**[新規]** をクリックし、**[自動]** > **[データドリブン]** を選択してから **[作成]** をクリックします。
[自動データドリブンパブリケーションの作成] ページが表示されます。

手順 2. パブリケーションプロパティの定義

[パブリケーションの作成] ページでパブリケーションプロパティを定義します。

1. パブリケーション名を入力します。
次の URL は自動的に更新されます。
 - API の REST URL。この URL を使使してデータをパブリッシュします。
 - パブリケーションがデータをパブリッシュするトピックの Swagger 構造を持つ API Swagger ファイルの REST URL。この構造はパブリケーション要求で使使します。パブリケーションを実行する要求を作成するときにこれらの URL を使使します。
2. 必要に応じて、パブリケーションの説明を入力します。
3. **[トピック]** リストからトピックを選択します。
[トピック構造] 領域に、アプリケーションがデータを公開する宛先のトピックの構造が表示されます。トピック内のすべてのテーブルの構造を表示することも、構造を表示するテーブルを選択することもできます。

4. 必要に応じて、Data Integration Hub がパブリッシュ済みデータをグループ化する時間間隔を定義します。
 - グループ化が定義されていない場合、つまり、**【パブリケーションをグループ化する間隔（秒）】**がゼロに設定されている場合、Data Integration Hub はパブリッシュ済みデータをグループ化しません。Data Integration Hub は、パブリッシュ中にデータをパブリケーションリポジトリに書き込みます。
 - グループ化時間間隔を定義すると、Data Integration Hub はパブリッシュ済みデータをグループ化し、時間間隔に基づいてそのデータをパブリケーションリポジトリに書き込みます。例えば、**【パブリケーションを 10 秒ごとにグループ化する】**を定義すると、Data Integration Hub は 10 秒ごとにパブリッシュ済みデータをグループ化します。
5. 必要に応じて、パブリケーション権限を割り当てます。

【使用可能なカテゴリ】 でパブリケーションへの権限を割り当てるカテゴリを 1 つ以上選択し、右矢印をクリックします。
6. **【保存】** をクリックします。

手順 3.パブリケーションを実行する要求の作成

パブリケーションを実行する要求を作成するには、[「手順 2. パブリケーションプロパティの定義」](#)（ページ 59）で作成したパブリケーションから REST API の URL と API Swagger ファイルの URL をコピーする必要があります。

- ▶ 次の詳細を含む POST 要求を作成します。

- 要求 URL: REST API URL。以下に例を示します。

`http://hostname:18080/dih-console/api/v1/publication/MyPublication/data`

MyPublication はパブリケーション名です。

- 要求本文: 要求の本文を準備するために、パブリケーションがデータをパブリッシュするトピックの Swagger 構造の構造定義を使用します。API Swagger ファイルの REST URL にアクセスして、構造を表示およびコピーします。以下に例を示します。

`http://hostname:18080/dih-console/api/v1/publication/MyPublication/data?swagger`

MyPublication はパブリケーション名です。

以下は、それぞれが 2 つのカラムを含む 2 つのトピックテーブルを含むトピックの要求ペイロードの例です。

```
{
  "Employee": [
    {
      "EmployeeName": "John Smith"
    },
    {
      "EmployeeId": "AA18"
    }
  ],
  "Department": [
    {
      "DepartmentName": "Computer Science"
    },
    {
      "DepartmentId": "Dep13"
    }
  ]
}
```

カスタムバッチパブリケーションの作成

バッチワークフローを使用してカスタムパブリケーションを作成するには、次のタスクを実行します。

1. [パブリケーション作成] ウィザードにアクセスします。
2. 基本的なパブリケーションプロパティを定義します。
3. パブリケーションワークフローを選択します。ファイル転送を使用する場合、Data Integration Hub がファイルを読み取るソースへの接続を選択し、ファイルの読み取り後に Data Integration Hub がソースからファイルを削除するかどうかを選択します。
4. パブリケーションに対して前処理を実行する場合は、前処理のマッピングを選択します。
5. ワークフローにパラメータが含まれる場合は、パブリケーションパラメータを設定します。
6. パブリケーションのスケジュールを定義します。
7. 必要に応じて、権限をパブリケーションに割り当てます。パブリケーションを割り当てるカテゴリを選択します。パブリケーションに割り当てられるのは、関連付けられているアプリケーションに割り当てられているカテゴリのみです。
8. パブリケーションの設定を確認して、パブリケーションを保存します。

タスクの前提条件

このタスクを開始する前に、次の要件を確認してください。

- Data Integration Hub 操作コンソールでパブリケーションワークフローが設定されている。
- パブリケーションワークフローがバッチワークフローである。
- ファイル転送を使用する場合、ワークフローが使用する接続が Data Integration Hub 操作コンソールで設定されている。
- 必要なパラメータ設定が取得されている。
- アプリケーションが作成されている。
- トピックが作成されている。

手順 1. [カスタムバッチパブリケーションの作成] ウィザードへのアクセス

パブリケーション作成ウィザードには、Data Integration Hub 操作コンソールからアクセスします。

1. ナビゲータで **[ハブの管理]** > **[アプリケーション]** をクリックします。
[アプリケーション] ページが表示されます。
2. コンテンツの公開元となるアプリケーションの名前をクリックします。
[アプリケーションの編集] ページが表示されます。
3. **[パブリケーション]** タブを選択します。**[新規]** をクリックし、**[カスタム]** > **[バッチ]** を選択してから **[作成]** をクリックします。
[カスタムバッチパブリケーションの作成] ウィザードが表示されます。

手順 2. 基本的なパブリケーションプロパティの定義

パブリケーションウィザードの **[全般]** ページでパブリケーションプロパティを定義します。

1. パブリケーション名を入力します。
2. 必要に応じて、パブリケーションの説明を入力します。

3. **【トピック】** リストからトピックを選択します。
【トピック構造】 領域に、アプリケーションがデータを公開する宛先のトピックの構造が表示されます。トピック内のすべてのテーブルの構造を表示することも、構造を表示するテーブルを選択することもできます。
4. **【次へ】** をクリックします。
【処理中】 ページが表示されます。

手順 3. パブリケーションワークフローの選択

【パブリケーション】ウィザードの**【処理】** ページで Data Integration Hub パブリケーションワークフローを選択します。必要に応じてパラメータ値を設定します。

1. **【カスタムマッピング】** リストからワークフローを選択します。バッチワークフローに基づいたパブリケーションワークフローのみを選択できます。
ワークフローでファイル転送がサポートされる場合は、**【ファイル転送の使用】** オプションが有効になります。
ワークフローにパラメータが含まれる場合は、そのパラメータが**【パブリケーションパラメータ】** 領域に表示されます。
2. ファイル転送を使用するには、**【ファイル転送の使用】** オプションを選択してから、次のアクションを実行します。
 - a. Data Integration Hub がファイルを読み取る元となるソースへの接続を、**【接続】** フィールドで選択します。
 - b. 読み取り後に、Data Integration Hub でファイルがリモートサーバーから削除されないようにするには、**【取得後にソースからファイルを削除】** オプションの選択をクリアします。
3. パブリケーションで前処理を実行する場合は、パブリケーションの前処理ワークフローを**【前処理のマッピング】** リストから選択します。
4. ワークフローにパラメータが含まれる場合は、**【パブリケーションのパラメータ】** 領域でパラメータの値を設定します。
5. **【次へ】** をクリックします。
【スケジュール】 ページが表示されます。

手順 4. パブリケーションスケジュールの定義

パブリケーションウィザードの**【スケジュール】** ページで、データパブリケーションの方法と頻度を定義します。

1. データパブリッシュの方法および頻度を選択します。

手動または外部トリガを使用

スケジュールは設定されません。次の方法を使用してパブリケーションを実行することができます。

- 手動で実行する。**【パブリケーション】** ページの実行矢印をクリックします。
- API で実行する。パブリケーションを開始するコマンドライン API または REST API を呼び出します。
- PowerCenter ワークフローで実行する。パブリケーションのトランスフォーメーションを開始する。

このスケジュールオプションを使用するファイルパブリケーションの場合と、複数のファイルをパブリッシュするファイルパブリケーションの場合、パブリケーションの開始時にすべてのファイルがソースの場所に存在している必要があります。

スケジュールを使用

定義されたスケジュールに従ってパブリケーションを実行します。次のいずれかのオプションを選択します。

- n 分ごと。最大 60 分間隔でパブリケーションを実行します。リストから分数を選択します。
- 時間ごと。最大 24 時間間隔でパブリケーションを実行します。リストから時間数を選択します。パブリケーションはその時間の開始時に実行されます。例えば、「2」を入力した場合、パブリケーションは 00:00、02:00 に、2 時間間隔で実行されます。
- 日。毎日同じ時間にパブリケーションを実行します。
- 週。毎週同じ曜日（1 つ以上）の同じ時間にパブリケーションを実行します。
- 月。毎月特定の日付または特定の曜日の同じ時間にパブリケーションを実行します。

【実行の繰り返し】領域でパブリケーション間隔を定義します。

このスケジュールオプションを使用するファイルパブリケーションの場合と、複数のファイルをパブリッシュするファイルパブリケーションの場合、パブリケーションの開始時にすべてのファイルがソースの場所に存在している必要があります。

次のパブリケーションまたはサブスクリプションの実行が完了した後

ここで指定したパブリケーションまたはサブスクリプションの実行が完了した後、パブリケーションが実行されます。

2. 【次へ】をクリックします。

【権限】ページが表示されます。

手順 5.パブリケーション権限の割り当て

パブリケーションウィザードの【権限】ページでカテゴリをパブリケーションに割り当てることで、操作コンソールのパブリケーションへのアクセスを管理します。カテゴリをパブリケーションに割り当てない場合、関連付けられているアプリケーションからのカテゴリが継承されます。カテゴリがアプリケーションに割り当てられていない場合、すべての Data Integration Hub ユーザーがパブリケーションにアクセスできます。

1. 【使用可能なカテゴリ】でパブリケーションへの権限を割り当てるカテゴリを 1 つ以上選択し、右矢印をクリックします。

選択したカテゴリが【選択したカテゴリ】に表示されます。

カテゴリは【選択したカテゴリ】から【使用可能なカテゴリ】に割り当て解除できます。

2. 【次へ】をクリックします。

【サマリ】ページが表示されます。

手順 6.パブリケーションの設定の確認およびパブリケーションの保存

パブリケーションウィザードの【サマリ】ページで、パブリケーションの設定を確認し、パブリケーションを保存します。

1. パブリケーションの設定を確認します。

2. **【完了】** をクリックします。

パブリケーションウィザードが閉じます。**【アプリケーションの編集】** ページの **【パブリケーション】** タブに、作成したパブリケーションが表示されます。パブリケーションはパブリケーションカタログに表示されます。パブリケーションのスケジュールを設定した場合は、定義したスケジュールに従ってパブリケーションからデータが公開されます。

カスタムマルチレイテンシーパブリケーションの作成

リアルタイムマッピングまたはワークフローを使用してカスタムマルチレイテンシーパブリケーションを作成するには、次のタスクを実行します。

1. **【パブリケーション作成】** ウィザードにアクセスします。
2. 基本的なパブリケーションプロパティを定義します。
3. パブリケーションワークフローを選択します。
4. パブリケーション間隔を定義します。
5. オプションで、関連付けられているアプリケーションがカテゴリとともに割り当てられている場合はパブリケーション権限を割り当てます。
6. パブリケーションの設定を確認して、パブリケーションを保存します。

タスクの前提条件

このタスクを開始する前に、次の要件を確認してください。

- Data Integration Hub 操作コンソールでパブリケーションワークフローが設定されている。
- パブリケーションワークフローは、Data Engineering Streaming リアルタイムマッピングまたは PowerCenter リアルタイムワークフローに基づいています。
- 必要なパラメータ設定が取得されている。
- アプリケーションが作成されている。
- トピックが作成されている。

注: Data Integration Hub が UNIX オペレーティングシステムにインストールされ、Data Integration Hub Data Engineering Integration/Informatica Data Quality コンポーネントがお使いのシステムにインストールされている場合のみ、Data Engineering Stream リアルタイムマッピングを使用できます。

手順 1. **【カスタムバッチパブリケーションの作成】** ウィザードへのアクセス

パブリケーション作成ウィザードには、Data Integration Hub 操作コンソールからアクセスします。

1. ナビゲータで **【ハブの管理】** > **【アプリケーション】** をクリックします。
【アプリケーション】 ページが表示されます。
2. コンテンツの公開元となるアプリケーションの名前をクリックします。
【アプリケーションの編集】 ページが表示されます。

3. **【パブリケーション】** タブを選択します。**【新規】** をクリックし、**【カスタム】** > **【マルチレイテンシー】** を選択してから **【作成】** をクリックします。
【カスタムマルチレイテンシーパブリケーションの作成】 ウィザードが表示されます。

手順 2. 基本的なパブリケーションプロパティの定義

パブリケーションウィザードの **【全般】** ページでパブリケーションプロパティを定義します。

1. パブリケーション名を入力します。
2. 必要に応じて、パブリケーションの説明を入力します。
3. **【トピック】** リストからトピックを選択します。
【トピック構造】 領域に、アプリケーションがデータを公開する宛先のトピックの構造が表示されます。トピック内のすべてのテーブルの構造を表示することも、構造を表示するテーブルを選択することもできます。
4. **【次へ】** をクリックします。
【処理中】 ページが表示されます。

手順 3. パブリケーションワークフローの選択

パブリケーションウィザードの **【処理】** ページでパブリケーションワークフローを選択します。

1. **【カスタムマッピング】** リストからワークフローを選択します。リアルタイムパブリケーションと Data Engineering Streaming ワークフローのみが選択可能です。
2. 必要に応じて、ワークフローパラメータを入力します。**【次へ】** をクリックします。
【スケジュール】 ページが表示されます。

手順 4. パブリケーション間隔の定義

パブリケーションウィザードの **【スケジュール】** ページで、公開対象のデータを Data Integration Hub がグループ化して公開する時間間隔を定義します。

1. **【パブリッシュ間隔】** でパブリケーション間隔を選択します。10 秒から 59 分 50 秒までの値を 10 秒間隔で設定できます。
2. **【次へ】** をクリックします。
【権限】 ページが表示されます。

手順 5. パブリケーション権限の割り当て

パブリケーションウィザードの **【権限】** ページでカテゴリをパブリケーションに割り当てることで、操作コンソールのパブリケーションへのアクセスを管理します。カテゴリをパブリケーションに割り当てない場合、関連付けられているアプリケーションからのカテゴリが継承されます。カテゴリがアプリケーションに割り当てられていない場合、すべての Data Integration Hub ユーザーがパブリケーションにアクセスできます。

1. **【使用可能なカテゴリ】** でパブリケーションへの権限を割り当てるカテゴリを 1 つ以上選択し、右矢印をクリックします。
選択したカテゴリが **【選択したカテゴリ】** に表示されます。
カテゴリは **【選択したカテゴリ】** から **【使用可能なカテゴリ】** に割り当て解除できます。
2. **【次へ】** をクリックします。
【サマリ】 ページが表示されます。

手順 6.パブリケーションの設定の確認およびパブリケーションの保存

パブリケーションウィザードの【サマリ】ページで、パブリケーションの設定を確認し、パブリケーションを保存します。

1. パブリケーションの設定を確認します。
2. 【完了】をクリックします。

パブリケーションウィザードが閉じます。【アプリケーションの編集】ページの【パブリケーション】タブに、作成したパブリケーションが表示されます。パブリケーションはパブリケーションカタログに表示されます。パブリケーションのスケジュールを設定した場合は、定義したスケジュールに従ってパブリケーションからデータが公開されます。

カスタムクラウドパブリケーションの作成

クラウドタスクを使用してカスタムパブリケーションを作成するには、次のタスクを実行します。

1. 【パブリケーション作成】ウィザードにアクセスします。
2. 基本的なパブリケーションプロパティを定義します。
3. パブリケーションマッピングを実行する Informatica Intelligent Cloud Services タスクを選択します。
4. パブリケーションのスケジュールを定義します。
5. 必要に応じて、権限をパブリケーションに割り当てます。パブリケーションを割り当てるカテゴリを選択します。パブリケーションに割り当てられるのは、関連付けられているアプリケーションに割り当てられているカテゴリのみです。
6. パブリケーションの設定を確認して、パブリケーションを保存します。

タスクの前提条件

このタスクを開始する前に、次の要件を確認してください。

- パブリケーションマッピングとタスクが Informatica Intelligent Cloud Services に設定されている。
- アプリケーションが作成されている。
- トピックが作成されている。

手順 1. 【カスタムクラウドパブリケーション】ウィザードへのアクセス

パブリケーション作成ウィザードには、Data Integration Hub 操作コンソールからアクセスします。

1. ナビゲータで【ハブの管理】>【アプリケーション】をクリックします。
【アプリケーション】ページが表示されます。
2. コンテンツの公開元となるアプリケーションの名前をクリックします。
【アプリケーションの編集】ページが表示されます。
3. 【パブリケーション】タブを選択します。【新規】をクリックし、【カスタム】>【クラウド】を選択してから【作成】をクリックします。
【カスタムクラウドパブリケーションの作成】ウィザードが表示されます。

手順 2. 基本的なパブリケーションプロパティの定義

パブリケーションウィザードの **【全般】** ページでパブリケーションプロパティを定義します。

1. パブリケーション名を入力します。
2. 必要に応じて、パブリケーションの説明を入力します。
3. **【トピック】** リストからトピックを選択します。

【トピック構造】 領域に、アプリケーションがデータを公開する宛先のトピックの構造が表示されます。トピック内のすべてのテーブルの構造を表示することも、構造を表示するテーブルを選択することもできます。

4. **【次へ】** をクリックします。

【処理中】 ページが表示されます。

手順 3. パブリケーションマッピングの選択

[パブリケーション] ウィザードの **【処理】** ページで、パブリケーションマッピングを定義する Informatica Cloud タスクを選択します。

1. **【Informatica Cloud タスク】** リストからタスクを選択します。
2. **【次へ】** をクリックします。

【スケジュール】 ページが表示されます。

手順 4. パブリケーションスケジュールの定義

パブリケーションウィザードの **【スケジュール】** ページで、データパブリケーションの方法と頻度を定義します。

1. データパブリッシュの方法および頻度を選択します。

手動または外部トリガを使用

スケジュールは設定されません。次の方法を使用してパブリケーションを実行することができます。

- 手動で実行する。**【パブリケーション】** ページの実行矢印をクリックします。
- API で実行する。パブリケーションを開始するコマンドライン API または REST API を呼び出します。
- PowerCenter ワークフローで実行する。パブリケーションのトランスフォーメーションを開始する。

このスケジュールオプションを使用するファイルパブリケーションの場合と、複数のファイルをパブリッシュするファイルパブリケーションの場合、パブリケーションの開始時にすべてのファイルがソースの場所に存在している必要があります。

スケジュールを使用

定義されたスケジュールに従ってパブリケーションを実行します。次のいずれかのオプションを選択します。

- n 分ごと。最大 60 分間隔でパブリケーションを実行します。リストから分数を選択します。
- 時間ごと。最大 24 時間間隔でパブリケーションを実行します。リストから時間数を選択します。パブリケーションはその時間の開始時に実行されます。例えば、「2」を入力した場合、パブリケーションは 00:00、02:00 に、2 時間間隔で実行されます。
- 日。毎日同じ時間にパブリケーションを実行します。

- 週。毎週同じ曜日（1 つ以上）の同じ時間にパブリケーションを実行します。
- 月。毎月特定の日付または特定の曜日の同じ時間にパブリケーションを実行します。

【実行の繰り返し】領域でパブリケーション間隔を定義します。

このスケジュールオプションを使用するファイルパブリケーションの場合と、複数のファイルをパブリッシュするファイルパブリケーションの場合、パブリケーションの開始時にすべてのファイルがソースの場所に存在している必要があります。

次のパブリケーションまたはサブスクリプションの実行が完了した後

ここで指定したパブリケーションまたはサブスクリプションの実行が完了した後、パブリケーションが実行されます。

2. 【次へ】をクリックします。
【権限】ページが表示されます。

手順 5.パブリケーション権限の割り当て

パブリケーションウィザードの【権限】ページでカテゴリをパブリケーションに割り当てることで、操作コンソールのパブリケーションへのアクセスを管理します。カテゴリをパブリケーションに割り当てない場合、関連付けられているアプリケーションからのカテゴリが継承されます。カテゴリがアプリケーションに割り当てられていない場合、すべての Data Integration Hub ユーザーがパブリケーションにアクセスできます。

1. 【使用可能なカテゴリ】でパブリケーションへの権限を割り当てるカテゴリを 1 つ以上選択し、右矢印をクリックします。
選択したカテゴリが【選択したカテゴリ】に表示されます。
カテゴリは【選択したカテゴリ】から【使用可能なカテゴリ】に割り当て解除できます。
2. 【次へ】をクリックします。
【サマリ】ページが表示されます。

手順 6.パブリケーションの設定の確認およびパブリケーションの保存

パブリケーションウィザードの【サマリ】ページで、パブリケーションの設定を確認し、パブリケーションを保存します。

1. パブリケーションの設定を確認します。
2. 【完了】をクリックします。
パブリケーションウィザードが閉じます。【アプリケーションの編集】ページの【パブリケーション】タブに、作成したパブリケーションが表示されます。パブリケーションはパブリケーションカタログに表示されます。パブリケーションのスケジュールを設定した場合は、定義したスケジュールに従ってパブリケーションからデータが公開されます。

カスタムパススルー Kafka パブリケーションの作成

このトピックでは、Apache Kafka トピックのパブリケーションを作成する方法について説明します。

Kafka トピックのパブリケーションを作成するには、次の手順を実行します。

1. 【パブリケーションの作成】ページにアクセスします。

2. 基本的なパブリケーションプロパティを定義します。
3. パブリケーションを保存します。

タスクの前提条件

このタスクを開始する前に、次の要件を確認してください。

- パブリケーションマッピングとタスクは、次のいずれかの方法を使用して設定されます。
 - Data Engineering Streaming マッピング
 - PWX Kafka コネクタを使用した PowerCenter マッピング
 - Kafka トピックへの読み取りと書き込みが可能な外部アプリケーションまたはツール。
- アプリケーションが作成されている。
- トピックが作成されている。

手順 1: [カスタムパススルー Apache Kafka パブリケーションの作成] ページへのアクセス

このトピックでは、Apache Kafka トピックのパブリケーションを作成する方法について説明します。

Apache Kafka パブリケーションを作成するには、システムプロパティで Apache Kafka サーバブローカー URL を設定してから、Apache Kafka のトピックを作成する必要があります。

Apache Kafka パブリケーションを作成するには、次の手順を実行します。

1. ナビゲータで **[ハブの管理]** > **[アプリケーション]** をクリックします。
[アプリケーション] ページが表示されます。
2. コンテンツの公開元となるアプリケーションの名前をクリックします。
[アプリケーションの編集] ページが表示されます。
3. **[パブリケーション]** タブを選択し、**[新規パブリケーション]** > **[カスタム]** > **[パススルー Kafka]** > **[作成]** をクリックします。
[パブリケーションの作成] ページが表示されます。

手順 2. パススルー Kafka パブリケーションプロパティの定義

タスクの簡単な説明をここに入力します（オプション）。

1. パブリケーション名を入力します。
2. 必要に応じて、パブリケーションの説明を入力します。
3. **[トピック]** リストからトピックを選択します。
[トピック構造] 領域に、アプリケーションがデータを公開する宛先のトピックの構造が表示されます。トピック内のすべてのテーブルの構造を表示することも、構造を表示するテーブルを選択することもできます。
4. Apache Kafka ストリーミングを監視するために作成したトピックを選択します。
5. 必要に応じて、パブリケーション権限を割り当てます。**[使用可能なカテゴリ]** でパブリケーションへの権限を割り当てるカテゴリを 1 つ以上選択し、右矢印をクリックします。
6. **[保存]** をクリックします。
1 つのパブリケーションに最大 1 つのリアルタイムトピックを関連付けることができます。複数のパブリケーションを作成した場合は、最近作成したパブリケーションがアクティブになります。
パブリケーションが作成され、**[パブリケーション]** タブに保存されます。

モジュール式クラウドパブリケーションの作成

クラウドソースを使用してモジュール式パブリケーションを作成するには、Informatica Intelligent Cloud Services マッピングの設定に基づいて、次のタスクのすべてまたは一部を実行します。

1. [パブリケーション作成] ウィザードにアクセスします。
2. 基本的なパブリケーションプロパティを定義します。
3. パブリケーションのマッピングを選択します。
4. 必要に応じて、パブリケーションソースを設定します。
5. 必要に応じて、パブリケーションターゲットを構成します。
6. マッピングにパラメータ化されたトランスフォーメーションが含まれている場合は、パラメータの値を設定します。
7. 必要に応じて、フィールドマッピングを設定します。
8. パブリケーションのスケジュールを定義します。
9. 必要に応じて、権限をパブリケーションに割り当てます。パブリケーションを割り当てるカテゴリを選択します。パブリケーションに割り当てられるのは、関連付けられているアプリケーションに割り当てられているカテゴリのみです。
10. パブリケーションの設定を確認して、パブリケーションを保存します。

タスクの前提条件

このタスクを開始する前に、次の要件を確認してください。

- パブリケーションマッピングが Informatica Intelligent Cloud Services に設定されている。
- 必要なパラメータ設定が取得されている。
- アプリケーションが作成されている。
- トピックが作成されている。

1. [自動クラウドパブリケーションの作成] ウィザードへのアクセス

パブリケーション作成ウィザードには、Data Integration Hub 操作コンソールからアクセスします。

1. ナビゲータで **[ハブの管理]** > **[アプリケーション]** をクリックします。
[アプリケーション] ページが表示されます。
2. コンテンツの公開元となるアプリケーションの名前をクリックします。
[アプリケーションの編集] ページが表示されます。
3. **[パブリケーション]** タブを選択します。**[新規]** をクリックし、**[モジュール式]** > **[クラウド]** を選択してから **[作成]** をクリックします。
[モジュール式クラウドパブリケーションの作成] ウィザードが表示されます。

手順 2. 基本的なパブリケーションプロパティの定義

パブリケーションウィザードの **[全般]** ページでパブリケーションプロパティを定義します。

1. パブリケーション名を入力します。
2. 必要に応じて、パブリケーションの説明を入力します。
3. **[トピック]** リストからトピックを選択します。

【トピック構造】領域に、アプリケーションがデータを公開する宛先のトピックの構造が表示されます。トピック内のすべてのテーブルの構造を表示することも、構造を表示するテーブルを選択することもできます。

4. 【次へ】をクリックします。
【処理中】ページが表示されます。

手順 3. パブリケーションマッピングの選択

【パブリケーション】ウィザードの【処理中】ページで、Informatica Cloud パブリケーションマッピングを選択します。

1. 【クラウドマッピング】リストからマッピングを選択します。
2. 【次へ】をクリックします。
【ソース】ページが表示されます。

手順 4. パブリケーションソースの設定

マッピングによってパブリケーションソースが設定されていない場合は、パブリケーションウィザードの【ソース】ページでソースを設定します。

1. 必要に応じてソース設定を構成します。
2. 【次へ】をクリックします。
【ターゲット】ページが表示されます。

手順 5. パブリケーションターゲットの設定

マッピングによってパブリケーションターゲットが設定されていない場合は、パブリケーションウィザードの【ターゲット】ページでターゲットを設定します。パブリケーションのターゲットは、Data Integration Hub パブリケーションリポジトリです。

1. 必要に応じてターゲット設定を構成します。
2. 【次へ】をクリックします。
【入力パラメータ】ページが表示されます。

手順 6. パブリケーションパラメータの設定

マッピングにパラメータが含まれている場合、パラメータはパブリケーションウィザードの【入力パラメータ】ページに表示されます。パラメータ値を適切に設定します。

1. 値を定義するパラメータの横にある【編集】アイコンをクリックします。
2. 【パラメータの編集】ダイアログボックスの【式】領域でパラメータ値を定義します。【フィールド】領域のフィールドをクリックして式に追加します。
【OK】をクリックします。
パラメータ値は、【入力パラメータ】ページに表示されます。
3. 手順 1～2 を繰り返し、必要なパラメータ値を設定します。
4. 【次へ】をクリックします。
【フィールドマッピング】ページが表示されます。

手順 7. パブリケーションフィールドマッピングの設定

マッピングによってフィールドマッピングが設定されていない場合は、パブリケーションウィザードの【**フィールドマッピング**】ページで、トピックテーブルフィールドにソーステーブルフィールドをマッピングします。

1. 【**フィールドマッピングの編集**】アイコンをクリックします。
【**フィールドマッピングの編集**】ダイアログボックスが表示されます。
2. トピックテーブルとソーステーブル内のすべてのフィールドの表示、マッピングされたフィールドの表示、またはマッピングされていないフィールドの表示のいずれかを選択するには、【**表示**】リストから該当のオプションを選択します。
3. トピックテーブルとソーステーブルで使用されているフィールドを検索するには、【**検索フィールド**】にフィールド名の文字列を入力し、Enter を押します。検索は、大文字小文字を区別しません。サブストリングを検索することも可能です。
4. ソーステーブルフィールドをトピックテーブルフィールドにマッピングするには、【**デフォルト**】セクションからトピックテーブルセクションにフィールドをドラッグします。
5. 式をフィールドに追加するには、【**マッピング済みフィールド/式**】カラムで、式アイコンをクリックして【**フィールド式**】ダイアログボックスを開き、フィールドおよびフィールドに追加する関数を選択します。式を検証するには、【**検証**】をクリックします。
6. 【**OK**】をクリックしてマッピングを適用します。
【**フィールドマッピングの編集**】ダイアログボックスが閉じます。
7. 【**フィールドマッピング**】ページで【**次へ**】をクリックします。
【**スケジュール**】ページが表示されます。

手順 8. パブリケーションスケジュールの定義

パブリケーションウィザードの【**スケジュール**】ページで、データパブリケーションの方法と頻度を定義します。

1. データパブリッシュの方法および頻度を選択します。

ファイルがパブリッシュ可能になった時

パブリッシュされたファイルの準備ができたなら、パブリケーションを実行します。次にリモートソースをポーリングするとき

Data Integration Hub ページで定義したディレクトリでファイルが使用可能になるのを **Data Integration Hub** が待機する最大時間数を、【**すべてのファイルのパブリッシュを待機する最大時間数**】で定義します。この最長時間が経過したら、Data Integration Hub はパブリケーションのファイルイベントを破棄し、パブリケーションイベントのステータスを【**エラー**】に変更します。

手動または外部トリガを使用

スケジュールは設定されません。次の方法を使用してパブリケーションを実行することができます。

- 手動で実行する。【**パブリケーション**】ページの実行矢印をクリックします。
- API で実行する。パブリケーションを開始するコマンドライン API または REST API を呼び出します。
- PowerCenter ワークフローで実行する。パブリケーションのトランスフォーメーションを開始する。

このスケジュールオプションを使用するファイルパブリケーションの場合と、複数のファイルをパブリッシュするファイルパブリケーションの場合、パブリケーションの開始時にすべてのファイルがソースの場所に存在している必要があります。

スケジュールを使用

定義されたスケジュールに従ってパブリケーションを実行します。次のいずれかのオプションを選択します。

- n 分ごと。最大 60 分間隔でパブリケーションを実行します。リストから分数を選択します。
- 時間ごと。最大 24 時間間隔でパブリケーションを実行します。リストから時間数を選択します。パブリケーションはその時間の開始時に実行されます。例えば、「2」を入力した場合、パブリケーションは 00:00、02:00 に、2 時間間隔で実行されます。
- 日。毎日同じ時間にパブリケーションを実行します。
- 週。毎週同じ曜日（1 つ以上）の同じ時間にパブリケーションを実行します。
- 月。毎月特定の日付または特定の曜日の同じ時間にパブリケーションを実行します。

【実行の繰り返し】 領域でパブリケーション間隔を定義します。

このスケジュールオプションを使用するファイルパブリケーションの場合と、複数のファイルをパブリッシュするファイルパブリケーションの場合、パブリケーションの開始時にすべてのファイルがソースの場所に存在している必要があります。

次のパブリケーションまたはサブスクリプションの実行が完了した後

ここで指定したパブリケーションまたはサブスクリプションの実行が完了した後、パブリケーションが実行されます。

2. **【次へ】** をクリックします。

【権限】 ページが表示されます。

手順 9.パブリケーション権限の割り当て

パブリケーションウィザードの **【権限】** ページでカテゴリをパブリケーションに割り当てることで、操作コンソールのパブリケーションへのアクセスを管理します。カテゴリをパブリケーションに割り当てない場合、関連付けられているアプリケーションからのカテゴリが継承されます。カテゴリがアプリケーションに割り当てられていない場合、すべての Data Integration Hub ユーザーがパブリケーションにアクセスできます。

1. **【使用可能なカテゴリ】** でパブリケーションへの権限を割り当てるカテゴリを 1 つ以上選択し、右矢印をクリックします。

選択したカテゴリが **【選択したカテゴリ】** に表示されます。

カテゴリは **【選択したカテゴリ】** から **【使用可能なカテゴリ】** に割り当て解除できます。

2. **【次へ】** をクリックします。

【サマリ】 ページが表示されます。

手順 10。パブリケーションの設定の確認およびパブリケーションの保存

パブリケーションウィザードの **【サマリ】** ページで、パブリケーションの設定を確認し、パブリケーションを保存します。

1. パブリケーションの設定を確認します。
2. **【完了】** をクリックします。

パブリケーションウィザードが閉じます。**【アプリケーションの編集】** ページの **【パブリケーション】** タブに、作成したパブリケーションが表示されます。パブリケーションはパブリケーションカタログに表示されます。パブリケーションのスケジュールを設定した場合は、定義したスケジュールに従ってパブリケーションからデータが公開されます。

第 5 章

サブスクリプションの作成

この章では、以下の項目について説明します。

- [サブスクリプション作成の概要, 74 ページ](#)
- [自動リレーショナルデータベースサブスクリプションの作成, 75 ページ](#)
- [自動フラットファイルサブスクリプションの作成, 81 ページ](#)
- [自動パススルーファイルサブスクリプションの作成, 89 ページ](#)
- [自動データドリブンサブスクリプションの作成, 93 ページ](#)
- [カスタムバッチサブスクリプションの作成, 95 ページ](#)
- [カスタムクラウドサブスクリプションの作成, 98 ページ](#)
- [カスタムパススルー Kafka サブスクリプションの作成, 101 ページ](#)
- [モジュール式クラウドサブスクリプションの作成, 102 ページ](#)

サブスクリプション作成の概要

この章では、公開されたデータを使用するサブスクリプションを作成します。最初に、「トピックの作成」の章を完了する必要があります。

サブスクリプションを作成する場合は、アプリケーションのサブスクライブ先となるトピックを選択します。

章の目的

この章では、次のタスクを実行します。

- リレーショナルデータベースターゲットを使用した自動サブスクリプションを作成する。
- フラットファイルターゲットを使用した自動サブスクリプションを作成する。
- 非構造化ファイルターゲットを使用した自動サブスクリプションを作成する。
- REST API を使用してデータを使用する自動データドリブンサブスクリプションを作成する。
- バッチワークフローを使用したカスタムサブスクリプションを作成する。
- Informatica Intelligent Cloud Services タスクを使用したカスタムサブスクリプションを作成する。
- クラウドターゲットを使用したモジュール式サブスクリプションを作成する。

自動リレーショナルデータベースサブスクリプションの作成

自動マッピングとリレーショナルデータベースターゲットを使用したサブスクリプションを作成するには、次のタスクを実行します。

1. [サブスクリプション作成] ウィザードにアクセスします。
2. 基本的なサブスクリプションプロパティを定義し、サブスクライブ先のトピックを選択します。
3. サブスクリプションで後処理を実行する場合は、後処理ワークフローを選択します。
4. 必要に応じて、サブスクリプションの結合を定義します。
5. サブスクリプションターゲットを選択します。
6. パブリケーションフィールドマッピングを確認し、Data Integration Hub がデフォルトで生成するマッピングを必要に応じて編集します。
7. サブスクリプションのフィルタを定義します。
8. サブスクリプションのスケジュールを定義します。
9. サブスクリプションの配信スコープおよび配信形式を定義します。
10. 必要に応じて、権限をサブスクリプションに割り当てます。サブスクリプションを割り当てるカテゴリを選択します。サブスクリプションに割り当てられるのは、関連付けられているアプリケーションに割り当てられているカテゴリのみです。
11. サブスクリプションの設定を確認して、サブスクリプションを保存します。

タスクの前提条件

このタスクを開始する前に、次の要件を確認してください。

- ターゲットデータベースが存在する。
- Data Integration Hub 操作コンソールでターゲットデータベースとの接続が設定されている。
- アプリケーションが作成されている。
- トピックが作成されている。
- 後処理ワークフロー（該当する場合）の必須パラメータの設定を取得している。

手順 1. [自動データベースサブスクリプションの作成] ウィザードへのアクセス

このサブスクリプション作成ウィザードは、Data Integration Hub 操作コンソールからアクセスします。

1. ナビゲータで **[ハブの管理]** > **[アプリケーション]** をクリックします。
[アプリケーション] ページが表示されます。
2. コンテンツの配信先となるアプリケーションの名前をクリックします。
[アプリケーションの編集] ページが表示されます。
3. **[サブスクリプション]** タブを選択します。**[新規]** をクリックし、**[自動]** > **[リレーショナルデータベース]** を選択してから **[作成]** をクリックします。
[自動データベースサブスクリプションの作成] ウィザードが表示されます。

手順 2. 基本的なサブスクリプションプロパティの定義およびトピックの選択

サブスクリプションウィザードの【全般】ページで、サブスクリプションプロパティを定義してトピックを選択します。

1. サブスクリプション名を入力します。
2. 必要に応じて、サブスクリプションの説明を入力します。
3. 【モード】リストからモードを選択します。
4. 【トピック】リストからトピックを選択します。

【トピック構造】領域に、Data Integration Hub のデータの配信元となるトピックの構造が表示されます。トピック内のすべてのテーブルの構造を表示することも、構造を表示するテーブルを選択することもできます。

5. トピックテーブルのリレーションが定義されているトピックテーブルのカラムに、プライマリキーと外部キーを適用するかどうかを選択します。サブスクリプションに対して結合が手動で定義されている場合、キーは適用されません。

6. 【次へ】をクリックします。

【処理中】ページが表示されます。

手順 3. ポストプロセスワークフローの選択

サブスクリプションで後処理を実行する場合は、後処理ワークフローを選択します。

1. 【後処理のワークフロー】リストから後処理ワークフローを選択し、サブスクリプションが失敗した場合にワークフローを実行するかどうかを設定します。
2. ワークフローにパラメータが含まれる場合は、そのパラメータが【後処理のパラメータ】領域に表示されます。必要に応じてパラメータの値を設定します。
3. 【次へ】をクリックします。

【結合】ページが表示されます。

手順 4. 結合の定義

結合を作成すると、複数のトピックテーブルからデータを取得し単一のトピックテーブルに入れることができます。

1. 必要に応じて、サブスクリプションの結合を作成します。結合を作成するには、次のアクションを実行します。
 - a. 【左テーブルを選択】リストと【右テーブルを選択】リストから結合するトピックテーブルを選択します。
 - b. 【結合タイプを選択】リストから結合タイプを選択し、結合名を【結合名】フィールドに入力します。結合に割り当てる名前は、結合をターゲットテーブルにマッピングできる【フィールドマッピング】ページに表示されます。新しい結合が【結合】ページに表示されます。
 - c. 左テーブルから結合するカラムを選択し、次に右テーブルからも結合するカラムを選択します。他のカラムを結合に追加するには、プラス記号をクリックして結合するカラムを選択します。
 - d. 【結合の作成】をクリックします。
2. ステップ 1 を繰り返して、必要な数の結合を作成します。
3. 【次へ】をクリックします。

【ターゲット】ページが表示されます。

手順 5. サブスクリプションターゲットの選択

サブスクリプションウィザードの **【ターゲット】** ページで、Data Integration Hub がデータを書き込むターゲットのタイプを選択し、ターゲットとの接続を選択します。

1. データアクセス接続を選択して、**【次へ】** をクリックします。

【フィールドマッピング】 ページが表示されます。

2. 必要に応じて、**【ターゲットテーブルが存在しない場合は、ターゲットテーブルを作成します】** を選択します。ターゲットデータベースにターゲットテーブルが存在しない場合、Data Integration Hub がテーブルマッピングに基づいてターゲットテーブルを作成します。マッピングされていないテーブルは作成されません。Data Integration Hub

手順 6. サブスクリプションフィールドマッピングの確認と編集

サブスクリプションウィザードの **【フィールドマッピング】** ページで、ターゲットテーブルとターゲットフィールドへのトピックテーブルとトピックフィールドのマッピングを確認および編集します。「手順 4. 結合の定義」で結合を作成した場合、ターゲットテーブルおよびターゲットフィールドに対する結合のフィールドマッピングを設定します。

1. ターゲットテーブルへのトピックテーブルまたは結合のマッピングを確認および編集するには、次のアクションを実行します。

- a. **【テーブルマッピングの編集】** アイコンをクリックします。

【テーブルマッピングの編集】 ダイアログボックスが表示されます。

- b. データベース内のテーブルを検索します。次のガイドラインに注意してください。

- テーブル名でテーブルを検索するには、**【ターゲットテーブルの検索】** テキストボックスに文字列を入力して **【検索】** をクリックします。
- デフォルトスキーマ以外のスキーマを使用するテーブルを検索するには、オプション **【デフォルトのスキーマだけを表示する】** の選択を解除し、**【スキーマ】** テキストボックスに文字列を入力して **【検索】** をクリックします。
- 検索結果をクリアしてデフォルトスキーマを使用するテーブルのみを表示するには、オプション **【デフォルトのスキーマだけを表示する】** を選択し、**【すべて表示】** をクリックします。
- 検索は、大文字小文字を区別しません。
- サブストリングを検索することも可能です。

【検索結果】 セクションに、検索文字列と一致するターゲットテーブルと、各テーブルで使用されるスキーマが表示されます。マッピングを編集中のトピックテーブルの名前が、トピックテーブルにマッピングされているターゲットテーブルの行の **【マッピング先】** カラムに表示されます。

- c. 別のターゲットテーブルにトピックテーブルをマッピングするには、トピックテーブルをマッピングするターゲットテーブルの行をクリックして、**【ターゲットテーブルのマッピング】** をクリックします。

【テーブルマッピングの編集】 ダイアログボックスが閉じます。**【フィールドマッピング】** ページに変更後の新しいマッピングが表示されます。

2. トピックテーブル内のフィールドを確認してターゲットテーブル内のフィールドにマッピングするには、**【フィールドマッピング】** ページで次のアクションを実行します。

- a. **【フィールドマッピングの編集】** アイコンをクリックします。

【フィールドマッピングの編集】 ダイアログボックスが表示されます。

- b. トピックテーブルまたはターゲットテーブルで使用されているフィールドを検索するには、**【検索フィールド】** テキストボックスにフィールド名の文字列を入力し、**【検索】** をクリックします。

マッピングされていないフィールドのみを検索結果に表示するには、**【マッピングされていないフィールドのみを表示】** を選択します。

検索文字列に一致するトピックフィールドとターゲットフィールドが表示されます。フィールド名の横にある緑色のチェックマークは、そのフィールドがマッピングされていることを示します。

- c. トピックテーブルフィールドをターゲットテーブルフィールドにマッピングするには、**【トピックテーブル】** セクションから **【ターゲットテーブル】** セクションにフィールドをドラッグします。
 - d. 式をフィールドに追加するには、**【アクション】** カラムで、式アイコンをクリックして **【式エディタ】** を開き、フィールドおよびフィールドに追加する関数を選択します。
 - e. フィールドのマッピングをクリアするには、**【アクション】** カラムで、クリアアイコンをクリックします。
 - f. フィールドの詳細を表示するには、フィールド名の左側にある詳細アイコンをクリックします。
 - g. Data Integration Hub のデフォルトのテーブルおよびフィールドマッピングに戻すには、**【自動マッピング】** をクリックします。
 - h. **【OK】** をクリックしてフィールドをマッピングします。
【フィールドマッピングの編集】 ダイアログボックスが閉じます。
3. Data Integration Hub でデフォルトのテーブルマッピングとフィールドマッピングに戻すには、**【フィールドマッピング】** ページの **【自動マッピング】** をクリックします。
 4. テーブルとフィールドのマッピングをすべてクリアするには、**【フィールドマッピング】** ページの **【すべてクリア】** をクリックします。
注: サブスクリプションにはマッピングされたトピックテーブルが少なくとも 1 つ含まれている必要があります。
 5. 必要に応じて、**【PowerCenter ターゲットロード順】** を選択して、統合サービスがターゲットテーブルをロードする順序を指定します。デフォルトで、このオプションは **【No】** に設定されています。
 6. **【フィールドマッピング】** ページで **【次へ】** をクリックします。
【フィルタ】 ページが表示されます。

手順 7. フィルタの定義

サブスクリプションウィザードの **【フィルタ】** ページにあるテーブルカラムでフィルタ条件を設定することで、サブスクリプションが使用するデータを定義します。

サブスクリプションがサブスクライブするトピックに対してデータリレーションが定義されている場合、フィルタはリレーションが定義されているテーブルに適用され、サブスクライバはデータリレーションによって定義されているデータのみを使用します。

フィルタ条件は、基本式と詳細式を使用して定義できます。複数の方法を使用して、テーブル行にフィルタを追加できます。

基本式

基本条件ビルダーの演算子および値が要件を満たしている場合に、テーブル行に条件を適用する場合は、この方法を使用します。例えば、**【Orders】** テーブルの **【ShippedDate】** カラムの日付が 2015 年 4 月 1 日より後であるという条件を追加します。

詳細式

PowerCenter 式を使用してテーブルにフィルタ条件を追加します。例えば、**【Orders】** テーブルに次の式を追加します。

```
(ShipCountry='USA') and ((ShipCity='New York') or (ShipCity='Los Angeles'))
```

フィルタには AND ロジックが使用されます。テーブルに複数のフィルタが存在する場合、Data Integration Hub はすべての条件を満たす行のみをターゲットに書き込みます。

1. 作成する式のタイプを選択します。
2. フィルタを適用するテーブルを **【テーブルの選択】** リストから選択します。
3. 選択した方法に従って条件パラメータを入力します。
 - 基本式: 手順 [4](#) に移動します。
 - 詳細式: 手順 [5](#) に移動します。
4. 基本式を作成するには、次の手順を実行します。
 - a. フィルタリングするカラムを **【カラムの選択】** リストから選択します。
 - b. フィルタ演算子を **【演算子の選択】** リストから選択します。使用できる演算子は、カラムの内容のタイプによって決まります。
 - c. **【値の選択】** が有効の場合、演算子の値を選択または入力します。文字列演算子の値には 90 桁まで含めることができます。数値演算子の値には 15 桁まで含めることができます。
 - d. 式の行の右にあるプラスアイコンをクリックします。条件リストに条件が表示されます。
5. 詳細式を作成するには、次の手順を実行します。
 - a. テキストフィールドに有効な PowerCenter 式を入力します。別の方法として、基本式を作成し、**【詳細式】** を選択して式を完成させることもできます。式は選択したテーブルに限定されます。式には最大 1024 文字を含めることができます。
 - b. 式の行の右にあるプラスアイコンをクリックします。条件リストに条件が表示されます。
6. 手順 [1](#)~[5](#) を繰り返し、必要な条件を追加します。
7. **【次へ】** をクリックします。
【スケジュール】 ページが表示されます。

手順 8. サブスクリプションスケジュールの定義

サブスクリプションウィザードの **【スケジュール】** ページで、サブスクリプションの方法と頻度を定義します。

1. サブスクリプションの方法および頻度を選択します。

パブリッシュされたデータが準備できた場合

パブリッシュされたデータの準備ができたなら、すぐにサブスクリプションを実行します。

手動または外部トリガを使用

スケジュールは設定されません。次の方法を使用してサブスクリプションを実行することができます。

- 手動で実行する。**【サブスクリプション】** ページの実行矢印をクリックします。
- API で実行する。サブスクリプションを開始するコマンドライン API または REST API を呼び出します。

スケジュールを使用

定義されたスケジュールに従ってサブスクリプションを実行します。次のいずれかのオプションを選択します。

- [n 分単位]。最大 60 分間隔でサブスクリプションを実行します。リストから分数を選択します。

- [時単位] 最大 24 時間間隔でサブスクリプションを実行します。リストから時間数を選択します。
- 日。毎日同じ時間にサブスクリプションを実行します。
- 週。毎週同じ曜日（1 つ以上）の同じ時間にサブスクリプションを実行します。
- 月。毎月特定の日付または特定の曜日の同じ時間にサブスクリプションを実行します。

【実行の繰り返し】 領域で配信間隔を定義します。

次のパブリケーションまたはサブスクリプションの実行が完了した後

ここで指定したパブリケーションまたはサブスクリプションの実行が完了した後、サブスクリプションが実行されます。

2. 必要に応じて、再試行ポリシーを定義します。再試行ポリシーは Data Integration Hub がサブスクリプションの実行の失敗時に再試行する回数および再試行の間隔を定義します。このポリシーは手動で実行するサブスクリプションには適用されません。
3. **【次へ】** をクリックします。
【配信】 ページが表示されます。

手順 9.配信オプションの定義

サブスクリプションウィザードの **【配信】** ページで、使用するデータの配信オプションを定義します。

1. サブスクリプションを手動で実行する場合、外部トリガを使用して実行する場合、またはスケジュールに従って実行する場合は、データ配信のスコープおよび配信形式を選択します。公開されたデータの準備ができたらずちにサブスクリプションを実行する場合は、[2](#) に進んでください。
 - 使用可能なすべてのパブリケーション。独立したサブスクリプションマッピングを使用して、公開された各データセットを処理します。
 - 使用可能なすべてのパブリケーション（集約）。公開されたすべてのデータセットをグループ化して処理し、単一データセットを配信します。
 - 最近のパブリケーションのみ。最近公開されたデータセットのみを配信します。
2. ターゲットアプリケーション内にあるデータに対する Data Integration Hub の処理方法を選択します。
 - ターゲット内の既存データに新しいデータを追加する。Data Integration Hub はテーブルに行を追加します。
 - 新しい行を挿入し、残りの行を更新する。Data Integration Hub は新しい行を挿入してから、ターゲットに存在する行を更新します。データベースにプライマリキーがある場合に使用できます。
 - 新しい行を挿入し、変更された行を更新する。Data Integration Hub は新しい行を挿入してから、ターゲットに存在する変更された行を更新します。変更された行のみを更新すると、システムパフォーマンスが低下します。データベースにプライマリキーがある場合に使用できます。
 - ターゲットからトピックに存在しない行を削除します。サブスクリプションがサブスクライブするトピックのタイプが **【完全】** の場合、またはサブスクリプションがバインドされていないサブスクリプションである場合で、新しいデータを追加する、または新しい行を挿入することを選択した場合に適用できます。
 - ターゲット内の既存データを上書きする。新しい行が挿入される前に、Data Integration Hub はターゲットテーブルを切り詰めます。

注: 新しいサブスクリプションがデータが存在するトピックにサブスクライブし、**【新しい行を挿入し、残りの行を更新する】** オプション、または **【新しい行を挿入して、変更された行を更新する】** オプションを選択する場合は、次の手順を実行します。

1. 配信オプションとして **【ターゲット内の既存データを上書きする】** を選択し、サブスクリプションウィザードを完了してサブスクリプションを保存します。
 2. サブスクリプションがサブスクライブするアプリケーションにアクセスし、**【サブスクリプション】** タブを開き、サブスクリプションの横にある **【以前のパブリケーションの取得】** アイコンをクリックします。
 3. **【以前のパブリケーションの取得】** ダイアログボックスで、**【使用済みパブリケーションを含む】** を選択し、**【実行】** をクリックします。
 4. サブスクリプションを編集して、必要な配信オプションを適用します。
3. **【次へ】** をクリックします。
【権限】 ページが表示されます。

手順 10. サブスクリプション権限の割り当て

サブスクリプションウィザードの **【権限】** ページで、操作コンソールのサブスクリプションへのアクセスを管理します。カテゴリをサブスクリプションに割り当てない場合、関連付けられているアプリケーションからのカテゴリが継承されます。カテゴリがアプリケーションに割り当てられていない場合、すべての Data Integration Hub ユーザーがサブスクリプションにアクセスできます。

1. **【使用可能なカテゴリ】** でサブスクリプションへの権限を割り当てるカテゴリを 1 つ以上選択し、右矢印をクリックします。
選択したカテゴリが **【選択したカテゴリ】** に表示されます。
カテゴリは **【選択したカテゴリ】** から **【使用可能なカテゴリ】** に割り当て解除できます。
2. **【次へ】** をクリックします。
【サマリ】 ページが表示されます。

手順 10. サブスクリプションの設定の確認およびサブスクリプションの保存

サブスクリプションウィザードの **【サマリ】** ページで、サブスクリプションの設定を確認してサブスクリプションを保存します。

1. サブスクリプションの設定を確認します。
2. **【完了】** をクリックします。
サブスクリプションウィザードが閉じます。**【アプリケーションの編集】** ページの **【サブスクリプション】** タブに、作成したサブスクリプションが表示されます。サブスクリプションのスケジュールを設定した場合は、定義したスケジュールに従ってサブスクリプションがデータを使用します。

自動フラットファイルサブスクリプションの作成

自動マッピングとフラットファイルターゲットを使用したサブスクリプションを作成するには、次のタスクを実行します。

1. **【サブスクリプション作成】** ウィザードにアクセスします。

2. 基本的なサブスクリプションプロパティを定義し、サブスクライブ先のトピックを選択します。
3. サブスクリプションで後処理を実行する場合は、後処理ワークフローを選択します。
4. 必要に応じて、サブスクリプションの結合を定義します。
5. ターゲットタイプを選択し、ターゲットファイルの構造を定義します。
6. サブスクリプションのフィルタを定義します。
7. サブスクリプションのスケジュールを定義します。
8. サブスクリプションの配信スコープおよび配信形式を定義します。
9. 必要に応じて、権限をサブスクリプションに割り当てます。サブスクリプションを割り当てるカテゴリを選択します。サブスクリプションに割り当てられるのは、関連付けられているアプリケーションに割り当てられているカテゴリのみです。
10. サブスクリプションの設定を確認して、サブスクリプションを保存します。

タスクの前提条件

このタスクを開始する前に、次の要件を確認してください。

- ターゲットファイルが存在する。
- HDFS にファイルを配信する場合、ワークフローが使用する HDFS 接続が Data Integration Hub 操作コンソールで設定されていること。
- アプリケーションが作成されている。
- トピックが作成されている。
- 後処理ワークフロー（該当する場合）の必須パラメータの設定を取得している。

手順 1. [自動フラットファイルサブスクリプションの作成] ウィザードへのアクセス

このサブスクリプション作成ウィザードは、Data Integration Hub 操作コンソールからアクセスします。

1. ナビゲータで **[ハブの管理]** > **[アプリケーション]** をクリックします。
[アプリケーション] ページが表示されます。
2. コンテンツの配信先となるアプリケーションの名前をクリックします。
[アプリケーションの編集] ページが表示されます。
3. **[サブスクリプション]** タブを選択します。**[新規]** をクリックし、**[自動]** > **[フラットファイル]** を選択してから **[作成]** をクリックします。
[自動フラットファイルサブスクリプションの作成] ウィザードが表示されます。

手順 2. 基本的なサブスクリプションプロパティの定義およびトピックの選択

サブスクリプションウィザードの **[全般]** ページで、サブスクリプションプロパティを定義してトピックを選択します。

1. サブスクリプション名を入力します。
2. 必要に応じて、サブスクリプションの説明を入力します。
3. **[モード]** リストからモードを選択します。
4. **[トピック]** リストからトピックを選択します。

【トピック構造】領域に、Data Integration Hub のデータの配信元となるトピックの構造が表示されます。トピック内のすべてのテーブルの構造を表示することも、構造を表示するテーブルを選択することもできます。

- トピックテーブルのリレーションが定義されているトピックテーブルのカラムに、プライマリキーと外部キーを適用するかどうかを選択します。サブスクリプションに対して結合が手動で定義されている場合、キーは適用されません。
- 【次へ】をクリックします。
【処理中】ページが表示されます。

手順 3. ポストプロセスワークフローの選択

サブスクリプションで後処理を実行する場合は、後処理ワークフローを選択します。

- 【後処理のワークフロー】リストから後処理ワークフローを選択し、サブスクリプションが失敗した場合にワークフローを実行するかどうかを設定します。
- ワークフローにパラメータが含まれる場合は、そのパラメータが【後処理のパラメータ】領域に表示されます。必要に応じてパラメータの値を設定します。
- 【次へ】をクリックします。
【結合】ページが表示されます。

手順 4. 結合の定義

結合を作成すると、複数のトピックテーブルからデータを取得し単一のトピックテーブルに入れることができます。

- 必要に応じて、サブスクリプションの結合を作成します。結合を作成するには、次のアクションを実行します。
 - 【左テーブルを選択】リストと【右テーブルを選択】リストから結合するトピックテーブルを選択します。
 - 【結合タイプを選択】リストから結合タイプを選択し、結合名を【結合名】フィールドに入力します。結合に割り当てる名前は、結合をターゲットテーブルにマッピングできる【フィールドマッピング】ページに表示されます。新しい結合が【結合】ページに表示されます。
 - 左テーブルから結合するカラムを選択し、次に右テーブルからも結合するカラムを選択します。他のカラムを結合に追加するには、プラス記号をクリックして結合するカラムを選択します。
 - 【結合の作成】をクリックします。
- ステップ 1 を繰り返して、必要な数の結合を作成します。
- 【次へ】をクリックします。
【ターゲット】ページが表示されます。

手順 5. サブスクリプションターゲットの選択と設定

サブスクリプションウィザードの【ターゲット】ページで、Data Integration Hub がデータを書き込むターゲットのタイプを選択し、ターゲットファイルの場所と構造を定義します。

- 【ターゲットタイプ】リストからターゲットタイプを選択します。
HDFS ターゲットタイプを選択すると、ページ上に【HDFS 接続】フィールドが表示されます。
- HDFS ターゲットタイプを選択する場合は、【HDFS 接続】リストから接続を選択します。

3. ファイル転送を使用してリモートサーバーにファイルを配信するには、**【ファイル転送の使用】** を選択します。

【接続】 フィールドがページに表示されます。

4. ファイル転送を使用するように選択している場合、**【接続】** リストから接続を選択します。
5. ターゲットファイルの場所と構造を定義します。

ディレクトリ

Data Integration Hub がターゲットファイルを作成する場所。Data Integration Hub はトピック内の各テーブルのファイルを生成します。

ターゲットファイル名のパターン

ターゲットファイルの名前のパターン。詳細については、[「フラットファイルのターゲットファイル名のパターン」 \(ページ 85\)](#)を参照してください。

コードページ

ファイルで使用される文字エンコード。

先頭行としてカラム名を使用します

ソースデータの先頭行をテーブルヘッダーとして使用します。

区切り文字

カラムを区切るためにファイル内で使用される区切り文字。事前に定義された区切り文字を選択するか、**【カスタム】** を選択してカスタムの区切り文字を定義します。サポートされているカラム区切り文字の詳細については、『*PowerCenter デザインガイド*』の区切りファイルに関するセクションを参照してください。

テキスト修飾子

オプション。文字列を囲むためにファイルで使用される記号。

桁区切り

オプション。桁区切りとしてファイル内で使用される記号。

小数点区切り

小数点記号としてファイル内で使用される記号。

日時フォーマット

ファイル内で使用される日時フォーマット。事前に定義された形式を選択するか、**【その他】** を選択してカスタム形式を定義します。サポートされている日時フォーマットの詳細については、『*PowerCenter トランスフォーメーション言語リファレンス*』の日付に関する章を参照してください。

注: 日時フォーマットには最大 50 文字を含めることができます。

6. **【次へ】** をクリックします。
【フィールドマッピング】 ページが表示されます。

フラットファイルのターゲットファイル名のパターン

フラットファイルターゲットを定義する場合、**【ターゲットファイル名のパターン】** フィールドに定義するファイル名のパターンに次の変数を含めることができます。

変数	説明
(\$Table_Name)	トピック内のデータを含むテーブルの名前。この変数を複数のテーブルを含むトピックで使用すると、テーブルカラムごとに出力ファイルを作成することができます。
(\$Time_Stamp)	サブスクリプションが実行された日時。次の形式で表されます。 yyyy-mm-dd-hh24_mi_ss
(\$Publication_Instance_Date)	パブリケーションインスタンスが作成された日付と時刻。次の形式で表されます。 yyyy-mm-dd-hh24_mi_ss この変数は、複数のパブリケーションインスタンスを区別する場合や、パブリケーションを日付でソートする場合に使用します。

例えば、file_(\$Table_Name)_(\$Publication_Instance_Date).txt パターンは次のファイル名を作成します。

file_ORDERS_2015-03-27-12_43_26.txt

手順 6. サブスクリプションフィールドマッピングの確認と編集

サブスクリプションウィザードの**【フィールドマッピング】** ページで、ターゲットテーブルとターゲットフィールドへのトピックテーブルとトピックフィールドのマッピングを確認および編集します。「手順 4. 結合の定義」で結合を作成した場合、ターゲットテーブルおよびターゲットフィールドに対する結合のフィールドマッピングを設定します。

- トピックテーブル内のフィールドを確認してターゲットテーブル内のフィールドにマッピングするには、**【フィールドマッピング】** ページで次のアクションを実行します。
 - 【フィールドマッピングの編集】** アイコンをクリックします。
【フィールドマッピングの編集】 ダイアログボックスが表示されます。
 - トピックテーブルまたはターゲットテーブルで使用されているフィールドを検索するには、**【検索フィールド】** テキストボックスにフィールド名の文字列を入力し、**【検索】** をクリックします。

マッピングされていないフィールドのみを検索結果に表示するには、**【マッピングされていないフィールドのみを表示】** を選択します。

検索文字列に一致するトピックフィールドとターゲットフィールドが表示されます。フィールド名の横にある緑色のチェックマークは、そのフィールドがマッピングされていることを示します。
 - トピックテーブルフィールドをターゲットテーブルフィールドにマッピングするには、**【トピックテーブル】** セクションから **【ターゲットテーブル】** セクションにフィールドをドラッグします。
 - 式をフィールドに追加するには、**【アクション】** カラムで、式アイコンをクリックして **【式エディタ】** を開き、フィールドおよびフィールドに追加する関数を選択します。
 - フィールドのマッピングをクリアするには、**【アクション】** カラムで、クリアアイコンをクリックします。
 - フィールドの詳細を表示するには、フィールド名の左側にある詳細アイコンをクリックします。

- g. Data Integration Hub のデフォルトのテーブルおよびフィールドマッピングに戻すには、**【自動マッピング】** をクリックします。
- h. **【OK】** をクリックしてフィールドをマッピングします。
【フィールドマッピングの編集】 ダイアログボックスが閉じます。
2. Data Integration Hub でデフォルトのテーブルマッピングとフィールドマッピングに戻すには、**【フィールドマッピング】** ページの **【自動マッピング】** をクリックします。
3. テーブルとフィールドのマッピングをすべてクリアするには、**【フィールドマッピング】** ページの **【すべてクリア】** をクリックします。
注: サブスクリプションにはマッピングされたトピックテーブルが少なくとも 1 つ含まれている必要があります。
4. **【フィールドマッピング】** ページで **【次へ】** をクリックします。
【フィルタ】 ページが表示されます。

手順 7. フィルタの定義

サブスクリプションウィザードの **【フィルタ】** ページにあるテーブルカラムでフィルタ条件を設定することで、サブスクリプションが使用するデータを定義します。

サブスクリプションがサブスクライブするトピックに対してデータリレーションが定義されている場合、フィルタはリレーションが定義されているテーブルに適用され、サブスクライバはデータリレーションによって定義されているデータのみを使用します。

フィルタ条件は、基本式と詳細式を使用して定義できます。複数の方法を使用して、テーブル行にフィルタを追加できます。

基本式

基本条件ビルダーの演算子および値が要件を満たしている場合に、テーブル行に条件を適用する場合は、この方法を使用します。例えば、[Orders] テーブルの [ShippedDate] カラムの日付が 2015 年 4 月 1 日より後であるという条件を追加します。

詳細式

PowerCenter 式を使用してテーブルにフィルタ条件を追加します。例えば、[Orders] テーブルに次の式を追加します。

```
(ShipCountry='USA') and ((ShipCity='New York') or (ShipCity='Los Angeles'))
```

フィルタには AND ロジックが使用されます。テーブルに複数のフィルタが存在する場合、Data Integration Hub はすべての条件を満たす行のみをターゲットに書き込みます。

1. 作成する式のタイプを選択します。
2. フィルタを適用するテーブルを **【テーブルの選択】** リストから選択します。
3. 選択した方法に従って条件パラメータを入力します。
 - 基本式: 手順 4 に移動します。
 - 詳細式: 手順 5 に移動します。
4. 基本式を作成するには、次の手順を実行します。
 - a. フィルタリングするカラムを **【カラムの選択】** リストから選択します。
 - b. フィルタ演算子を **【演算子の選択】** リストから選択します。使用できる演算子は、カラムの内容のタイプによって決まります。

- c. **【値の選択】** が有効の場合、演算子の値を選択または入力します。文字列演算子の値には 90 桁まで含めることができます。数値演算子の値には 15 桁まで含めることができます。
 - d. 式の行の右にあるプラスアイコンをクリックします。
条件リストに条件が表示されます。
5. 詳細式を作成するには、次の手順を実行します。
- a. テキストフィールドに有効な PowerCenter 式を入力します。別の方法として、基本式を作成し、**【詳細式】** を選択して式を完成させることもできます。式は選択したテーブルに限定されます。式には最大 1024 文字を含めることができます。
 - b. 式の行の右にあるプラスアイコンをクリックします。
条件リストに条件が表示されます。
6. 手順 **1**～**5** を繰り返し、必要な条件を追加します。
7. **【次へ】** をクリックします。
【スケジュール】 ページが表示されます。

手順 8. サブスクリプションスケジュールの定義

サブスクリプションウィザードの **【スケジュール】** ページで、サブスクリプションの方法と頻度を定義します。

1. サブスクリプションの方法および頻度を選択します。

パブリッシュされたデータが準備できた場合

パブリッシュされたデータの準備ができたなら、すぐにサブスクリプションを実行します。

手動または外部トリガを使用

スケジュールは設定されません。次の方法を使用してサブスクリプションを実行することができます。

- 手動で実行する。**【サブスクリプション】** ページの実行矢印をクリックします。
- API で実行する。サブスクリプションを開始するコマンドライン API または REST API を呼び出します。

スケジュールを使用

定義されたスケジュールに従ってサブスクリプションを実行します。次のいずれかのオプションを選択します。

- **[n 分単位]**。最大 60 分間隔でサブスクリプションを実行します。リストから分数を選択します。
- **[時単位]**。最大 24 時間間隔でサブスクリプションを実行します。リストから時間数を選択します。
- **日**。毎日同じ時間にサブスクリプションを実行します。
- **週**。毎週同じ曜日（1 つ以上）の同じ時間にサブスクリプションを実行します。
- **月**。毎月特定の日付または特定の曜日の同じ時間にサブスクリプションを実行します。

【実行の繰り返し】 領域で配信間隔を定義します。

次のパブリケーションまたはサブスクリプションの実行が完了した後

ここで指定したパブリケーションまたはサブスクリプションの実行が完了した後、サブスクリプションが実行されます。

2. 必要に応じて、再試行ポリシーを定義します。再試行ポリシーは Data Integration Hub がサブスクリプションの実行の失敗時に再試行する回数および再試行の間隔を定義します。このポリシーは手動で実行するサブスクリプションには適用されません。

3. **【次へ】** をクリックします。
【配信】 ページが表示されます。

手順 9. 配信オプションの定義

サブスクリプションウィザードの **【配信】** ページで、使用するデータの配信オプションを定義します。

1. サブスクリプションを手動で実行する場合、外部トリガを使用して実行する場合、またはスケジュールに従って実行する場合は、データ配信の範囲および配信形式を選択します。公開されたデータの準備ができたらずにサブスクリプションを実行する場合は、[2](#) に進んでください。
 - 使用可能なすべてのパブリケーション。独立したサブスクリプションマッピングを使用して、公開された各データセットを処理します。
 - 使用可能なすべてのパブリケーション（集約）。公開されたすべてのデータセットをグループ化して処理し、単一データセットを配信します。
 - 最近のパブリケーションのみ。最近パブリッシュされたデータセットを配信します。
2. ターゲットアプリケーション内にあるデータに対する Data Integration Hub の処理方法を選択します。パブリケーションタイプが差分のトピックにサブスクライブするサブスクリプションがあり、これらのサブスクリプションが使用可能なすべてのパブリケーションをコンシュームするように設定されている場合、およびサブスクリプションでファイル転送が使用される場合、この選択は無効です。
 - ターゲット内の既存データに新しいデータを追加する。Data Integration Hub はファイルにレコードを追加します。
 - ターゲット内の既存データを上書きする。Data Integration Hub はファイルを上書きします。
3. **【次へ】** をクリックします。
【権限】 ページが表示されます。

手順 10. サブスクリプション権限の割り当て

サブスクリプションウィザードの **【権限】** ページで、操作コンソールのサブスクリプションへのアクセスを管理します。カテゴリをサブスクリプションに割り当てない場合、関連付けられているアプリケーションからのカテゴリが継承されます。カテゴリがアプリケーションに割り当てられていない場合、すべての Data Integration Hub ユーザーがサブスクリプションにアクセスできます。

1. **【使用可能なカテゴリ】** でサブスクリプションへの権限を割り当てるカテゴリを 1 つ以上選択し、右矢印をクリックします。
選択したカテゴリが **【選択したカテゴリ】** に表示されます。
カテゴリは **【選択したカテゴリ】** から **【使用可能なカテゴリ】** に割り当て解除できます。
2. **【次へ】** をクリックします。
【サマリ】 ページが表示されます。

手順 10. サブスクリプションの設定の確認およびサブスクリプションの保存

サブスクリプションウィザードの **【サマリ】** ページで、サブスクリプションの設定を確認してサブスクリプションを保存します。

1. サブスクリプションの設定を確認します。

2. **【完了】** をクリックします。

サブスクリプションウィザードが閉じます。**【アプリケーションの編集】** ページの **【サブスクリプション】** タブに、作成したサブスクリプションが表示されます。サブスクリプションのスケジュールを設定した場合は、定義したスケジュールに従ってサブスクリプションがデータを使用します。

自動パススルーファイルサブスクリプションの作成

自動マッピングとパススルーファイルターゲットを使用したサブスクリプションを作成するには、次のタスクを実行します。

1. **【サブスクリプション作成】** ウィザードにアクセスします。
2. 基本的なサブスクリプションプロパティを定義し、サブスクライブ先のトピックを選択します。
3. サブスクリプションで後処理を実行する場合は、後処理ワークフローを選択します。
4. サブスクリプションターゲットを設定します。
5. サブスクリプションのフィルタを定義します。
6. サブスクリプションのスケジュールを定義します。
7. サブスクリプションの配信スコープを定義します。
8. 必要に応じて、権限をサブスクリプションに割り当てます。サブスクリプションを割り当てるカテゴリを選択します。サブスクリプションに割り当てられるのは、関連付けられているアプリケーションに割り当てられているカテゴリのみです。
9. サブスクリプションの設定を確認して、サブスクリプションを保存します。

タスクの前提条件

このタスクを開始する前に、次の要件を確認してください。

- ターゲットファイルが存在する。
- アプリケーションが作成されている。
- トピックが作成されている。
- 後処理ワークフロー（該当する場合）の必須パラメータの設定を取得している。

手順 1. **【自動パススルーファイルサブスクリプションの作成】** ウィザードへのアクセス

このサブスクリプション作成ウィザードは、Data Integration Hub 操作コンソールからアクセスします。

1. ナビゲータで **【ハブの管理】** > **【アプリケーション】** をクリックします。
【アプリケーション】 ページが表示されます。
2. コンテンツの配信先となるアプリケーションの名前をクリックします。
【アプリケーションの編集】 ページが表示されます。
3. **【サブスクリプション】** タブを選択します。**【新規】** をクリックし、**【自動】** > **【パススルーファイル】** を選択してから **【作成】** をクリックします。
【自動パススルーファイルサブスクリプションの作成】 ウィザードが表示されます。

手順 2. 基本的なサブスクリプションプロパティの定義およびトピックの選択

サブスクリプションウィザードの **【全般】** ページで、サブスクリプションプロパティを定義してトピックを選択します。

1. サブスクリプション名を入力します。
2. 必要に応じて、サブスクリプションの説明を入力します。
3. **【モード】** リストからモードを選択します。
4. **【トピック】** リストからトピックを選択します。

【トピック構造】 領域に、Data Integration Hub のデータの配信元となるトピックの構造が表示されます。トピック内のすべてのテーブルの構造を表示することも、構造を表示するテーブルを選択することもできます。

5. **【次へ】** をクリックします。
【処理中】 ページが表示されます。

手順 3. ポストプロセスワークフローの選択

サブスクリプションで後処理を実行する場合は、後処理ワークフローを選択します。

1. **【後処理のワークフロー】** リストから後処理ワークフローを選択し、サブスクリプションが失敗した場合にワークフローを実行するかどうかを設定します。
2. ワークフローにパラメータが含まれる場合は、そのパラメータが **【後処理のパラメータ】** 領域に表示されます。必要に応じてパラメータの値を設定します。
3. **【次へ】** をクリックします。
【ターゲット】 ページが表示されます。

手順 4. サブスクリプションターゲットの設定

サブスクリプションウィザードの **【ターゲット】** ページで、Data Integration Hub がファイルを配信するターゲットを設定します。

1. ファイル転送を使用してリモートサーバーにファイルを配信するには、**【ファイル転送の使用】** を選択します。
【接続】 フィールドがページに表示されます。
2. ファイル転送を使用するように選択している場合、**【接続】** リストから接続を選択します。
3. **【ディレクトリ】** フィールドに、Data Integration Hub が配信するファイル（1 つ以上）の場所を入力します。
4. トピックテーブルの横にある **【編集】** アイコンをクリックし、テーブルにターゲットファイルを割り当てます。デフォルトでは、Data Integration Hub は `<topic_table_name>_($sequence)` という形式でトピックテーブルの名前をファイル名として割り当てます。例えば、トピックテーブルの名前が `orderId` の場合、テーブルに割り当てられるファイルのデフォルト名は `orderId_($sequence)` になります。ファイル名の `<topic_table_name>` セクションは編集することができます。

ファイル名のパターンには次の変数を含めることができます。

変数	説明
(\$sequence)	必須。この変数は、複数のパブリケーションインスタンスを区別する場合や、パブリケーションを順序でソートする場合に使用します。
(\$Time_Stamp)	オプション。サブスクリプションが実行された日時。次の形式で表されます。 yyyy-mm-dd-hh24_mi_ss

以下に例を示します。

ファイル名パターン `file_($Time_Stamp)_($sequence).txt` は、次のファイル名を作成します。

`file_2015-03-27-12_43_26_1260.txt`

少なくとも 1 つのトピックテーブルのターゲットファイルを割り当てる必要があります。

5. **【ターゲット】** ページに表示されるテーブルトピックごとに手順 [4](#) を繰り返します。
6. **【次へ】** をクリックします。
- 【フィルタ】** ページが表示されます。

手順 5. フィルタの定義

ファイルメタデータにフィルタ条件を設定することにより、サブスクリプションが使用するデータを定義します。

フィルタ条件は、基本式と詳細式を使用して定義できます。複数の方法を使用して、テーブル行にフィルタを追加できます。

基本式

基本条件ビルダーの演算子および値が要件を満たしている場合に、テーブル行に条件を適用する場合は、この方法を使用します。例えば、[Orders] テーブルの [ShippedDate] カラムの日付が 2015 年 4 月 1 日より後であるという条件を追加します。

詳細式

PowerCenter 式を使用してテーブルにフィルタ条件を追加します。例えば、[Orders] テーブルに次の式を追加します。

`((ShipCountry='USA') and ((ShipCity='New York') or (ShipCity='Los Angeles')))`

フィルタには AND ロジックが使用されます。テーブルに複数のフィルタが存在する場合、Data Integration Hub はすべての条件を満たす行のみをターゲットに書き込みます。

1. 作成する式のタイプを選択します。
2. フィルタを適用するテーブルを **【テーブルの選択】** リストから選択します。
3. 選択した方法に従って条件パラメータを入力します。
 - 基本式: 手順 [4](#) に移動します。
 - 詳細式: 手順 [5](#) に移動します。
4. 基本式を作成するには、次の手順を実行します。
 - a. フィルタリングするカラムを **【カラムの選択】** リストから選択します。
 - b. フィルタ演算子を **【演算子の選択】** リストから選択します。使用できる演算子は、カラムの内容のタイプによって決まります。

- c. **【値の選択】** が有効の場合、演算子の値を選択または入力します。文字列演算子の値には 90 桁まで含めることができます。数値演算子の値には 15 桁まで含めることができます。
- d. 式の行の右にあるプラスアイコンをクリックします。
条件リストに条件が表示されます。
5. 詳細式を作成するには、次の手順を実行します。
 - a. テキストフィールドに有効な PowerCenter 式を入力します。別の方法として、基本式を作成し、**【詳細式】** を選択して式を完成させることもできます。式は選択したテーブルに限定されます。式には最大 1024 文字を含めることができます。
 - b. 式の行の右にあるプラスアイコンをクリックします。
条件リストに条件が表示されます。
6. 手順 **1**～**5** を繰り返し、必要な条件を追加します。
7. **【次へ】** をクリックします。
【スケジュール】 ページが表示されます。

手順 6. サブスクリプションスケジュールの定義

サブスクリプションウィザードの **【スケジュール】** ページで、サブスクリプションの方法と頻度を定義します。

1. サブスクリプションの方法および頻度を選択します。

パブリッシュされたデータが準備できた場合

パブリッシュされたデータの準備ができたなら、すぐにサブスクリプションを実行します。

手動または外部トリガを使用

スケジュールは設定されません。次の方法を使用してサブスクリプションを実行することができます。

- 手動で実行する。**【サブスクリプション】** ページの実行矢印をクリックします。
- API で実行する。サブスクリプションを開始するコマンドライン API または REST API を呼び出します。

スケジュールを使用

定義されたスケジュールに従ってサブスクリプションを実行します。次のいずれかのオプションを選択します。

- **[n 分単位]**。最大 60 分間隔でサブスクリプションを実行します。リストから分数を選択します。
- **[時単位]**。最大 24 時間間隔でサブスクリプションを実行します。リストから時間数を選択します。
- **日**。毎日同じ時間にサブスクリプションを実行します。
- **週**。毎週同じ曜日（1 つ以上）の同じ時間にサブスクリプションを実行します。
- **月**。毎月特定の日付または特定の曜日の同じ時間にサブスクリプションを実行します。

【実行の繰り返し】 領域で配信間隔を定義します。

次のパブリケーションまたはサブスクリプションの実行が完了した後

ここで指定したパブリケーションまたはサブスクリプションの実行が完了した後、サブスクリプションが実行されます。

2. 必要に応じて、再試行ポリシーを定義します。再試行ポリシーは Data Integration Hub がサブスクリプションの実行の失敗時に再試行する回数および再試行の間隔を定義します。このポリシーは手動で実行するサブスクリプションには適用されません。

3. **【次へ】** をクリックします。
【配信】 ページが表示されます。

手順 7. 配信スコープの定義

サブスクリプションウィザードの **【配信】** ページで、使用するデータの配信スコープを定義します。

1. データ配信スコープを選択します。
 - 使用可能なすべてのパブリケーション。独立したサブスクリプションマッピングを使用して、公開された各データセットを処理します。
 - 最近のパブリケーションのみ。最近公開されたデータセットのみを配信します。
2. **【次へ】** をクリックします。
【権限】 ページが表示されます。

手順 8. サブスクリプション権限の割り当て

サブスクリプションウィザードの **【権限】** ページで、操作コンソールのサブスクリプションへのアクセスを管理します。カテゴリをサブスクリプションに割り当てない場合、関連付けられているアプリケーションからのカテゴリが継承されます。カテゴリがアプリケーションに割り当てられていない場合、すべての Data Integration Hub ユーザーがサブスクリプションにアクセスできます。

1. **【使用可能なカテゴリ】** でサブスクリプションへの権限を割り当てるカテゴリを 1 つ以上選択し、右矢印をクリックします。
選択したカテゴリが **【選択したカテゴリ】** に表示されます。
カテゴリは **【選択したカテゴリ】** から **【使用可能なカテゴリ】** に割り当て解除できます。
2. **【次へ】** をクリックします。
【サマリ】 ページが表示されます。

手順 9. サブスクリプションの設定の確認およびサブスクリプションの保存

サブスクリプションウィザードの **【サマリ】** ページで、サブスクリプションの設定を確認してサブスクリプションを保存します。

1. サブスクリプションの設定を確認します。
2. **【完了】** をクリックします。
サブスクリプションウィザードが閉じます。**【アプリケーションの編集】** ページの **【サブスクリプション】** タブに、作成したサブスクリプションが表示されます。サブスクリプションのスケジュールを設定した場合は、定義したスケジュールに従ってサブスクリプションがデータを使用します。

自動データドリブンサブスクリプションの作成

自動データドリブンサブスクリプションを作成するには、次のタスクを実行します。

1. **【サブスクリプションの作成】** ページにアクセスします。
2. サブスクリプションプロパティを設定し、データを使用するトピックを選択します。

サブスクリプションプロパティを設定した後、[サブスクリプションの作成] ページから次の URL をコピーできます。

- API の REST URL。この URL を使用してデータをサブスクライブします。
- サブスクリプションがデータを使用するトピックの Swagger 構造の REST URL。

サブスクリプションを実行する要求を作成するときにこれらの URL を使用します。

3. 必要に応じて、権限をサブスクリプションに割り当てます。サブスクリプションを割り当てるカテゴリを選択します。サブスクリプションに割り当てられるのは、関連付けられているアプリケーションに割り当てられているカテゴリのみです。
4. サブスクリプションを実行する要求を作成します。

タスクの前提条件

このタスクを開始する前に、次の要件を確認してください。

- アプリケーションが作成されている。
- トピックが作成されている。

手順 1. [自動クラウドサブスクリプションの作成] ページへのアクセス

[サブスクリプションの作成] ページには、Data Integration Hub 操作コンソールからアクセスします。

1. ナビゲータで **[ハブの管理]** > **[アプリケーション]** をクリックします。
[アプリケーション] ページが表示されます。
2. コンテンツの配信先となるアプリケーションの名前をクリックします。
[アプリケーションの編集] ページが表示されます。
3. **[サブスクリプション]** タブを選択します。**[新規]** をクリックし、**[自動]** > **[データドリブン]** を選択してから **[作成]** をクリックします。
[自動データドリブンサブスクリプションの作成] ページが表示されます。

手順 2. サブスクリプションプロパティの定義

サブスクリプションプロパティを定義し、[サブスクリプションの作成] ページでトピックを選択します。

1. サブスクリプション名を入力します。
次の URL は自動的に更新されます。
 - API の REST URL。この URL を使用してデータをサブスクライブします。
 - サブスクリプションがデータを使用するトピックの Swagger 構造の REST URL。サブスクリプションを実行する要求を作成するときにこれらの URL を使用します。
2. 必要に応じて、サブスクリプションの説明を入力します。
3. **[モード]** リストからモードを選択します。
4. **[トピック]** リストからトピックを選択します。
[トピック構造] 領域に、Data Integration Hub のデータの配信元となるトピックの構造が表示されます。トピック内のすべてのテーブルの構造を表示することも、構造を表示するテーブルを選択することもできます。
5. データが使用可能な状態になったときに、Data Integration Hub が通知を送信する URL を入力します。

6. 必要に応じて、サブスクリプションの権限を割り当てます。**【使用可能なカテゴリ】**でサブスクリプションへの権限を割り当てるカテゴリを1つ以上選択し、右矢印をクリックします。
7. **【保存】**をクリックします。

手順 3.サブスクリプションを実行する要求の作成

サブスクリプションを実行する要求を作成するには、[「手順 2.サブスクリプションプロパティの定義」](#)（ページ 94）で作成したサブスクリプションから REST API の URL と API Swagger ファイルの URL をコピーする必要があります。

▶ 次の詳細を含む POST 要求を作成します。

- 要求 URL: REST API URL。以下に例を示します。

`http://hostname:18080/dih-console/api/v1/subscription/MySubscription/data`

MySubscription はサブスクリプション名です。

- 要求本文:

```
{ "batchSize": <records_max_number> } :
```

records_max_number は、フラッシュする前に HTTP 応答ストリームに配置できるテーブルのレコードの最大数です。

以下に例を示します。

```
{ "batchSize": 5 } :
```

records_max_number を空白のままにすると、Data Integration Hub は 5000 レコードを上限としてデフォルトのバッチサイズである 500 レコードを適用します。

カスタムバッチサブスクリプションの作成

バッチワークフローを使用したカスタムマッピングサブスクリプションを作成するには、次のタスクを実行します。

1. **【サブスクリプション作成】** ウィザードにアクセスします。
2. 基本的なサブスクリプションプロパティを定義し、サブスクライブ先のトピックを選択します。
3. サブスクリプションワークフローを選択します。ファイル転送を使用する場合、Data Integration Hub がファイルを書き込むターゲットへの接続を選択します。サブスクリプションで後処理を実行する場合は、後処理ワークフローを選択します。
4. ワークフローにパラメータが含まれる場合は、サブスクリプションのパラメータ値を設定します。
5. サブスクリプションのスケジュールを定義します。
6. 必要に応じて、権限をサブスクリプションに割り当てます。サブスクリプションを割り当てるカテゴリを選択します。サブスクリプションに割り当てられるのは、関連付けられているアプリケーションに割り当てられているカテゴリのみです。
7. サブスクリプションの設定を確認して、サブスクリプションを保存します。

タスクの前提条件

このタスクを開始する前に、次の要件を確認してください。

- サブスクリプションワークフローおよび（該当する場合は）後処理ワークフローが、Data Integration Hub 操作コンソールで設定されている。

- ファイル転送を使用する場合、ワークフローが使用する接続が Data Integration Hub 操作コンソールで設定されている。
- サブスクリプションワークフローおよび（該当する場合は）後処理ワークフローの必須パラメータの設定を取得している。
- アプリケーションが作成されている。
- トピックが作成されている。

手順 1. [カスタムバッチサブスクリプションの作成] ウィザードへのアクセス

このサブスクリプション作成ウィザードは、Data Integration Hub 操作コンソールからアクセスします。

1. ナビゲータで **[ハブの管理]** > **[アプリケーション]** をクリックします。
[アプリケーション] ページが表示されます。
2. コンテンツの配信先となるアプリケーションの名前をクリックします。
[アプリケーションの編集] ページが表示されます。
3. **[サブスクリプション]** タブを選択します。**[新規]** をクリックし、**[カスタム]** > **[バッチ]** を選択してから **[作成]** をクリックします。
[カスタムバッチサブスクリプションの作成] ウィザードが表示されます。

手順 2. 基本的なサブスクリプションプロパティの定義およびトピックの選択

サブスクリプションウィザードの **[全般]** ページで、サブスクリプションプロパティを定義してトピックを選択します。

1. サブスクリプション名を入力します。
2. 必要に応じて、サブスクリプションの説明を入力します。
3. **[モード]** リストからモードを選択します。
4. サブスクライブ先のトピックを選択して、**[トピックの追加]** をクリックします。
トピックがトピックテーブルに表示されます。
5. 必要に応じて、別のトピックにもサブスクライブし、複合サブスクリプションを作成します。
複数のトピックのデータを消費する複合サブスクリプションでは、トピック情報に **[必須]** オプションが含まれており、トピックが必須かどうかを決定します。Data Integration Hub は、サブスクリプションを実行する前に、すべての必須トピックが使用できるようになるまで待機します。デフォルトでは、複合サブスクリプション内のすべてのトピックが必須になります。サブスクリプションで必須ではないトピックに対しては、**[必須]** オプションをクリアします。
6. サブスクリプションが複合サブスクリプションの場合、**[最大...分まですべての必須トピックが使用できるようになるまで待機する]** フィールドで、最初のトピックを使用する準備ができてから、すべての必須トピックが使用できる準備ができるまでに待機する分数を指定します。
7. **[次へ]** をクリックします。
[処理中] ページが表示されます。

手順 3. サブスクリプションワークフローの選択

[サブスクリプション] ウィザードの **【処理】** ページで Data Integration Hub サブスクリプションワークフローを選択します。サブスクリプションで後処理を実行する場合は、後処理ワークフローを選択します。必要に応じてパラメータ値を設定します。

1. **【カスタムマッピング】** リストからサブスクリプションワークフローを選択します。バッチワークフローに基づいたサブスクリプションワークフローのみを選択できます。
ワークフローでファイル転送がサポートされる場合は、**【ファイル転送の使用】** オプションが有効になります。
2. ファイル転送を使用するには、**【ファイル転送の使用】** オプションを選択し、Data Integration Hub が書き込むターゲットへの接続を、**【接続】** フィールドで選択します。
3. サブスクリプションで後処理を実行するには、**【後処理マッピング】** リストから後処理ワークフローを選択し、サブスクリプションが失敗した場合にワークフローを実行するかどうかを設定します。
4. ワークフローにパラメータが含まれている場合、パラメータはこのページに表示されます。**【サブスクリプションパラメータ】** 領域と（該当する場合は）**【後処理パラメータ】** 領域で、パラメータの値を設定します。
5. **【次へ】** をクリックします。
【スケジュール】 ページが表示されます。

手順 4. サブスクリプションスケジュールの定義

サブスクリプションウィザードの **【スケジュール】** ページで、サブスクリプションの方法と頻度を定義します。サブスクリプションが複数のトピックのデータセットをコンSUMする複合サブスクリプションを作成する場合は、データがパブリッシュされたときのみデータをコンSUMするように選択できます。

1. サブスクリプションの方法および頻度を選択します。

パブリッシュされたデータが準備できた場合

パブリッシュされたデータの準備ができたなら、すぐにサブスクリプションを実行します。

注: このオプションは、Hadoop ベースのトピックにサブスクライブするサブスクリプションには該当しません。

手動または外部トリガを使用

スケジュールは設定されません。次の方法を使用してサブスクリプションを実行することができます。

- 手動で実行する。**【サブスクリプション】** ページの実行矢印をクリックします。
- API で実行する。サブスクリプションを開始するコマンドライン API または REST API を呼び出します。

スケジュールを使用

定義されたスケジュールに従ってサブスクリプションを実行します。次のいずれかのオプションを選択します。

- **[n 分単位]**。最大 60 分間隔でサブスクリプションを実行します。リストから分数を選択します。
- **[時単位]**。最大 24 時間間隔でサブスクリプションを実行します。リストから時間数を選択します。
- **日**。毎日同じ時間にサブスクリプションを実行します。
- **週**。毎週同じ曜日（1 つ以上）の同じ時間にサブスクリプションを実行します。
- **月**。毎月特定の日付または特定の曜日の同じ時間にサブスクリプションを実行します。

【実行の繰り返し】領域で配信間隔を定義します。

次のパブリケーションまたはサブスクリプションの実行が完了した後

ここで指定したパブリケーションまたはサブスクリプションの実行が完了した後、サブスクリプションが実行されます。

2. 【次へ】をクリックします。
【権限】ページが表示されます。

手順 5. サブスクリプション権限の割り当て

サブスクリプションウィザードの【権限】ページで、操作コンソールのサブスクリプションへのアクセスを管理します。カテゴリをサブスクリプションに割り当てない場合、関連付けられているアプリケーションからのカテゴリが継承されます。カテゴリがアプリケーションに割り当てられていない場合、すべての Data Integration Hub ユーザーがサブスクリプションにアクセスできます。

1. 【使用可能なカテゴリ】でサブスクリプションへの権限を割り当てるカテゴリを 1 つ以上選択し、右矢印をクリックします。
選択したカテゴリが【選択したカテゴリ】に表示されます。
カテゴリは【選択したカテゴリ】から【使用可能なカテゴリ】に割り当て解除できます。
2. 【次へ】をクリックします。
【サマリ】ページが表示されます。

手順 6. サブスクリプションの設定の確認およびサブスクリプションの保存

サブスクリプションウィザードの【サマリ】ページで、サブスクリプションの設定を確認してサブスクリプションを保存します。

1. サブスクリプションの設定を確認します。
2. 【完了】をクリックします。
サブスクリプションウィザードが閉じます。【アプリケーションの編集】ページの【サブスクリプション】タブに、作成したサブスクリプションが表示されます。サブスクリプションのスケジュールを設定した場合は、定義したスケジュールに従ってサブスクリプションがデータを使用します。

カスタムクラウドサブスクリプションの作成

カスタムマッピングおよびクラウドタスクを使用したサブスクリプションを作成するには、次のタスクを実行します。

1. 【サブスクリプション作成】ウィザードにアクセスします。
2. 基本的なサブスクリプションプロパティを定義し、サブスクライブ先のトピックを選択します。
3. サブスクリプションマッピングを実行する Informatica Intelligent Cloud Services タスクを選択します。
4. サブスクリプションのスケジュールを定義します。
5. 必要に応じて、権限をサブスクリプションに割り当てます。サブスクリプションを割り当てるカテゴリを選択します。サブスクリプションに割り当てられるのは、関連付けられているアプリケーションに割り当てられているカテゴリのみです。
6. サブスクリプションの設定を確認して、サブスクリプションを保存します。

タスクの前提条件

このタスクを開始する前に、次の要件を確認してください。

- サブスクリプションマッピングとタスクが Informatica Intelligent Cloud Services に設定されている。
- アプリケーションが作成されている。
- トピックが作成されている。

手順 1. [カスタムクラウドサブスクリプション] ウィザードへのアクセス

このサブスクリプション作成ウィザードは、Data Integration Hub 操作コンソールからアクセスします。

1. ナビゲータで **[ハブの管理]** > **[アプリケーション]** をクリックします。
[アプリケーション] ページが表示されます。
2. コンテンツの配信先となるアプリケーションの名前をクリックします。
[アプリケーションの編集] ページが表示されます。
3. **[サブスクリプション]** タブを選択します。**[新規]** をクリックし、**[カスタム]** > **[クラウド]** を選択してから **[作成]** をクリックします。
[カスタムクラウドサブスクリプションの作成] ウィザードが表示されます。

手順 2. 基本的なサブスクリプションプロパティの定義およびトピックの選択

サブスクリプションウィザードの **[全般]** ページで、サブスクリプションプロパティを定義してトピックを選択します。

1. サブスクリプション名を入力します。
2. 必要に応じて、サブスクリプションの説明を入力します。
3. **[モード]** リストからモードを選択します。
4. サブスクライブ先のトピックを選択して、**[トピックの追加]** をクリックします。
トピックがトピックテーブルに表示されます。
5. 必要に応じて、別のトピックにもサブスクライブし、複合サブスクリプションを作成します。
複数のトピックのデータを消費する複合サブスクリプションでは、トピック情報に **[必須]** オプションが含まれており、トピックが必須かどうかを決定します。Data Integration Hub は、サブスクリプションを実行する前に、すべての必須トピックが使用できるようになるまで待機します。デフォルトでは、複合サブスクリプション内のすべてのトピックが必須になります。サブスクリプションで必須ではないトピックに対しては、**[必須]** オプションをクリアします。
6. サブスクリプションが複合サブスクリプションの場合、**[最大...分ですべての必須トピックが使用できるようになるまで待機する]** フィールドで、最初のトピックを使用する準備ができてから、すべての必須トピックが使用できる準備ができるまでに待機する分数を指定します。
7. **[次へ]** をクリックします。
[処理中] ページが表示されます。

手順 3. サブスクリプションマッピングの選択

[サブスクリプション] ウィザードの **【処理】** ページで、サブスクリプションマッピングを定義する Informatica Cloud タスクを選択します。サブスクリプションで後処理を実行する場合は、後処理ワークフローを選択します。

1. **【Informatica Cloud タスク】** リストからタスクを選択します。
2. **【次へ】** をクリックします。
【スケジュール】 ページが表示されます。

手順 4. サブスクリプションスケジュールの定義

サブスクリプションウィザードの **【スケジュール】** ページで、サブスクリプションの方法と頻度を定義します。サブスクリプションが複数のトピックのデータセットをコンSUMする複合サブスクリプションを作成する場合は、データがパブリッシュされたときのみデータをコンSUMするように選択できます。

1. サブスクリプションの方法および頻度を選択します。

パブリッシュされたデータが準備できた場合

パブリッシュされたデータの準備ができたなら、すぐにサブスクリプションを実行します。

注: このオプションは、Hadoop ベースのトピックにサブスクライブするサブスクリプションには該当しません。

手動または外部トリガを使用

スケジュールは設定されません。次の方法を使用してサブスクリプションを実行することができます。

- 手動で実行する。**【サブスクリプション】** ページの実行矢印をクリックします。
- API で実行する。サブスクリプションを開始するコマンドライン API または REST API を呼び出します。

スケジュールを使用

定義されたスケジュールに従ってサブスクリプションを実行します。次のいずれかのオプションを選択します。

- [n 分単位]。最大 60 分間隔でサブスクリプションを実行します。リストから分数を選択します。
- [時単位] 最大 24 時間間隔でサブスクリプションを実行します。リストから時間数を選択します。
- 日。毎日同じ時間にサブスクリプションを実行します。
- 週。毎週同じ曜日（1 つ以上）の同じ時間にサブスクリプションを実行します。
- 月。毎月特定の日付または特定の曜日の同じ時間にサブスクリプションを実行します。

【実行の繰り返し】 領域で配信間隔を定義します。

次のパブリケーションまたはサブスクリプションの実行が完了した後

ここで指定したパブリケーションまたはサブスクリプションの実行が完了した後、サブスクリプションが実行されます。

2. **【次へ】** をクリックします。
【権限】 ページが表示されます。

手順 5. サブスクリプション権限の割り当て

サブスクリプションウィザードの **【権限】** ページで、操作コンソールのサブスクリプションへのアクセスを管理します。カテゴリをサブスクリプションに割り当てない場合、関連付けられているアプリケーションからの

カテゴリが継承されます。カテゴリがアプリケーションに割り当てられていない場合、すべての Data Integration Hub ユーザーがサブスクリプションにアクセスできます。

1. **【使用可能なカテゴリ】** でサブスクリプションへの権限を割り当てるカテゴリを 1 つ以上選択し、右矢印をクリックします。

選択したカテゴリが **【選択したカテゴリ】** に表示されます。

カテゴリは **【選択したカテゴリ】** から **【使用可能なカテゴリ】** に割り当て解除できます。

2. **【次へ】** をクリックします。

【サマリ】 ページが表示されます。

手順 6. サブスクリプションの設定の確認およびサブスクリプションの保存

サブスクリプションウィザードの **【サマリ】** ページで、サブスクリプションの設定を確認してサブスクリプションを保存します。

1. サブスクリプションの設定を確認します。

2. **【完了】** をクリックします。

サブスクリプションウィザードが閉じます。**【アプリケーションの編集】** ページの **【サブスクリプション】** タブに、作成したサブスクリプションが表示されます。サブスクリプションのスケジュールを設定した場合は、定義したスケジュールに従ってサブスクリプションがデータを使用します。

カスタムパススルー Kafka サブスクリプションの作成

このトピックでは、Apache Kafka トピックのサブスクリプションを作成する方法について説明します。

Kafka トピックのサブスクリプションを作成するには、次の手順を実行します。

1. **【サブスクリプションの作成】** ページにアクセスします。
2. 基本的なサブスクリプションプロパティを定義します。
3. サブスクリプションを保存します。

タスクの前提条件

このタスクを開始する前に、次の要件を確認してください。

- パブリケーションマッピングとタスクが Informatica Intelligent Cloud Services に設定されている。
- アプリケーションが作成されている。
- トピックが作成されている。

手順 1. [カスタムパススルー Kafka サブスクリプションの作成] ページへのアクセス

カスタムパススルー Kafka サブスクリプションを作成するには、次のタスクを実行します。

1. ナビゲータで **【ハブの管理】** > **【アプリケーション】** をクリックします。

【アプリケーション】 ページが表示されます。

2. コンテンツの公開元となるアプリケーションの名前をクリックします。
[アプリケーションの編集] ページが表示されます。
3. [サブスクリプション] タブをクリックし、[新規] をクリックしてから [カスタム] > [パススルー Kafka] > [作成] を選択します。
[カスタムパススルー Kafka サブスクリプション] ウィザードが表示されます。

手順 2. 基本的なサブスクリプションプロパティの定義

基本的なサブスクリプションプロパティを定義するには、次のタスクを実行します。

1. サブスクリプション名を入力します。
2. 必要に応じて、サブスクリプションの説明を入力します。
3. サブスクライブ先のトピックを選択して、[トピックの追加] をクリックします。
4. 必要に応じて、関連付けられているアプリケーションがカテゴリとともに割り当てられている場合はサブスクリプション権限を割り当てます。[使用可能なカテゴリ] でサブスクリプションへの権限を割り当てるカテゴリを 1 つ以上選択し、右矢印をクリックします。
5. [保存] をクリックします。
サブスクリプションは [サブスクリプション] タブに保存されます。

モジュール式クラウドサブスクリプションの作成

モジュール式マッピングとクラウドターゲットを使用してサブスクリプションを作成するには、サブスクリプションマッピングの設定に基づいて、次のタスクのすべてまたは一部を実行します。

1. [サブスクリプション作成] ウィザードにアクセスします。
2. 基本的なサブスクリプションプロパティを定義し、サブスクライブ先のトピックを選択します。
3. サブスクリプションマッピングを選択します。
4. 必要に応じて、サブスクリプションソースを設定します。
5. 必要に応じて、サブスクリプションターゲットを設定します。
6. マッピングにパラメータ化されたトランスフォーメーションが含まれている場合は、パラメータの値を設定します。
7. 必要に応じて、フィールドマッピングを設定します。
8. サブスクリプションのスケジュールを定義します。
9. 必要に応じて、権限をサブスクリプションに割り当てます。サブスクリプションを割り当てるカテゴリを選択します。サブスクリプションに割り当てられるのは、関連付けられているアプリケーションに割り当てられているカテゴリのみです。
10. サブスクリプションの設定を確認して、サブスクリプションを保存します。

タスクの前提条件

このタスクを開始する前に、次の要件を確認してください。

- サブスクリプションマッピングが Informatica Intelligent Cloud Services に設定されている。
- 必要なパラメータ設定が取得されている。
- アプリケーションが作成されている。

- トピックが作成されている。

手順 1. [モジュラークラウドサブスクリプション] ウィザードへのアクセス

このサブスクリプション作成ウィザードは、Data Integration Hub 操作コンソールからアクセスします。

1. ナビゲータで **[ハブの管理]** > **[アプリケーション]** をクリックします。
[アプリケーション] ページが表示されます。
2. コンテンツの配信先となるアプリケーションの名前をクリックします。
[アプリケーションの編集] ページが表示されます。
3. **[サブスクリプション]** タブを選択します。**[新規]** をクリックし、**[モジュール式]** > **[クラウド]** を選択してから **[作成]** をクリックします。
[モジュール式クラウドサブスクリプションの作成] ウィザードが表示されます。

手順 2. 基本的なサブスクリプションプロパティの定義およびトピックの選択

サブスクリプションウィザードの **[全般]** ページで、サブスクリプションプロパティを定義してトピックを選択します。

1. サブスクリプション名を入力します。
2. 必要に応じて、サブスクリプションの説明を入力します。
3. **[モード]** リストからモードを選択します。
4. **[トピック]** リストからトピックを選択します。
[トピック構造] 領域に、Data Integration Hub のデータの配信元となるトピックの構造が表示されます。トピック内のすべてのテーブルの構造を表示することも、構造を表示するテーブルを選択することもできます。
5. トピックテーブルのリレーションが定義されているトピックテーブルのカラムに、プライマリキーと外部キーを適用するかどうかを選択します。サブスクリプションに対して結合が手動で定義されている場合、キーは適用されません。
6. **[次へ]** をクリックします。
[処理中] ページが表示されます。

手順 3. サブスクリプションマッピングの選択

[サブスクリプション] ウィザードの **[処理中]** ページで、Informatica Cloud サブスクリプションマッピングを選択します。

1. **[クラウドマッピング]** リストからマッピングを選択します。
2. **[次へ]** をクリックします。
[ソース] ページが表示されます。

手順 4. サブスクリプションソースの設定

マッピングによってサブスクリプションソースが設定されていない場合は、サブスクリプションウィザードの【ソース】ページでソースを設定します。サブスクリプションのソースは、Data Integration Hub パブリケーションリポジトリです。

1. 必要に応じてソース設定を構成します。
2. 【次へ】をクリックします。
【ターゲット】ページが表示されます。

手順 5. サブスクリプションターゲットの設定

マッピングによってサブスクリプションターゲットが設定されていない場合は、サブスクリプションウィザードの【ターゲット】ページでターゲットを設定します。

1. 必要に応じてターゲット設定を構成します。
2. 【次へ】をクリックします。
【入力パラメータ】ページが表示されます。

手順 6. サブスクリプションパラメータの設定

マッピングにパラメータが含まれている場合、パラメータはサブスクリプションウィザードの【入力パラメータ】ページに表示されます。パラメータ値を適切に設定します。

1. 値を定義するパラメータの横にある【編集】アイコンをクリックします。
2. 【パラメータの編集】ダイアログボックスの【式】領域でパラメータ値を定義します。【フィールド】領域のフィールドをクリックして式に追加します。
【OK】をクリックします。
パラメータ値は、【入力パラメータ】ページに表示されます。
3. 手順 1～2 を繰り返し、必要なパラメータ値を設定します。
4. 【次へ】をクリックします。
【フィールドマッピング】ページが表示されます。

手順 7. サブスクリプションフィールドマッピングの設定

マッピングによってフィールドマッピングが設定されていない場合は、サブスクリプションウィザードの【フィールドマッピング】ページで、ターゲットテーブルフィールドにトピックテーブルフィールドをマッピングします。

1. 【フィールドマッピングの編集】アイコンをクリックします。
【フィールドマッピングの編集】ダイアログボックスが表示されます。
2. トピックテーブルとターゲットテーブル内のすべてのフィールドの表示、マッピングされたフィールドの表示、またはマッピングされていないフィールドの表示のいずれかを選択するには、【表示】リストから該当のオプションを選択します。
3. トピックテーブルとターゲットテーブルで使用されているフィールドを検索するには、【検索フィールド】にフィールド名の文字列を入力し、Enter を押します。検索は、大文字小文字を区別しません。サブスクリプションを検索することも可能です。
4. トピックテーブルフィールドをターゲットテーブルフィールドにマッピングするには、【デフォルト】セクションからターゲットテーブルセクションにフィールドをドラッグします。

5. 式をフィールドに追加するには、**【マッピング済みフィールド/式】** カラムで、式アイコンをクリックして**【フィールド式】** ダイアログ ボックスを開き、フィールドおよびフィールドに追加する関数を選択します。式を検証するには、**【検証】** をクリックします。
6. **【OK】** をクリックしてマッピングを適用します。
【フィールドマッピングの編集】 ダイアログボックスが閉じます。
7. **【フィールドマッピング】** ページで **【次へ】** をクリックします。
【スケジュール】 ページが表示されます。

手順 8. サブスクリプションスケジュールの定義

サブスクリプションウィザードの **【スケジュール】** ページで、サブスクリプションの方法と頻度を定義します。

1. サブスクリプションの方法および頻度を選択します。

パブリッシュされたデータが準備できた場合

パブリッシュされたデータの準備ができたなら、すぐにサブスクリプションを実行します。

手動または外部トリガを使用

スケジュールは設定されません。次の方法を使用してサブスクリプションを実行することができます。

- 手動で実行する。**【サブスクリプション】** ページの実行矢印をクリックします。
- API で実行する。サブスクリプションを開始するコマンドライン API または REST API を呼び出します。

スケジュールを使用

定義されたスケジュールに従ってサブスクリプションを実行します。次のいずれかのオプションを選択します。

- **【n 分単位】**。最大 60 分間隔でサブスクリプションを実行します。リストから分数を選択します。
- **【時単位】**。最大 24 時間間隔でサブスクリプションを実行します。リストから時間数を選択します。
- **【日】**。毎日同じ時間にサブスクリプションを実行します。
- **【週】**。毎週同じ曜日（1 つ以上）の同じ時間にサブスクリプションを実行します。
- **【月】**。毎月特定の日付または特定の曜日の同じ時間にサブスクリプションを実行します。

【実行の繰り返し】 領域で配信間隔を定義します。

次のパブリケーションまたはサブスクリプションの実行が完了した後

ここで指定したパブリケーションまたはサブスクリプションの実行が完了した後、サブスクリプションが実行されます。

2. **【次へ】** をクリックします。
【権限】 ページが表示されます。

手順 9. サブスクリプション権限の割り当て

サブスクリプションウィザードの **【権限】** ページで、操作コンソールのサブスクリプションへのアクセスを管理します。カテゴリをサブスクリプションに割り当てない場合、関連付けられているアプリケーションからの

カテゴリが継承されます。カテゴリがアプリケーションに割り当てられていない場合、すべての Data Integration Hub ユーザーがサブスクリプションにアクセスできます。

1. **【使用可能なカテゴリ】** でサブスクリプションへの権限を割り当てるカテゴリを 1 つ以上選択し、右矢印をクリックします。

選択したカテゴリが **【選択したカテゴリ】** に表示されます。

カテゴリは **【選択したカテゴリ】** から **【使用可能なカテゴリ】** に割り当て解除できます。

2. **【次へ】** をクリックします。

【サマリ】 ページが表示されます。

手順 10. サブスクリプションの設定の確認およびサブスクリプションの保存

サブスクリプションウィザードの **【サマリ】** ページで、サブスクリプションの設定を確認してサブスクリプションを保存します。

1. サブスクリプションの設定を確認します。
2. **【完了】** をクリックします。

サブスクリプションウィザードが閉じます。**【アプリケーションの編集】** ページの **【サブスクリプション】** タブに、作成したサブスクリプションが表示されます。サブスクリプションのスケジュールを設定した場合は、定義したスケジュールに従ってサブスクリプションがデータを使用します。

付録 A

用語解説

application: **アプリケーション**

他のシステムとデータを共有する必要がある、組織内のシステムを表すエンティティ。アプリケーションにはパブリッシャおよびサブスクライバを使用できます。各アプリケーションは複数のデータセットを公開できます。

Data Integration Hub **のカスタムマッピング**

データセットを処理するマッピング。このマッピングには、データのソースおよびターゲット、メタデータフォルダ、およびデータを処理するための接続が含まれます。

カスタムマッピングでは、データの処理に PowerCenter ワークフロー、Data Engineering Integration マッピング、または Informatica Cloud タスクが使用されます。ワークフローとタスクでは、データに対して複合トランスフォーメーションを実行できます。

PowerCenter ワークフローまたは Data Engineering Integration マッピングを使用するカスタムマッピングには、パラメータを含めることができます。

Data Integration Hub **の自動マッピング**

Data Integration Hub が、データ構造を維持する基本的なトランスフォーメーションロジックを使用してデータセットを処理するために自動生成するマッピング。Data Integration Hub の自動マッピングを使用してパブリケーションまたはサブスクリプションを作成した場合、Data Integration Hub はデータセットを処理するための PowerCenter のソース、ターゲット、メタデータフォルダ、および接続も作成します。

Data Integration Hub **サーバー**

パブリケーションおよびサブスクリプションの処理を Data Integration Hub で管理するサービス。Data Integration Hub サーバーは、バッチワークフローをトリガし、PowerCenter と通知を送受信します。

Data Integration Hub **リポジトリ**

Data Integration Hub でのパブリケーションおよびサブスクリプションを処理するのに必要なメタデータを含むリレーショナルデータベースセット。Data Integration Hub がのパブリケーションおよびサブスクリプションの処理中に生成するイベントも含まれています。

document store: **ドキュメントストア**

[ファイルがパブリッシュ可能になった時] スケジュールオプションが関連付けられたすべてのドキュメントを、Data Integration Hub が格納するファイルディレクトリ。アプリケーションが、**[ファイルがパブリッシュ可能になった時]** スケジュールが設定されたパブリケーションを使用してファイルソースから公開する場合、Data Integration Hub はソースディレクトリからドキュメントストアにファイルをコピーしてファイルコンテンツを処理します。このドキュメントストアディレクトリには、Data Integration Hub サーバー、Apache Tomcat サーバー、および PowerCenter 統合サービスに同じファイルパスを使用してアクセスする必要があります。

event: **イベント**

処理の各ステージでのパブリケーションまたはサブスクリプションの発生。Data Integration Hub サーバーは、パブリケーションまたはサブスクリプションの処理中に、イベントを生成し、イベントステータスを更新します。

topic: **トピック**

アプリケーションが Data Integration Hub を介して公開および使用するデータドメインを表すエンティティです。トピックはデータ構造や、データ保持期間などの追加のデータ定義を定義します。同じトピックに対して複数のアプリケーションから公開できます。複数のアプリケーションが同じトピックのデータを使用できます。

unbound subscription: **バインドされていないサブスクリプション**

特定のパブリケーションインスタンスに限定されないサブスクリプションのことです。これは、サブスクリプションフィルタに基づいてパブリケーションが公開および使用するすべてのデータにサブスクライブします。データがどのバッチでいつ公開されたかは関係ありません。

カタログ

使用可能なすべてのトピックのリスト（Data Integration Hub 内）。カタログ内の任意のトピックにサブスクライブできます。ドリルダウンしてトピックの構造を表示することも、関連付けられたパブリケーションおよびサブスクリプションを表示して編集することもできます。

サブスクリプション

Data Integration Hub パブリケーションリポジトリからデータターゲットへのデータフローのタイプ、形式、およびスケジュールを定義するエンティティ。サブスクリプションを実行すると、Data Integration Hub はパブリケーションリポジトリからデータセットを抽出し、そのデータを処理して、ターゲットアプリケーションにデータを書き込みます。1 つ以上のトピックにサブスクライブできます。トピックのリスト、サブスクライブ先の各トピックには、複数のパブリッシャのデータを格納することができます。

データ統合タスク

データ統合タスクは、データの分析、抽出、変換、およびロードを行うために構成するプロセスです。Data Integration Hub でのデータ統合タスクは、ファイル、データベースまたは別のソースから読み取り、ターゲットへ書き込むタスクのことです。データ統合タスクを使用して、Informatica Intelligent Cloud Services で、Data Integration Hub パブリケーションおよびサブスクリプションを処理します。

データ統合タスクを使用してパブリケーションを処理する場合、Data Integration Hub クラウドコネクタをパブリケーションターゲットとして使用します。データ統合タスクを使用してサブスクリプションを処理する場合、Data Integration Hub クラウドコネクタをサブスクリプションソースとして使用します。

バッチワークフロー

1 回だけ実行され、完了後に停止するワークフロー。このワークフローはファイル、データベース、または別のソースから読み取って、ターゲットに書き込みます。バッチワークフローを使用して、PowerCenter ワークフローまたは Data Engineering Integration マッピングが含まれる Data Integration Hub パブリケーションおよびサブスクリプションを処理します。

パブリケーション

データソースから Data Integration Hub パブリケーションリポジトリへのデータフロー および データパブリッシュ スケジュールを定義するエンティティ。パブリケーションは、パブリケーションリポジトリ内のデータ構造を定義するトピックにデータをパブリッシュします。パブリケーションを実行すると、Data Integration Hub はアプリケーションからデータセットを抽出し、そのデータを処理して、パブリケーション

リポジトリにデータを書き込みます。その後、パブリッシュされたデータセットを処理し、ターゲットアプリケーションに書き込むサブスクリプションを 1 つ以上作成することができます。

パブリケーションリポジトリ

サブスクライバがコンSUMするパブリッシュされたデータセットを格納するリレーショナルデータベースセット。Data Integration Hub は次の方法で、データをパブリケーションリポジトリに格納します。

- 各パブリケーションインスタンスについて、CONSUMされるデータの保持期間は、すべてのサブスクライバがデータを正常にCONSUMまたは破棄した場合にSTARTします。つまり、パブリケーションインスタンスに関連付けられたすべてのイベントのステータスが「完了」または「破棄済み」になった後です。すべてのサブスクライバがデータをCONSUMまたは破棄する場合、Data Integration Hub は、CONSUMされるデータの保持期間が終了するまでデータをパブリケーションリポジトリに保持し、その後データをパブリケーションリポジトリから削除します。
- Data Integration Hub は、CONSUMされないデータの保持期間が終了するまでデータをパブリケーションリポジトリに保持し、その後パブリケーションリポジトリからデータを削除します。

ビッグデータ

非常に大規模で複雑なため、標準的なデータベース管理ツールでは処理できないデータセット。

リアルタイムワークフロー

継続的に実行されるようスケジューリングされていて、Data Integration Hub から起動する必要がない PowerCenter のワークフロー。このワークフローはリアルタイムソースからデータを読み取り、そのデータを Data Integration Hub に書き込みます。例えば、Web サービスプロバイダまたは Java Message Service (JMS) キューを使用してデータをパブリッシュする場合などです。リアルタイムワークフローを使用すると、リアルタイムソースからデータを読み取り、そのデータを常に Data Integration Hub に書き込むことができます。リアルタイムワークフローを使用してパブリッシュする場合は、あらかじめ定義された間隔で、パブリッシュされたデータを単一のパブリケーションにグループ化します。

子イベント

親イベントとして機能する別のイベントの階層内にあるイベント。子イベントは親イベントの子です。Data Integration Hub の子イベントは、サブスクリプションを表します。

操作コンソール

アプリケーションとトピックの管理、パブリケーションとサブスクリプションの実行と監視、Data Integration Hub のユーザーアクセスの管理を実行する Web インタフェース。操作コンソールにアクセスするには Web ブラウザを使用します。

複合サブスクリプション

複数のトピックのデータセットを使用する、カスタムバッチサブスクリプションまたはカスタムクラウドサブスクリプションのいずれかのカスタムサブスクリプション。サブスクリプションのサブスクライバ先となるすべてのトピックは、同じトピックタイプである必要があります。例えば、すべてのトピックは、リレーショナルデータベースのパブリケーションリポジトリ上で管理されます。

親イベント

イベント階層の一番上のレベルにあるイベント。Data Integration Hub の親イベントは、パブリケーションを表します。親イベントには、この親イベントのステータスと、このパブリケーションへのサブスクライバを表す子イベントのステータスが両方表示されます。

集約サブスクリプション

単一バッチワークフローを使用して同じトピック内の複数のデータセットを消費するサブスクリプション。集約サブスクリプションではデータ処理に自動マッピングまたはカスタムマッピングを使用できます。自動マッピングを使用する場合、サブスクリプションはパブリケーションインスタンスのパブリケーション日時に従ってデータをソートします。

索引

B

Big Data
説明 [13](#)

H

Hub 概要
図 [16](#)
Hub 概要図
説明 [16](#)

あ

アプリケーション
定義 [13](#)

さ

サブスクリプション
概要 [14](#)
作成 [74](#)
定義 [14](#)

そ

操作コンソール
説明 [15](#)

と

トピック
構造 [20](#), [24-27](#), [31-34](#)
定義 [13](#), [20](#)
データ保持 [20](#)
パブリケーションリポジトリ [20](#)
権限 [20](#)
作成 [20](#)
接続 [20](#)
トピック構造
PowerCenter ワークフローから [26](#), [33](#)
データベースから [24](#), [31](#)
テーブルの作成 [27](#), [34](#)
ファイルから [25](#), [32](#)

は

パブリケーション
概要 [14](#)
作成 [41](#)
定義 [14](#)

ゆ

ユーザーロール
演算子 [15](#)